

そとまき 送葬。のたわくり。死人を葬りにゆくこと。
 そとまき 宗支。本家の分家。
 そとまき 宗室。一族の長たるべき子。
 そとまき 宗子。はなみ。こきみ。
 そとまき 宗室。天子の御親族。皇族。
 そとまき 宗室。すなへ。みな。なへ。
 そとまき 宗室。一つの團體の總人數の集會。
 そとまき 宗十郎頭巾。うきんの一種。四方の筒長く、後のしころ一尺ばかりにして、左右の耳を、顔を含み、俳優宗十郎より始まり、寛永の頃流行せり。
 そとまき 宗親。はなげにたなじ。
 そとまき 宗親。からたぢゆう。そらみ。親身。
 そとまき 宗親。父。母。ふたね。兩親。
 そとまき 宗親。ますます進むこと。
 そとまき 宗親。てら。寺院。精舎。
 そとまき 宗親。古、諸國の國府にありて、國內の諸神を合せ祀りし社。
 そとまき 宗親。一事を奏聞する人。群臣の奏事を、取り次ぎて奏聞する人。二借して、關白、公方の取次の御。徳川氏の頃の、奏者番の役の類。
 そとまき 宗親。一和歌、連歌等の先達。二後に、俳諧、茶室等の師匠の類。

そとまき 僧正。俗の最上の官名。大權の差等あり。
 そとまき 僧正。そらもんにたなじ。
 そとまき 僧正。朝廷に奏る書狀。疎。
 そとまき 僧正。佛敎の語。我慢のこと。目。
 そとまき 僧正。死後に、爵位を追贈せらるること。
 そとまき 僧正。徳川幕府の時、諸侯以下の者の、歳首佳節ならに、將軍に隨する者を伴ひて披露する役。
 そとまき 僧正。もろて。兩方の手。「の御」
 そとまき 僧正。奏聞して、たまはる位。古は、六位、七位
 そとまき 僧正。一つに、すなへて、いふ御。
 そとまき 僧正。のこすのかず。
 そとまき 僧正。奏聞して請ふこと。
 そとまき 僧正。草なごのむらがりたること。
 そとまき 僧正。あひかた。あひ。蹤跡。
 そとまき 僧正。僧に供ふる膳。僧の食事。
 そとまき 僧正。まごのまへ。
 そとまき 僧正。そらもんにたなじ。
 そとまき 僧正。すなへ。あはせて。みな。く。
 そとまき 僧正。一せはしく。せはしく。二さむがし
 そとまき 僧正。本家。分家。うから。
 そとまき 僧正。僧侶。俗人。俗家。

そとまき 會祖。いそがはしく。にはかに。きふに。
 そとまき 會祖。ひはは。ひはは。そらも。
 そとまき 會祖。孫の子。ひま。ひま。ひま。
 そとまき 會祖。英語 Soda, 一さうじの酸化せらるもの。
 そとまき 會祖。二が酸の類。
 そとまき 會祖。きんたにたなじ。
 そとまき 會祖。たかさの。
 そとまき 會祖。多くの人になりかはりたる人。
 そとまき 會祖。總軍を帥める大將。元帥。
 そとまき 會祖。すなへて。たか。しめたか。總領。
 そとまき 會祖。さほ。
 そとまき 會祖。送り届くること。
 そとまき 會祖。贈る。答へ。さうじ。
 そとまき 會祖。種種の物語をあつめたるもの。
 そとまき 會祖。送り届くること。
 そとまき 會祖。事務を整理する長官。「にらと」
 そとまき 會祖。ますますの。多く。悪き事
 そとまき 會祖。「そほじの音便」かかしたなじ。
 そとまき 會祖。僧正に次ぐ、大少の別ありて、各、また、正
 そとまき 會祖。權に別る四位、五位なかに準せらる僧官。
 そとまき 會祖。そらもんにたなじ。

そとまき 添水唐日。一田に、水をひく具。杖にて製す。二職類の、田島なごあらすをたさすために、水にしかけて、音のするやうにかまへたるもの。
 そとまき 總釣。遠く釣あげたる身田。
 そとまき 總釣。源朝朝、はては、の御に
 そとまき 總釣。十二調子の。春の調。
 そとまき 總釣。うみかた。あひ。蹤跡。
 そとまき 總釣。あひかた。あひ。蹤跡。
 そとまき 總釣。僧に供ふる膳。僧の食事。
 そとまき 總釣。まごのまへ。
 そとまき 總釣。そらもんにたなじ。
 そとまき 總釣。すなへ。あはせて。みな。く。
 そとまき 總釣。一せはしく。せはしく。二さむがし
 そとまき 總釣。本家。分家。うから。
 そとまき 總釣。僧侶。俗人。俗家。
 そとまき 僧三衣。僧侶の着る、三種の衣服。即ち
 そとまき 僧三衣。動物。さうじの異稱。
 そとまき 僧三衣。これら、かた。兩方。
 そとまき 僧三衣。僧の居る家。僧房。
 そとまき 僧三衣。僧のかける帽子。

そらばやしを 國怒忙。いそがはしくひまなくせはしく。
 そらばやし 國怒。男子の月代を剃らず、本髪をのほして、
 いただきに束ね結びたる髪。そらがみ。
 そらばやし 走馬燈。まはりうちうらうら。
 そらばやし 走馬燈。伎樓又は茶屋などにて、一同のもの、
 客より贈る燈籠。
 そらひつ 走筆。筆を走らして、いそぎかくらう。はちや
 そらひつ 送付。わくり届くること。ちやくんぐらう。
 そらひつ 贈賄。要ある家に贈る進物。かうてん。
 そらひつ 處分。しよばんにたなじ。⑤
 そらひつ 宗廟。たいしやう。總大將。
 そらひつ 宗廟。帝王の先祖の廟屋。れたまや。
 そらひつ 送別。旅だつ人を見送ること。
 そらひつ 送別。すべて、おしなべて。おはよそ。
 そらひつ 送別會。旅だつ人をはなむける酒
 宴。離宴。
 そらほ 増補。増したまふこと。
 そらみ 總身。そうしんにたなじ。
 そらみ 總名。一類の事物を、すべて呼ぶ名。總稱。
 そらみ 總名代。仲間一同の名代。一同の代理
 人。總代。
 そらめい 聰明。一聞くと、見るこの敏きこと。かしき
 こい。聰慧。二鹿猪の肉を、拍子木形に切りて、乾したるもの。
 釋典の時、供ふるもの。

そらもち 贈物。わくりものにななじ。
 そらもち 奏聞。天皇に聞えあぐること。奏上。
 そらもち 總門。外構への表門。
 そらもち 總門。ひよめきにたなじ。
 そらもち 贈賄。わくりあたること。物を遣はすこと。や
 そらもち 總容。他の家族を呼ぶ稱。(書讀文に用ゐる體)
 そらもち 窓翼。まごのこびり。
 そらもち 雙翼。兩方のつばさ。
 そらもち 總嫁。一妻の異稱。二種實婚の稱。元祿時代
 そらもち 總攬。すくくりに持つこと。
 そらもち 層櫓。かさなりたる山。
 そらもち 腹理。すくくりにこと。腹理。筋幹。
 そらもち 腹理。肌のきめ。
 そらもち 總理大臣。内閣の首座の大臣。元の
 太政大臣に相當す。首相。
 そらもち 層輪塔。輪の數多かさなれる塔。佛寺
 にあるもの。
 そらもち 總領。一すべをさびること。二大國の國司、
 また數國を兼務する國司。三多くわかれたる氏氏を總稱する
 嫡流の氏の人。④ 四父の跡目を繼ぐへき子。家督。嫡子。五
 男女、共に第一の子の稱。
 そらもち 總領地頭。莊園の領主の、私に置
 きたる地頭をすべをさむる武家の位。
 そらもち 僧侶。そうじにたなじ。

のねにた ごとつらた そせすしき こけくきか おえういあ

そらるる 層累。かさなり。かさね。堆積。
 そらるる 瘦贏。やするこい。
 そらるる 族類。しんるる。親族。④
 そらるる 走路。にげみちにななじ。
 そらるる 層樓。たからの。二階、三階などの家。
 そらるる 總錄。一檢校の上に位する盲人の官。二多く
 の中にて、最も好きもの。第一等の品。⑤
 そらるる 總錄司。足利義隆の時、始めて設ける職。
 法無やつかさどり、僧事を録す。
 そらるる 總論。書籍などの初めに、その書の大要を括
 みて論ずる文。小引。
 そらるる 承和色。そざらにたなじ。
 そらるる 宗和膳。宗和といふ人の、好みによりて、
 造れる膳に擬したるもの。
 そらるる 僧位。法師に賜ふ位。
 そらるる 贈位。死後に追贈せらるる位階。
 そらるる 贈遺。たくりやること。
 そらるる 楚腰。細き腰。専ら美人の腰の形容に用ゐる。や
 かなしき歌。
 そらるる 楚歌。楚人の歌。四面敵に圍まれて居て、附く如き
 そらるる 其。それが。
 そらるる 疏解。まうしひらき。いひわけ。疏解。
 そらるる 疎開。樹枝なさをかりこむこと。枝葉を切りす
 かすこと。

そらるる 阻礙。さまたぐること。
 そらるる 承和色。黄なる色。
 そらるる 粗肴。粗末なるさかな。人にすすむる時の膳稱。
 そらるる 素行。平生の行狀。常のみまづ。
 そらるる 承和菊。草の名。黄色なる花を開く新。きき
 そらるる 阻礙。ははみだつこと。
 そらるる 疎隔。うごみ遠ざかること。
 そらるる 祖格。ははみこはむこと。おとよこし。こい
 そらるる 背向。背後の方。うしろむき。背面。④
 そらるる 退。遠く離れたること。はし。そき。⑤ 萬葉集
 「山のそき野のそきみよら」
 そらるる 粉。こけらの大なるもの。屋根をまくに用ゐる。
 そらるる 削尼。あまそきにしたる髪。
 そらるる 殺板。そぎてつくりたる板。そぎた。
 そらるる 削襪。えりあしをそぎたして、細くしたる
 もの。元祿時代に流行す。
 そらるる 殺板。そぎいたの器。⑥
 そらるる 許多。そこはくにたなじ。⑦ 萬葉集「そまこ
 ちにいさりつりけりそきたくもたぎるなきかも」
 そらるる 幾許。そこはくにたなじ。⑧
 そらるる 退部。そぎにたなじ。⑨ 萬葉集「山川のそぎ
 をこほむ」

をるわ ろれるりゆ よゆや もめんむみさ けへふひは

なまの粗製。粗末なる製造。粗造。

なまの租税。ねんぐ。みつぎ。なほ。

なまの疎小。藝妓の異名。

なまの祖席。うごんじて近寄せぬこと。

なまの祖先。送別會の席。祖籍。

なまの女陰。いんもんにななじ。京都、大阪の謂。

なまの其。それそれ。

なまの祖宗。先祖。中興の祖。

なまの急遠。俗にそかし。いそがはし。あわ

たし。

なまの飛廉。草の名。花は紫色にして、葉は、よもぎに

似たり。葉に剛あり。よほほてぐさ。たにのよほほ。

なまの注水。そそぎかくる水。

なまの注網。急流にて、魚を捕ふる網。くちばそ

く、腹ひら。

なまの急遠。急にたこなふ。いそがはしくす。

なまの注。うごみだる。いりみたる。亂れさむ。

なまの注。ふりかかるとなぐれ入る。國語。一液

體を、まきもちし、又はつぎこむ。潮。二その方へ向ふ。

なまの鼠賊。こねすびら。小賊。鼠賊。

なまの粗俗。不作法なること。おしつけ。おれ。

なまの急遠。忙しく、事を行ふ。

なまの粗製。すするにたなじ。

なまの祖席。あごももなく、遊びあへくこと。散

歩。散策。

なまの漫歌。はやりうたの類。わけもなき歌。

なまの漫。身のたけの、高く舞えたるさまにいふ。

なまの漫。すするがまじにななじ。

なまの漫。たかくそびゆ。

なまの漫。すするくにたなじ。

なまの漫。なちしかね心。すするなる心。

なまの漫。すするくにたなじ。

なまの漫。なにこなくさむし。

なまの漫。すするはしにななじ。

なまの漫尾。他にすなれて、一筋長き尾の尾。

なまの粗朶。伐りさらしたる梅の枝。

なまの粗大。がらの大きなこと。

なまの鼠盗。こそこそをうばう。

なまの祖道。はなむけ。祖堂。送別會。

なまの拊。そなたたたく。

なまの育。そなたつこ。成長。成育。

なまの楚權。むすしつこ。うちたたく。

なまの育。たひはし。成長す。のど。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なまの育。そなたし。成育。

なま

なまの粗製。みだれたる製。粗造。

なまの祖席。そそけ生ず。

なまの楚楚。しごりかなるさまにらふ。

なまの祖。そそりかすこと。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なま

なまの具足。たりそなはる。

なまの其方。一方前を示すに用ゐる。そのかた。そなた。

なまの曹青母。英語 Sodium, 金属元素。一。水

なまの其方等。てまへたす。汝等。

なまの疏陳。事情をつらねて上申すこと。

なまの粗賃。料をとりて物を貸すこと。

なまの粗茶。一粗末なる茶。粗製の茶。二他人に懸す

なまの祖帳。一ちぶりの神を祭りて、門出のものを

なま

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

なまの祖。他人の心を、そそりにすすませぬ。

キツバ 卒業。卒業を畢び終るること。
 キツバ 卒業論文。學校を卒業する際、研究したる題目について書く論文。
 キツバ 卒伍。兵卒の階級。くみ。
 キツバ 卒爾。にはかに。かるはずみに。經卒に。
 キツバ 卒先。衆を卒めて、先にたつこと。先導。
 キツバ 卒然。そつじに。にたなじ。
 キツバ 卒倒。氣絶して、にはかに、たふること。
 キツバ 其方。そちにたなじ。「そにして」
 キツバ 其方退。顧りみすに。かまひつけず。よ
 キツバ 卒中。腦に充血して、急に絶息する病。卒
 キツバ 率土。あめがした。天下。
 キツバ 慄然。身の毛のよだつ感じにいふ。
 キツバ 反齒。唇より外へそれたる前歯。ては。ては。
 キツバ 反方。ほかの方。よそ。
 キツバ 卒放。ふしつけ。不作法。
 キツバ 肉汁。肉、又は野菜なきを煮出したる汁。
 キツバ 外方。そつじに。にたなじ。
 キツバ 訴追。法律の語。一旦訴へたる事件につきて、再び、その關係事件を訴ふること。

キツバ 袖。一衣の、兩腕をほすところ。二錠の一部。肩を
 袂かもの。肩甲。
 キツバ 袖扇。徳川時代に、奥女中、中老以上の用ゐ
 たる扇。長さ六寸七分。
 キツバ 粗泥。あらかべにたなじ。
 キツバ 租調。みつぎ。
 キツバ 袖移。物を授受する時、他に見えぬやうに、
 兩人、袖より、袖へ移し送ること。
 キツバ 袖香爐。袖の中にて焼へ得る香爐。袖爐。
 キツバ 袖垣。物にそへて、低くせまく造れる垣。
 キツバ 袖書。ちひさきかきつけ。
 キツバ 袖笠。袖をかざして、笠に代ふること。
 キツバ 袖貝。貝の名。あこやがひにたなじ。
 キツバ 袖交。袖をかはず。
 キツバ 反袖。袖をかはず。古の語に、袖をか
 へして寝るるときは、思ふ人を、夢に見るこいへり。
 キツバ 袖摺。人を摘め捕ふる具。長き竿の先に、鐵
 製の鋭ある刺の如きものをつけ、袖にからみつけて、ひき倒す
 に用ゐるもの。
 キツバ 袖几帳。袖をあけて、顔を掩ふこと。
 キツバ 袖舎。袖にたほひ包むこと。
 キツバ 袖括。狩衣、直衣の袖口の下に、緒をもてさ
 しくくりたるもの。
 キツバ 袖口。昔、鹿、又は車の下より出だしたる、
 女房の衣の袖。二袖の端の、手首の出づるところ。袴。

のねにた ごとつちた せせすしき こけくきか たえういあ

キツバ 袖黒鐵。鳥の名。皮に似て、毛冠なく、
 兩翼の端黒し。
 キツバ 袖毛。ものもちひ。こつじき。かたるを毛。
 キツバ 袖標。昔軍隊にて、味方の目標として、袖
 につけしもの。
 キツバ 袖風。小さきいかのほり。
 キツバ 蘇鐵。木の名。皮に、鱗甲あり。葉は、梢に發生
 す。形、鳳尾に似たり。雄に、松穂に似たる花を開き、雌に、桃
 に似たる實を結ぶ。實は、食ふべし。
 キツバ 袖頭巾。たごそつさんにたなじ。
 キツバ 袖着衣。袖をつけたる衣。
 キツバ 袖襖。袖の襖。
 キツバ 引袖襖。褌よ。人を挑む。
 キツバ 袖止。元服して、振り袖を、普通の大人の如く
 結ぶこと。
 キツバ 袖無羽織。そてなしにたなじ。
 キツバ 袖無。兩袖なくして、輸入羽織の如きもの。見
 供の着るもの。背心。襦。
 キツバ 袖直。そてなしにたなじ。
 キツバ 袖波草。植物。尾花の異名。
 キツバ 袖濡草。植物。撫子の異名。
 キツバ 袖海。別れなごのつらき時ならに、袖にた
 じかみの涙。

キツバ 袖香。袖に移りしみたる香の匂。
 キツバ 袖子。植物。稻の異名。
 キツバ 袖水。涙の、袖にかりてこぼれるもの。
 キツバ 袖筋。たつる涙を、袖にたさふるこ
 ころ。
 キツバ 袖時雨。はらはらたつる涙。
 キツバ 袖下。まひなひにたなじ。
 キツバ 袖筆。なみたにたなじ。
 キツバ 袖別。きぬぎぬのわかれ。
 キツバ 袖判。鎌倉、室町の頃、公文書に、認可の證
 として、押したる判。
 キツバ 袖屏風。そてきちやうにたなじ。
 キツバ 袖振草。植物。薄の異名。
 キツバ 袖振の字。ひらがなのの字の調。
 キツバ 振袖。袖をふりて、人を招く。
 キツバ 袖縁。そてのへり。そてぐちの周圍。
 キツバ 袖細。袖を細く仕立て、左右の脇の下を縫ひ
 たる着たる着襦。
 キツバ 袖枕。袖をまくらとすること。たまくら。
 キツバ 袖捲。うてまくりにたなじ。
 キツバ 袖外。一ほか。たもて。二特に、家、又は門の外。
 キツバ 袖豆。支那にて、袋等に用ゐる證。

をるわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

せんせんにあつて 損金袋。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 尊敬。たふさびうやまふこと。うやまひ。
 せんせんにあつて 村居。みなかすまひ。
 せんせんにあつて 躰居。うつくまること。
 せんせんにあつて 躰居。貴人の前を通る時、手をきつて通ること。
 せんせんにあつて 村墟。むらぢ。村尊。
 せんせんにあつて 尊君。他人に對しての敬語。あなた。まみ。
 せんせんにあつて 村會。その村の事件につきての會談。
 せんせんにあつて 存外。思ひの外に。案外に。
 せんせんにあつて 尊敬。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 尊兄。他人の兄の敬語。あに。令兄。同そんせんにあつてにたなじ。まみ。
 せんせんにあつて 損減。へること。
 せんせんにあつて 尊嚴。いかめしく尊きこと。
 せんせんにあつて 尊公。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 尊閥。他人の妻の敬語。令閥。令室。
 せんせんにあつて 尊者。さんせんにあつての約。
 せんせんにあつて 存在。そのままたにたなじ。
 せんせんにあつて 村莊。村里にある別荘。
 せんせんにあつて 尊札。たす紙。たより。女。
 せんせんにあつて 尊師。師の敬語。

せんせんにあつて 孫子。こひ。まじ。子孫。
 せんせんにあつて 損。さんせんにあつて。いたみ。こはれ。損跡。
 せんせんにあつて 巽一。風の神。
 せんせんにあつて 存。さんせんにあつて。知りてなること。
 せんせんにあつて 無存懸。俗にさんせんにあつてにたなじ。たもひがけなし。たもひよらずあり。
 せんせんにあつて 損色。損じたること。つしき。
 せんせんにあつて 損失。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 存。知りて居ながら。
 せんせんにあつて 尊信。尊びて信仰すること。
 せんせんにあつて 村社。郷社の下位に列する。神社の格式。
 せんせんにあつて 尊者。大臣大宰の時、第一位に坐する人。
 せんせんにあつて 村醜。みなかの儒者。村夫子。
 せんせんにあつて 尊書。他人の書狀の敬語。貴書。尊翰。榮書。
 せんせんにあつて 損所。損じたること。いたみしよ。こはれめ。
 せんせんにあつて 尊稱。うやまひて稱すること。
 せんせんにあつて 存。さんせんにあつてにたなじ。「はからず。
 せんせんにあつて 不存寄。たもひがけなく。たもひよらず。

せんせんにあつて 存寄。かんがへ。わうけん。所存。
 せんせんにあつて 存寄。考へつく。思ひよる。
 せんせんにあつて 存。そのままたにたなじ。存在す。同存。
 せんせんにあつて 存。そのままたにたなじ。保存す。
 せんせんにあつて 存。一思ふ。考ふ。二知る。たはゆ。承知してある。
 せんせんにあつて 尊崇。あがむること。うやまふこと。
 せんせんにあつて 尊體。他人の身體の敬語。
 せんせんにあつて 尊大。たかぶること。たはぶ。横柄。
 せんせんにあつて 尊大人。他人の父の敬語。尊父。
 せんせんにあつて 尊宅。他人の家の敬語。御宅。
 せんせんにあつて 尊度。たもひはかること。推奨。推崇。
 せんせんにあつて 尊答。他人の返答の敬語。貴答。
 せんせんにあつて 存知。しること。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 村長。一村の長。もこの戸長。昔の名主。びせんせんにあつて 尊長。めうへ。長者。「うやまひ。
 せんせんにあつて 尊重。たふさびたもひすること。
 せんせんにあつて 村童。みなかのわらへ。
 せんせんにあつて 損得。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 其様。そのやうな。そのままたにたなじ。
 せんせんにあつて 然。さらば。しからば。
 せんせんにあつて 存念。たもひよる。かんがへ。さんせんにあつてにたなじ。
 せんせんにあつて 存亡。のこる。ほろぶ。同存。同喪。

せんせんにあつて 尊卑。たふさぎ。いやしき。
 せんせんにあつて 存否。ある。なき。有無。
 せんせんにあつて 村婦。田舎の女。百姓の妻。
 せんせんにあつて 尊父。他人の父の敬語。尊大人。
 せんせんにあつて 巽風。いなさ。辰巳の風。「師匠。
 せんせんにあつて 村夫子。田舎の學者。村のものしり。田舎念。三人の安否を問ふこと。訪ひ尋ねること。
 せんせんにあつて 損亡。利を失ふこと。せん。失損。損手。
 せんせんにあつて 尊命。たはせ。貴命。
 せんせんにあつて 村若。はんなや。粗若。
 せんせんにあつて 尊名。他人の名の敬語。
 せんせんにあつて 存命。いきながらへてなること。存生。
 せんせんにあつて 尊來。他人の來訪の敬語。御光來。御出で。
 せんせんにあつて 村落。いなかさけ。村醜。
 せんせんにあつて 村老。むらぢ。みなか。
 せんせんにあつて 尊覽。他人に見することの敬語。
 せんせんにあつて 村吏。むらぢ。みなか。村尊。
 せんせんにあつて 尊慮。他人の思慮の敬語。たはしめし。尊考。長慮。
 せんせんにあつて 村間。むらぢ。

せんれう 損料。衣服、夜具、海圖などを貸して、その損する償として収むる錢。

せんれうかじ 損料貸。損料を借りて、衣服、夜具、海圖などを貸すこと。また、それを業とする人。

せんわら 尊王。帝王をあげめ尊ぶこと。

せんわら 尊威。天皇の孫。皇子の子。王孫。

せんお 尊位。たゞき勢ひ。御威光。

せんお 尊流。書法一流。たゞいへりうに本。

せんお 案山子。かがしをいふ。飛騨國の方言。

せんお 染飯。色をつけたる飯。

せんお 染色。染め上げたる色。

せんお 染紙。布帛に、種種の模様を染めつくるに用むる紙。模様のところだけ切りぬきにしたるもの。伊勢の名産。

せんお 染屋。染むべきもの。そめたるもの。

せんお 染物師。布帛を染むるを業とする人。こんや。こんや。染工。

せんお 染物屋。布帛を染むるを業とする家。また、染物師の住居。

せんお 染分。色を分けてそむること。また、その染分を分けるもの。

せんお 染分足袋。種種の色に染め分けたる革の足袋。

せんお 染上。上をさして、下を起す語。章、句のかしらに用ひる。それら。さなれら。さして。

せんお 染生。いかにもにたなじ。

せんお 其文字。あなた。そなた。婦人の野。

せんお 征矢。戦に用ひる矢。

せんお 初夜。しよやにたなじ。

せんお 粗野。言辭、舉動なごのあらきこと。無礼。粗野。

せんお 粗野。言辭、舉動なごのあらきこと。無礼。粗野。

ををわ ろれるり ちゆや もめんむみま ぼへふひは

せんかへす 染返。褪めたる色を、再び染めて新しくす。染め直す。

せんかみ 染紙。一種の色に染めたる紙。いろがみ。

せんかき 染木。煮出したるして、染料とする木。蘇枋木の如きもの。

せんかき 染。しよやくに。さびきあそび。たちはたらき。挑。二遊客の、恥をひちかすこと。京都の語。

せんかき 染木汁。あかねをつきて、搾取せる汁。

せんかき 染衣。そめたるきもの。

せんかき 染。そめたるきもの。二さびきて、深わあそび。かへす。

せんかき 染種。染物の料にするもの。

せんかき 染汁。染物に用ひる汁。

せんかき 染付。そまる様子。そまりたる度合。

せんかき 染付。俗に、そめつける。染めて、その色にす。

せんかき 染付。磁器に、種種の模様を焼きつくること。

せんかき 染殿。古禁中にありて、布帛を染めしむる。

せんかき 染拔。よくそめあぐる。二模様のみを、白く染めぬこと。

せんかき 染抜。よくそめあぐる。二模様のみを、白く染めていたす。

せんかき 染羽。染めたる矢の羽。

せんかき 染齒。はぐるめしたる物。

せんかき 素養。したち。學問の土養。

せんかき 素起。よびたこと。ただつ。

せんかき 素。ただつ。そそのかす。はげます。

せんかき 其奴。他人を罵り呼ぶこと。そいつ。

せんかき 疎慵。ものうきこと。おしやうなること。疎慵。

せんかき 輕風。そよそよ吹く風。

せんかき 戰。そよそよ吹く。

せんかき 戰。そよそよ吹く。

せんかき 戰。そよそよ吹く。

のねにた ごとつらた せせすしき こけくきか ねえういあ

その空。一日月星辰なるの懸れるをいふ。たはさら。虚

空。二空。とき時節。候。三空。止むる虚なきをいふ。四。空。つかり。うそ。ほろ。五。空。たはさら。六。空。一。つはりの虚を添うに用ゐる。二。虚かにその気色あるを添うに用ゐる。三。空。それ。驚かし注意せしむる語。四。空。す。たはさら。五。空。葉花物語。しやうふめつ。佛。さら。なほ。哀別離苦むきよむ。い。を。は。な。れ。た。ま。は。す。

そのあひ。空合。さら。あ。や。う。に。た。な。じ。

そのあひ。虚行。目めての外へ行くこと。

そのあひ。空色。晴れたる空の如き色。うすあをき色。

そのあひ。真狼。野の名。いたちにたなじ。

そのあひ。空。空を仰ぎて。うそ。あ。く。上。に。向。き。て。氣。息。を。吐。く。

そのあひ。空。俗に、さら。た。さ。ろ。し。い。何。こ。な。く。その。あ。ひ。を。語。覚。う。は。い。の。さ。ら。に。て。そ。の。事。を。覺。え。て。居。る。事。を。記。す。

そのあひ。空。さら。た。は。れ。に。た。な。じ。

そのあひ。空。いつはりて、たはるげなる風をすること。そ

そのあひ。空。實はかくれたるにあらねど、そこに

そのあひ。空。き。い。え。ぬ。ま。ま。に。見。せ。て。

そのあひ。空。かむあがり。崩倒。

そのあひ。空。雨降らずに降るをいふ。雨降らんとて

そのあひ。空。雨降らんとて

そのあひ。虚心。いつはりのこと。

そのあひ。虚答。いつはり答ふこと。

そのあひ。虚言。いつはりことば。うそ。は。な。し。た。は。か

そのあひ。虚鞘。刀身よりも長き鞘。

そのあひ。虚本。草の名。葉、葉、ももに川舟に似て、夏白き

そのあひ。虚死。死にたるふりをすること。

そのあひ。虚不知雨。涙の異名。

そのあひ。虚逸。一。鷹又は馬をながす。のがれしむ。二。狙

ひより外れて、他へ飛はす。三。氣をそこなふ。

そのあひ。虚反。そ。あ。や。う。に。な。す。そ。ら。し。む。

そのあひ。虚消息。いつはりの消息。

そのあひ。虚空。さ。ら。は。な。く。葉。花。を。た。き。く。ゆ。ら。す。

そのあひ。虚物。そ。ら。た。き。の。か。を。り。

そのあひ。虚頼。あ。て。に。せ。し。こ。の。そ。い。せ。ん。な。さ。し。こ。の。虚。な。き。約。束。

そのあひ。虚空。使用にたえぬ鏡。

そのあひ。虚者。知りて知らぬ風をする人。そ。ら。し。む。く。人。う。そ。つ。き。

そのあひ。虚。そ。ら。は。く。う。そ。つ。く。いつは

そのあひ。虚。開きて、開えぬ風をすること。また、そ

そのあひ。虚手。病にもあらで、何こなく、腕の痛みをこ

こ。年。老。い。た。る。人。に。多。し。

のねにた めてつちた そせすしき こけくさか 木大ういあ

そのあひ。空解。結びたる帯、紐などの、自然に解くるこ

そのあひ。空惚。そ。ら。は。け。の。こ。の。こ。

そのあひ。空。知りて、知らぬ風をす。知らぬ

そのあひ。空。空中にて、鷹が鳥を捕ふ。

そのあひ。虚名。な。ま。な。あ。だ。な。う。ま。な。

そのあひ。虚泣。な。く。ま。ね。を。す。こ。の。こ。いつはり泣く。

そのあひ。虚病。け。び。や。う。に。た。な。じ。

そのあひ。虚似。ある人に、よく似たること。

そのあひ。虚。心。の。内。に。推。し。盡。り。て。

そのあひ。虚。一。た。す。つ。か。す。に。う。か。れ。て。二。う。た。ひ。ら。し。ま。た。し。

そのあひ。虚。寐。入。り。た。る。ま。ま。に。よ。そ。は。ふ。こ。の。こ。

そのあひ。虚。いつはり。う。そ。だ。は。か。り。

そのあひ。虚。土。中。よ。り。外。へ。長。く。は。ひ。の。び。た。る。樹。木。の

そのあひ。虚。根。を。あ。が。り。

そのあひ。虚。そ。ら。に。た。な。じ。

そのあひ。虚。そ。ら。に。た。な。じ。

そのあひ。虚。涙。を。の。こ。に。ま。ま。に。見。せ。か。く。る。こ。の。こ。

そのあひ。虚。そ。ら。あ。ひ。の。強。さ。を。い。ふ。の。こ。暴。風。雨。な

そのあひ。虚。の。光。あ。る。こ。の。こ。

そのあひ。虚。俗。に、そ。ら。は。づ。か。し。い。心。差。か

し。の。河。を。な。く。は。づ。か。し。

そのあひ。虚聖。聖の風をいふこと。なまやま

そのあひ。虚吹。仰ぎて何気なき様にもまなすこと。

そのあひ。虚伏。そ。ら。ね。を。す。

そのあひ。虚。そ。ら。に。は。け。に。た。な。じ。

そのあひ。虚。心。に。は。ま。は。ら。は。ら。は。ら。の。み。に。て。響。け

そのあひ。虚。口。さ。き。は。か。り。響。め。た。り。の。こ。の。こ。伴。取。

そのあひ。虚。ま。け。た。る。ま。ね。の。こ。いつはり負けること。

そのあひ。虚。草。の。名。葉。は。や。や。方。形。に。し。て。中。空

なり。春。花。を。開。き。後。葉。を。結。ぶ。實。は。豌豆。より。大。なり。た

そのあひ。虚。な。ま。け。の。こ。の。こ。記。す。

そのあひ。虚。そ。ら。た。は。た。す。心。に。覺。え。て。居。る。語

そのあひ。虚。見。あ。や。ま。る。こ。の。こ。み。ち。が。ひ。み。そ。こ。な

そのあひ。虚。二。日。の。ひ。み。を。上。方。へ。向。く。こ。の。こ。う。は。め。を。つ

そのあひ。虚。そ。ら。に。し。ら。し。し。の。こ。の。こ。

そのあひ。虚。つ。く。り。は。な。し。の。こ。の。こ。いつはりのも

そのあひ。虚。そ。ら。の。こ。の。こ。の。こ。の。こ。の。こ。

そのあひ。虚。そ。ら。を。行。く。そ。ら。を。行。は。ぬ。こ。の。こ。

をふむ られるり の よゆ もめんむま はふひは

そのゆゑに空遊。しつゆふにたなじ。④ 萬葉集「さらゆ

よの隠れてまかせけ」

そのゆゑに虚夢。あてにならぬゆめ。(まさゆめに對し

そのゆゑに虚誦。書きたる物を見ずして、その文句を誤

そのゆゑに虚笑。偽りわらふこと。うそわらひ。つく

そのゆゑに虚醉。偽りて、酔ひたるさまをすること。

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

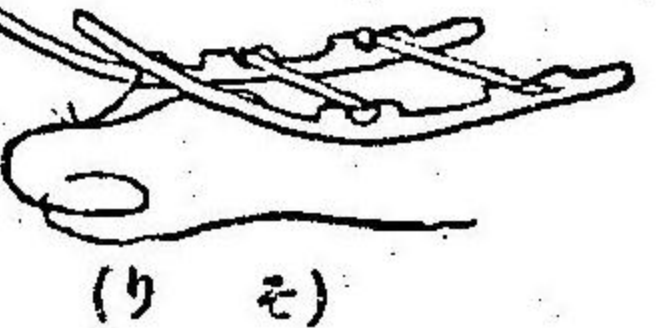
そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも

そのゆゑに反。そのまじ。そのたるさま。反張。二つこも



そのゆゑに反眞弓。反りたるまゆみ。

そのゆゑに反身。身體を、後方へ反りかへらすこと。

そのゆゑに疎林。茂りてあらぬ林。

そのゆゑに粗略。たろそかにすること。なげやう。

そのゆゑに反渡殿。そりはしに侍りたる渡殿。

そのゆゑに反。後の方へまがりかへる。

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

そのゆゑに逸。あらかたへへびゆく。離れ行く。二心

のねかにた せてつらた せせすしき こけくきか ねえういぶ

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋。中央高くして、上方に反りたるが如き

そのゆゑに反橋

そのゆゑに反橋

をえわわ ゐれるりり 上ゆや もめんむみ ぼへふひは

たいかく 臺閣。なにかくにたなじ。

たいかく 大學。一學術を、専門に教ふる最高等の學校。卒業すれば、學士の號を得。二大學寮の寮。

たいかく 大學者。學問の達人。儒學。

たいかく 大學總長。大學中の、各分科大學長を總ふる長官。

たいかく 大神樂。市中を行きめぐりて、獅子舞、品玉、又は手先の輕業等を演ずるもの。

たいかく 大學林。僧侶の學校にて、中學林を卒業したるもの、入りて、攻究するところ。この學林を卒業したるものは、他日、管長となることを得。

たいかく 大學寮。古、式部省に属せる寮。

たいかく 大學院。大學の業を卒へ、更に學術の淵奥を極むるところ。それを終へたるものは、博士の學位を賜はる。

たいかく 臺笠。被笠を、袋に入れて、棒を添へたるもの。貴人の行列に携へ用ゐる。臺傘。

たいかく 大喝。大聲にて叱ること。さなること。

たいかく 帶下。婦人科の醫者。

たいかく 帶甲。よろひをきること。武者。兵士。

たいかく 太閤。一關白を辭して、内覽の宣旨のみを發せられたる人。二關白職を手に續りたる人。

たいかん 大姦。たはわるもの。大惡人。

たいかん 大早。たはひでりにたなじ。

たいかん 對顔。たいめんにななじ。

たいかん 對岸。むかうきし。むかうがし。前岸。

たいかん 台顔。せんがんにたなじ。「の頭。

たいかん 大寒。二十四節の一。陽曆にて、一月二十日。一たはいなるうつは。大なる容れ物。二すぐれたる器。勝れたる人。

たいかん 大氣。一くうきにたなじ。二心の大きなこと。心のひろきこと。大度。大勇。

たいかん 大桅。船中の最も大なる帆柱。

たいかん 大義。義の重大なるもの。正大なる義理。

たいかん 大儀。一重大なる儀式。大典。二骨折りて疲れたること。苦勞。三幕府の財用を補ふために、諸國の領主より出金せしめしこと。足利時代の語。

たいかん 臺木。接木の臺とする、根のある木。樹砧。

たいかん 耐久。久しきに耐ふること。ながもち。

たいかん 代議士。人民に選舉せられ、國會にいてて議事に參與する人。

たいかん 代議政體。代議士を選ばしめ、政治を議せしむる政體。

たいかん 大吉。大によきこと。めでたきこと。

たいかん 大急。さやくこと。及ぶこと。

たいかん 大禁。たはひそぎ。しきふ。緊禁。重き禁制。禁令。錠。

たいかん 大金。多額の金錢。あたひ。ねだん。

たいかん 退風。うみて風すること。なすことなくして、くたびるること。俗用。

たいかん 大勳。大きなてがら。

たいかん 大君。一たはきみにたなじ。二徳川氏の頃、外國へ對して、將軍の別稱として用ゐたる語。

たいかん 帶勳。勳章をたぶること。

たいかん 退軍。戰場よりのこと。

たいかん 大軍。人數多き軍勢。

たいかん 大勳位。勳位の無上のもの。

たいかん 大勳位菊花大綬章。傳勳あるものに叙賜する勳章。章は、旭日、菊花の形を以て飾り、綬は紅紫色にて、右の肩より、左の腰に垂らして、これを帶ぶ。

たいかん 大火。大なる火災。たは火事。

たいかん 大過。一大きなあやまち。二陰謀家の語。百事を懐むべき凶日。三三日の一。

たいかん 胎禍。月足らずに、子を産むこと。牛産。

たいかん 耐火。よく、火にたふること。火にやけぬこと。

たいかん 滞貨。賣れぬりのもの。ろうずもの。

たいかん 頑壞。くづること。

たいかん 大塊。造化の神。

たいかん 大荒。そら。

たいかん 太皇太后。天皇の御祖父にあたり給ふ天皇の皇后。

たいかん 大宮司。宮職ある神社の社主の長。

たいかん 大空。たほそら。あそら。「せげ。

たいかん 待遇。もてなすこと。あしひひ。あつかひ。

たいかん 大工。一木工の棟梁。二材木を用ゐて家屋を造る職人。木工。

たいかん 大體。からだ。身體。

たいかん 大體。二鳥の名。たうするの一種。かさかの形、銀の面に似たり。

たいかん 大退却。退くこと。あそら。あじさり。

たいかん 大對客。客に接すること。客をあしらふこと。

たいかん 大逆。君父を殺し、又は、長上を殺すこと。

たいかん 大弓。通常の弓。

たいかん 大舉。一大軍を起すこと。二總がかりにて、事をなすこと。

たいかん 大虚。たほそら。大空。

たいくわらたいひ 大皇太妃。天皇の御祖父にあたらせ給ふ天皇の妃。
たいくわらたいふじん 大皇太夫人。天皇の御祖父にあたらせ給ふ天皇の夫人。
たいくわらるる 大荒落。十二支の一、巳の異稱。
たいくわん 退官。官を退くこと。官をやむこと。
たいくわん 代官。一名代の職。二徳川氏の頃、勅定奉行に属し、庄屋を支配して、年貢、人別なごをつかさどりし地。
たいくわん 大願。大なる願。
たいくわん 帯冠式。外國にて、國王即位の時、始めて、冠をつくる式。
たいくわん 代官所。代官の事務を取り扱ふ役所。今の郡役所の類。
たいけ 大家。一貴き家筋。二富める家。三豪家。
たいけ 帯下。婦人の病。こしけ。
たいけい 大慶。大に祝ひ喜ぶこと。
たいけい 大警視。警視總監の舊稱。
たいけい 大叫喚。佛敎の語。八大地獄の一。
たいけい 大教正。神道教導師の資格の一。教正に大中小あるうち、その第一の階級に属するもの。これに、また、正權の區別あり。
たいげき 大外記。外記の最上位のもの。
たいげつ 大外記。法律の語。たいしんにたなじ。
たいげふ 大業。たはしこ。偉業。

たいけん 大權。天皇の取らせたまふ權。
たいけん 帶劔。一腰に帶ぶる刀劔。二刀劔を腰に帶ぶる事。大事らしく取りなしていふこと。故言。諺言。二小事を、大事らしく取りなしていふこと。故言。諺言。
たいけん 體言。雷尾の變化せざることは。
たいけん 代言。代言人の譽。
たいけん 題言。まへがきのことば。はしがき。題辭。
たいけん 大元帥。一天皇の神の名。昔、治部省にて、正月七日より、七日間、大元帥法にて、御祈あり。二細大將。大元帥。三天皇を、陸海軍の都督者としての尊稱。
たいげん 代言人。辯護士の舊稱。
たいげん 大元法。だいげんすみの祈。
たいご 太鼓。中空のふくらかなる木の胴を造り、兩面に、獸皮を張り、棒にてうち鳴らす樂器。
たいご 太古。たほむかし。
たいご 太姑。こじうごめ。
たいご 太月。一中古に、人戸を、四等に分ちたる中の、第一等の戸。二富める家。かねもち。豪家。
たいご 大呼。大聲にて呼ははること。
たいご 隊伍。兵隊の組。
たいご 大悟。大きなさとり。
たいご 退後。あごもさり。あごびさり。
たいご 對基。圍碁の語。技の、互に相等しきこと。互に、かちまけなき碁。互先。

たいご 大根。一草の名。だいごんの譽。二器の拙き下等の俳優。
たいご 醍醐。牛乳を精製したるもの。
たいご 替問醫者。醫術に拙くして、患者の機嫌をのみぐるを務むる醫師。
たいご 退紅。一うすき桃色。二じよほくの類。桃色の狩衣を着て、履、傘なごを持つ人。
たいご 大功。大なるいさを。たほてがら。大勲。
たいご 大煩。たほつ。大煩。
たいご 太后。くわうたいごうにたなじ。
たいご 乃公。われ。たれ。親、又は貴族なごの自稱。
たいご 太鼓打。太鼓をうつ人。鼓手。
たいご 太鼓打。天皇の伯母。
たいご 太根下。だいごんたろしの譽。
たいご 黨黒。まゆずみ。
たいご 逮獄。ひごやへ入るること。
たいご 大黒。一黒天の譽。二僧の妻。梵妻。
たいご 大國。土地廣く、人口多き國。
たいご 大黒天。天竺の神。七福神の一。飲食を饗にせんこと。厨に祀る神。若物は、狩衣の如くにて、頭巾を冠り、右の手に、うち出の木槌を持ち、又袋を、肩にかけて、左手に持ち、米俵の上に座せる像。
たいご 大極殿。古、八省院の中央にありて、天皇の政をきき給へる正殿。

たいご 大黒齒。上唇にある前齒の、二本あるうち、左の方の稱。
たいご 大黒柱。一家の中央に立てる太き柱。
たいご 大黒舞。昔、正月三日より、凡そ、二月初午まで、大黒天の姿に扮して、吉原の遊廓内を、物まね狂言をなして錢を貰ひたるもの。
たいご 太鼓女郎。客にこびて、その機嫌をこる女郎。客なくして、茶をひくもの。
たいご 太鼓橋。人形つかひの術の一。
たいご 太鼓腹。そりはしにたなじ。
たいご 太鼓鏡。太鼓の胴の如く、眼れたる鏡。
たいご 太鼓鉢。銅鉢、貫輪なごにて造り、足は細く、頭は笠の形したる鉢。主に、かざりにうつもの。
たいご 太鼓虫。虫の名。やまめにたなじ。
たいご 大根。専ら根を食用とすれり、また葉、莖も食ふべし。四時絶ゆることなけれり、冬期に於て最も味よし。種類多し。蘿蔔。菜蔬。
たいご 大根下。大根を洗ひて、たろしにてた。
たいご 大根漬。大根を、鹽漬したるもの。
たいご 大根菜。大根の葉を、蒸さの稱。
たいご 太鼓持。遊客拾取のために、酒興を添ふる男。替問持。男藝者。
たいご 大根下。だいごんたろしの譽。

たいごをたたく 叩大鼓。人にへつらふ。人の機嫌を
たいご 大差。大きなちがひ。 「ころ。」
たいご 對坐。向ひあひて坐すること。偶坐。
たいご 對座。物をのする處に脚あるもの。
たいご 對裁。ていさいにたなじ。
たいご 大祭。おほまつり。ほんまつり。正式祭禮。
たいご 太歳。一木星の異名。二陰陽家の謂。入將神
 の一。
たいご 大才。大なるちえ。
たいご 大災。大きなわざはひ。
たいご 滞在。まうりうにたなじ。
たいご 待罪。罪ありて、處罰を待ち居ること。
たいご 大罪。大なる罪。重罪。
たいご 大祭日。大祭の日。おほまつりの日。
たいご 大體操。身體の各機關を壯健にせんがために、
 規則ただしきある運動をすること。
たいご 大棗。なつめの實を乾したるもの。藥用す。
たいご 體相。すがた。かたち。
たいご 胎藏。佛教の謂。たいないにたなじ。
たいご 胎藏界。佛教の謂。眞言宗の眞言。
たいご 大早計。はやまりすること。
たいご 大鷲。鳥の名。鷲の一種。形、常の鷲より大
 きくして、嘴は、秋のころ、黄色にかはる。白鷲子。

たいご 對策。古、朝廷にて、人を登用せんがため
 に、學識を試験するに當りて、題を出だして、その答文を作ら
 しめしこと。
たいご 代作。他の人に代りて、詩、歌、文章などを作
 ること。また、その作りたる詩、歌、文章。
たいご 大作。一長き詩、歌、文章。二けつかくに同じ。
たいご 題作。題を出だして、詩、歌、文章を作らしむ
 ること。
たいご 大冊。一冊数の多き一部の書物。二紙数の多
たいご 退散。集まり居たる人人の、四方へ散り退く
たいご 大山。おほやま。高山。 「しん。」退場。
たいご 代參。他人に代りて、神佛へ參詣すること。
たいご 代參。他人に代りて、神佛へ參詣すること。
たいご 泰山府君。木の名。櫻の一種。花は、
 八重にして大きく、色濃紅なり。
たいご 熊姿。すがた。かたち。
たいご 太子。かねて、帝位を嗣ぎたまふべき御方と定
 まれる皇子。皇太子。東宮。
たいご 太師。太政大臣を、淳仁天皇の時、一時改められ
たいご 太氏。宗家の意。小氏をすべをさむるもの。な
 ほ、せうしを見よ。
たいご 大使。公使より一層格の上なるもの。

たいご 僮使。しもへ。こもの。 「もの。」
たいご 大史。太政官又は神祇官の主典の最上位にある
たいご 退思。退いて考ふること。局面を離れての考。
たいご 胎兒。母の胎内にある兒供。はらこりの子。は
 らみこ。
たいご 大祀。古、天神地祇の祭祀の輕重を區別しての
 名。一箇月間探察して行ふもの。
たいご 大師。一朝廷より、高僧の僧に贈らるる尊號。二
 眞言宗にて、専ら弘法大師の稱。
たいご 内史。内閣書記官の稱。
たいご 題詩。ある物を題として作りたる詩。
たいご 大士。菩薩の名に添ふるに用ゐる。
たいご 大姉。婦人の戒名に添ふるに用ゐる。
たいご 大事。一重き事柄。重要な事件。非常の事。二
 大にすること。鄭重。
たいご 題辭。書籍の初めに、その書の主旨、又はこれに
 關係あることを記すこと。 「しての稱。」
たいご 大字。壹貳參などの字を、一三三などの字に對
たいご 大洲。たいうくにたなじ。
たいご 大師講。十一月二十三日は、天台大師忌日
 の前日にて、深山講堂をもち、俗侶の、早朝に、紅粥を、影前
 に食することあるより、俗間にても、それに倣ひて、當日、赤小
 豆粥を食ふこと。
たいご 大師粥。天台大師の忌日、即ち五月二十四
 日に煮る粥。

たいご 大悲。佛の語。觀世音の慈悲の
たいご 體質。からだのたち。
たいご 退室。後所よりまかり退くこと。退朝。退食。
たいご 第四靜慮。佛教の語。風のわざはひ。
たいご 臺火斗。じふのうに、臺のつきたるもの。
たいご 大身。身分貴き人。家富み、位高き人。
たいご 對審。法律の語。法廷にて、原被告を對ひ
 合はせて、審問すること。對決。對質。
たいご 退身。官職を辭して、退くこと。退隱。
たいご 大進。中官職、皇太后官職、大膳職などの列
 官の最上位にあるもの。
たいご 大人。一おとな。成長したる人。二有徳の人。
 君子。(小人に對して) 國父の尊稱。 國父 人の名の下に
 添ふる敬語。うし。
たいご 代診。主任の醫師に代りて、診察を行ふ人。
たいご 大臣。一太政官の高等官、即ち太政大臣、左大
 臣、右大臣、内大臣の稱。おほいもうちぎみ。おほまぢぎみ。お
 ほま、うちぎみ。おほま。二現今は、内閣、及び諸省の長官の稱。
たいご 大盡。一田舎なかにて、身代の富めるもの。家
 家。長者。二遊里なかにて、多く財を散する客。豪客。
たいご 大臣家。近衛大將を兼ねずして、大臣に任
 ぜらるるを極官せる家柄。

たいじんけち

たいじんけち 大臣闕。大臣の、かけて、その位置のあきてあること。
たいじんぞめ 太申染。太甲の二字を、模様に染めたるその模様。材木筒和泉屋基助の創意になり、徳川時代に流行せり。
たいじんぼし 大臣柱。芝居にて、本舞臺の右の方にある柱の稱。左の方を見付柱といふ。
たいじんめし 大臣召。大臣に任せられたために、召されしんおん 大審院。最上等の裁判所。院長は、判事を以て補し、親任官す。
たいぞや 退社。社中を退くこと。會社を去ること。脱社。
たいぞや 代謝。ふるきものは去りて、新しきもの入りかはること。
たいぞや 代赭。赭物。色赤黒く、質堅く、形、土塊の如し。給具す。赤鐵鑄。
たいぞや 大赦。法律の語。天下一般の罪人を赦免し、又は、減刑すること。
たいぞや 題者。宗論の時、論題を出し、また、その當否を定むる役僧。
たいぞや 壺謝。たかきの。うてな。
たいぞや 乃者。このころ。
たいぞや 大蛇。大なる蛇。をろち。
たいぞや 大將。一古、近衛府の長官。二今は陸海軍の、第一等の武官の稱。三凡て、一隊の軍勢を率ふる人。主將。將軍。四一家の主人、又は己れより長上の人の名を呼ぶを權りての稱。

たいぞや

たいぞや 念狀。一あやまり證文。わが怠りをわぶる狀。二轉じて、單に怠りを詫ぐること。あやまること。
たいぞや 退讓。辭退すること。ゆるること。
たいぞや 代償。他人に代りて辨償すること。
たいぞや 大師様。書道の一派。弘法大師を、祖とするもの。
たいぞや 大將軍。一節刀をたまはりて、官軍の總大將たる人。二一組の長。巨魁。かしら。三唐の語。八將軍の一。その年、この神の居る方は、三年塞がること。百事をなすを思む。
たいぞや 大相國。大政大臣の唐名。
たいぞや 大床子。古、天皇の御膳をのするに用ひし机。案。
たいぞや 大將代。御即位の時、儀式にあづかるために、かりに設けらる大將。
たいぞや 大嘗會。御即位の後、始めて行はせらるる新嘗祭の稱。
たいぞや 大貸借。貸すこと、借ること。かしかり。
たいぞや 帝釋天。佛教の稱。たいしやくにたなたいしやくせき 代赭石。赭物。たいしやくにたなたいぞや 太守。一古、上總、常陸、上野の三國の國守の稱。この國守には、特に、親王を任せらる。二國守大名の稱。
たいぞや 大酒。多量に、酒を飲むこと。たほさけ。多たいぞや 大對手。あひて。敵手。一飲。

たいぞや

たいぞや 大樹。一大きな樹木。二將軍の異稱。
たいぞや 大儒。大なる儒者。博學なる儒者。鴻儒。
たいぞや 大衆。たしすにたなじ。
たいぞや 大衆。數多の人人。多人數。有衆。
たいぞや 大統。たほづつ。大槓。
たいぞや 退縮。ちぢまること。ひるむこと。
たいぞや 退出。公所より罷り退くこと。後所より引き歸ること。退朝。退食。罷散。
たいぞや 大手筆。大に、筆を揮ふこと。文章をき誇ること。退朝。退食。罷散。
たいぞや 太初。このはじめ。
たいぞや 大暑。一強き暑氣。極暑。酷暑。二二十四節の一。太陽歴にて、七月二十三日ころ。
たいぞや 代書。他人に代りて、ものかくこと。
たいぞや 大序。芝居の狂言の發端。序幕。
たいぞや 大丞。入省の次官の次に位するもの、最上位にあるもの。
たいぞや 對稱。文法上の稱。對話の時、かたる人より、きく人の名にかへて用ふる。例へば、汝、君、貴殿、足下、手前等の如し。
たいぞや 大乘。佛教の語。佛法の、人をこきみちびく法。意味深くして、解しがたきもの。小乘に對していふ。
たいぞや 退食。たいしやくにたなじ。
たいぞや 退職。武官、又は法官の如き、終身官のもの、現職を退くこと。
たいぞや 對食。相向ひて、食事すること。相伴。

たいぞや

たいぞや 大食。多く食ふこと。たほぐひ。たほぐらひ。健啖。
たいぞや 褪色。色のさむること、また、さめたる色。
たいぞや 代書人。他人のために、代筆する人。
たいぞや 壺尻。小銃の手許の方に、木造にて深へたるもの。肩にあてて、狙ひを定むるための用具。銃狀。
たいぞや 回取大事。經卒に事に當らず。持重。
たいぞや 團圓帶。たぶ。はく。月矢、刀劍なきをたぶ。
たいぞや 大衆。山法師、奈良法師などの、數多あつまれるもの。
たいぞや 臺子。茶の湯の式に用ふる、四本柱の棚。たしき。
たいぞや 大數。一數學の語。十、百、千、萬、億、兆、京等の如き總稱。二大よその數。たほづもの數。一ふる算法。
たいぞや 對數。數學の語。加減法を以て、乗除法に代たいぞや 代數。數學の語。標字を以て、數字に代へて行ふ算法。點算。
たいぞや 對數表。諸數の對數を順序よく排列し、たいぞや 大介。三浦の介なきの父にして、かつて、三浦の介をつとめたりしもの。たほすけ。
たいぞや 大水。たほみづ。でみづ。
たいぞや 大醉。甚しく酒にふること。
たいぞや 大靑。草の名。あみにたなじ。
たいぞや 大聲。たほこゑ。
たいぞや 大政。治民の術。天下の政事。

たいせい 泰西。せいやうにたなじ。
 たいせい 大勢。世のむしうつる、自然のいきほひ。
 たいせい 大姓。その地の豪族。大家。大壘。財産家。
 たいせい 胎生。四生の一。人、又は獸なごの如く、母體
 にある時、すでに形をなして生るること。
 たいせい 大勢。多くの人たち。多人數。
 たいせい 待詔。詔を待つこと。
 たいせい 對照。てりあはせて比ぶること。照らし合は
 ずること。みくらばるること。
 たいせい 大小。一、大なること。小なること。二、陰曆にて、一
 箇月の日數三十日なるを、大の月といひ、二十九日なるを、小
 の月といふ。陽曆にては、日數三十一日なるを、大の月といひ、
 三十日なるを、小の月といふ。三、轉じて、ことみにたなじ。四
 刀、厨差しの併稱。
 たいせい 退席。その座をのくこと。
 たいせい 大石。大なる石。いはほ。
 たいせい 堆積。つみかさねること。つみかさね。系積。
 たいせい 大切。たいせつにたなじ。①
 たいせい 大節。重き節操。大義。
 たいせい 類雪。なだれにたなじ。
 たいせい 大雪。多くふり積る雪。たほまき。二三十
 四節の一。
 たいせい 大切。大事にすること。丁寧にすること。
 たいせい 大川。大なる川。洪河。

たいせん 大船。大なる船。たやふね。
 たいせん 苔蘚。植物。こけにたなじ。
 たいせん 大膳職。宮内省に屬して、御膳部の事を
 つかさどるもの。かしはでのつかさ。
 たいせん 大千世界。佛教の語。さんぜんせか
 いにたなじ。
 たいせん 泰然。善ちつきて、物事に動ぜぬさまにい
 ふ。自若として。
 たいせん 頹然。醉ひたるさまにいふ。
 たいせん 太祖。帝王の先祖。
 たいせん 大層。たほまき。みくらばる。甚だ。①
 たいせん 大乘。だいじやうの尊。
 たいせん 大僧正。僧正の最上位なるもの。きき。
 たいせん 大族。大なるいさづかひをするもの。ためい。
 たいせん 大孫。天皇の御孫。皇孫。
 たいせん 怠惰。たごたること。なまぐること。怠慢。
 たいせん 對對。たいごうにたなじ。
 たいせん 大隊。兵制に、幾個かの隊を併せたる一組。
 たいせん 大體。たほかた。あらまし。大要。大要。
 たいせん 代代。よよ。歷代。累代。

たいたい 燈。木の名。燄きは刺ありて、老いたるはなし。
 夏の半に、小白花を開き、實を結ぶ。皮は、香氣あり。味、苦く
 酸し。回青燈。
 たいたい 太神樂。伊勢の神宮にて行ふ神樂
 たいたい 代替物。急りがまし。なほざりがちなり。①
 たいたい 代替物。法律の語。たなじ種類の物を以
 て、相互に代用し得らるる物。
 たいたい 太發意。たいはつちの體。①
 たいたい 大内裏。古の平安城の内庭にありし宮城
 の稱。東西八町、南北十町あり。
 たいたい 帶刀。一腰に、刀を帶ぶること。二徳川時代
 に、士にあらすして、双刀を帶ぶることを許さるること。
 たいたい 大道。一助かすべからず、また更ふべからざ
 る道理。人の行ふべき道。二たほまき。大略。
 たいたい 廼堂。他人の母の敬稱。
 たいたい 大唐米。稻の一種。たうはしにたなじ。
 たいたい 大多數。非常に多數なること。
 たいたい 太發意。肥えふさがりたる人を、罵り
 ての稱。たいはいほつち。
 たいたい 對談。むかひあひて話すること。對話。談合。
 たいたい 大膽。膽太きこと。物に怖ぢざること。膽勝。
 たいたい 大膽者。膽ふさき人。不取もの。
 たいたい 大團圓。たほまき。大尾。

たいち 大智。すぐれたる智慧。「平くさること」
 たいち 退治。敵、又は妖怪なごを討ち退くること。討ち
 たいち 對峙。相向ひて、並び立つこと。峙立。
 たいち 駄市。牛馬を賣買する市。
 たいち 大地。地球の表面。
 たいち 對陣。兩軍、相むかひて陣取ること。
 たいち 退陣。陣をひき拂ふこと。ちんはらひの退軍。
 たいち 隊長。一軍隊の長官。
 たいち 台聽。貴人の耳にいること。たまき。
 たいち 大廳。たほまき。こころにたなじ。「福帳」
 たいち 臺帳。賣買の高を記したく帳面。元帳。大
 たいち 大腸。人間の小腹の下部にある臟腑。長さ、
 凡そ五尺あり。
 たいち 大丈夫。ちやうぶにたなじ。①最も雄
 全に、極めて堅牢に。萬全。②
 たいち 胎中。腹のうち。胎内。
 たいち 大女。成長して、大人となりたる女。
 たいち 退治。討ちしりぞく。討ち滅す。①
 たいち 大都。たほまき。たほまき。
 たいち 大豆。草の名。葉、まろくして末尖り、秋、小白花
 を開く。その實は味噌、醤油、豆腐なごを造るに用ゐる。種類
 たいち 大通。つうじんにたなじ。
 たいち 太弟。天皇の御弟。皇弟。

たいてい 大抵。たほよそ。あらかた。大概。大都。
 たいてう 退朝。役所より退くこと。
 たいてん 大敵。人数多く、勢強き敵。
 たいてん 大典。大きな儀禮。
 たいてん 退轉。身代がきりして、他に移ること。家潰れて、他に轉すること。
 たいと 泰斗。一泰山、北斗。二人の師として、崇敬すべき人。
 たいと 大都。大きなみやこ。國たほよそ。
 たいと 態度。すがた。なりふり。
 たいと 大度。心がまへのひろきこと。大量。
 たいと 大統。天皇の御系統。あまつひつぎ。
 たいと 大統。陛下、又は尊して、將軍などの出御する時、たつる大なるはた。
 たいと 撞頭。文章の中にて、敵ふべき語を、次の行へ送り、欄より一字上に出だしてしるすこと。
 たいと 對等。相ならびてひしきこと。同等。
 たいと 大頭菜。草の名。かぶらにたなじ。
 たいと 大童子。わかもの。壯年の人。
 たいと 大同小異。大概は相似て、僅かに違ふこと。
 たいと 對等條約。双方の權利、義務の上にて、差等なき條件契約。
 たいと 大統領。共和政治國の政府の、最高等に當る者。

たいと 胎毒。見供の、胎中より受けたる毒。くさ。
 たいと 大徳。一名僧智識の稱。二一般に、僧の敬稱。
 たいと 胎毒下。見供の胎毒をくだして治すこと。
 たいと 大徳人。富有なる人。ものもち。「る」。
 たいと 大都會。最も繁華なる土地。
 たいと 大徳。だいきくにたなじ。
 たいと 臺所。だいきこの臺。
 たいと 臺所。人家にて、煮炊きするところ。くりや。か。庵。
 たいと 臺所刀自。判茶なきの如き、だいきこのに關りたることを扱ふ人。
 たいと 臺所人。徳川時代に、煮、炊、料理の事を司りたる小使。
 たいと 臺所船。料理たる物の腐敗を防ぐために、これを浮けおく船。
 たいと 大都督。總軍を統べひきある人。
 たいと 胎内。はらこもりにたなじ。「に對して」
 たいと 大内記。内記の上位にあるもの。(少内記のころに、ちがやなごにて、大なる輪をつくり、藝語人をして、またぎくらしむること。二甲斐國南都留郡吉田口の途中、鈴原の内にある岩洞。ここに入りたるもの、標を以て、懐胎婦人の腹帯に用ひれば、安産すといひ傳ふ。
 たいと 大納言。太政官の次官。正、權の別あり。右大臣の次に列して、大政に參與す。

たいと 大納言小豆。赤あづきの一種。粒、大きくして、色、殊に赤く、味、最も美なり。「
 たいと 臺無。甚だしく破れ損じたるさまにいふ。
 たいと 滯納。上納物の期限を滞らすこと。
 たいと 大難。大なるわざはひ。甚しき難難。
 たいと 大貳。太宰府の次官。
 たいと 第二審。法律の罪。控訴院の審判の稱。
 たいと 大日。如來の一。毘盧遮那をいふ、或は釋迦の應化といふ。
 たいと 大任。重き役目。大任。重任。
 たいと 耐忍。たへしのぶこと。こらふること。辛抱。
 たいと 對人擔保。法律の罪。人を以て、債權の擔保すること。
 たいと 大熱。甚しき熱度。「御の創めたるもの」
 たいと 大念佛宗。佛教の宗派の一。僧道
 たいと 大腦。腦髓の一部。前方に位する大なる部分。
 たいと 對屋。昔、禁中、貴人などの屋敷に、寢殿の左右に造りたる、はなれ家。女房などの住居すること。
 たいと 大波。たほなる。怒濤。
 たいと 大破。大きく破れ損すること。大破損。
 たいと 臺場。海陸の要地に、大砲をすて、敵の軍艦などを打ち破るために設けたること。砲臺。
 たいと 大盃。大なるさかづき。
 たいと 大施。天皇の御旗。

たいと 頰敗。やぶれくづること。すたること。
 たいと 大敗。たほまけ。
 たいと 帶佩。太刀をはくこと。「四方。諸路」
 たいと 大方。心ひろき人。大度なる人。二たはかた。
 たいと 大砲。たほつにつにたなじ。
 たいと 大望。たいまうにたなじ。
 たいと 大寶律。文武天皇の大寶年間(制定せられし法律)。
 たいと 大寶令。文武天皇の大寶年間に制定されし法律。
 たいと 臺衡。臺のつきたるはかり。西洋衡。
 たいと 頰魄。陰曆十五日後の月の稱。
 たいと 太白。一太白星の星。二白砂糖の純白なるもの。上白。三白き圓筒。四大なる。五白き絹絲の太きもの。
 たいと 太白星。金星の異名。
 たいと 大八車。荷車の大きなもの。
 たいと 胎髮。うぶげにたなじ。
 たいと 大法。國のたきて。
 たいと 大凡。たほよそ。たほかた。大抵。大都。
 たいと 大牛。くわはんにたなじ。
 たいと 胎盤。えな。胎衣。
 たいと 臺盤。一食器をのする具。膳の横長きもの。二飯をいふ。薩摩國の方言。
 たいと 大盤石。一大きないはほ。二物の、堅固にして動かざるにたとへていふ。

たいはんと 圖 臺盤所。一宮中にて、臺盤を置くこと。二大臣、大將などの夫人の敬稱。御臺所。〇

たいはん 圖 大般若。檀物。葉の異名。

たいひ 圖 退避。よくること。さくること。

たいひ 圖 大悲。大なる慈悲。

たいひ 圖 大悲者。一くわんぜんにわたる。二慈悲ぶかき人。〇

たいひ 圖 貸費生。官、又はその學校より、貸し與へて修學せしむる學生。

たいひつ 圖 代筆。人に代りて書くこと。

たいひやう 圖 大病。おもき病。重病。

たいひやう 圖 大拍子。芝居の場物に、大太鼓を入れて打つこと。御殿の啓明きなきに用ふる。

たいふ 圖 大夫。一五位の人の通稱。二六位の丞の、五位になりたるもの。三能、狂言、淨瑠璃、その他、雜技者、若くは、遊女のかしら立ちたるもの。四大名の家老、重臣の敬稱。

たいふ 圖 大輔。古の省の次官。少輔の上に列す。

たいふ 圖 大部。書籍の冊数の多きこと。大冊。

たいふ 圖 内府。附大臣の異稱。

たいふ 圖 乃父。父が、子に對して、己の名に代りて稱するしき(禮)の長官。〇

たいふ 圖 大分。なほかた。よほさ。〇

たいふう 圖 大風。なほかた。烈しく吹く風。強風。

たいふう 圖 泰風。西風の異稱。

たいふか 圖 大夫鹿子。かのこの如くに、紺屋形を以て染めたる染色。

たいふく 圖 大福。一大に富みて、福あること。二大福餅

たいふく 圖 大福帳。商家の簿。だいちやうに木なじ。

たいふく 圖 大福長者。大福なる人。甚だ富

たいふく 圖 大福徳。大に富めること。

たいふく 圖 大福餅。餅を包みて、圓く盛めたる餅。

たいふく 圖 大福狂。遊女買に耽ること。元祿時代の語。

たいふけい 圖 大不敬。三皇、又は皇族に對しての無禮。

たいふご 圖 大夫子。わかつての後者。元祿時代の語。

たいふご 圖 大夫將監。一五位の大夫にて、將監になりたるもの。二將監にて、五位になりたるもの。

たいふつ 圖 大佛。大なる佛像。皇臣秀吉の創建。

たいふつ 圖 大佛餅。古、京都大佛の門前にて賣りたる餅。

たいふまん 圖 大

夫饅頭。昔、六月の

たいふん 圖 台聞。高貴の人の耳に入ること。



(つよいだ)

のねにた ごとつらた そせすしき こけくきか ねえういあ

たいふん 圖 大分。なほかた。よほさ。〇

たいふもと 圖 大夫元。芝居なら興行する金主。

たいへい 圖 大兵。あまたの兵。

たいへい 圖 太平。世の中の、よく治まれること。世の穩かなること。昇平。泰平。

たいへい 圖 太平記讀。今の講談師の異稱。一の。

たいへい 圖 太平酒。酒の一種。神樂より産するもの。

たいへい 圖 大平布。琉球より産する織物。賣丈夫なり。盤ならに用ふる。

たいへい 圖 太平樂。一雅樂の曲の名。二氣儘勝手

たいへい 圖 大廟。天子のたたまや。

たいへい 圖 代表。その事にかはること。代理。

たいへい 圖 代表者。代表する人。

たいへい 圖 大別。大凡に別つこと。なほわけ。

たいへい 圖 大別當。院宣廳の長官。

たいへい 圖 大變。非常の變事。なほごころ。

たいへい 圖 大便。くそ。人糞。屎。

たいへい 圖 代辨。他人に代りて、事を辨すること。

たいへい 圖 退歩。あごじさりすること。しりみすること。あごのちり。

たいほ 圖 苦喃。航海者の異名。

たいほ 圖 速捕。罪人を捕ふること。

たいほ 圖 太母。祖母をいふ。

たいほ 圖 大封。大なる領分。

たいほ 圖 大速捕監禁。法律の語。私に、人をこらへて家にわしめたること。

たいほ 圖 大木。大なる樹木。

たいほ 圖 大本。なほもと。基。

たいほ 圖 大犯。重罪を犯すこと。

たいほ 圖 大本營。大元帥の居ます軍營。

たいほ 圖 退凡下乘。釋迦の、靈鷲山にて説法せる時、それを聞かんとする、摩迦陀國の王の、通路を開くこと、そのしるしを立てたる、二つの卒都婆の稱。

たいま 圖 大馬。なほむまにわたる。

たいま 圖 對馬。將葉の語。双方、同じ数のこまを列べて差すこと。五角のこま數にて差すこと。

たいま 圖 玳瑁。虫の名。龜の一種。熱帯地方の海に産す。甲は、黄褐色にして美しく、黒き斑あり。これを、龜甲といふ。

たいま 圖 大杖。莫大の金高。名額。〇

たいま 圖 大望。なほいなるのみ。過分の望。

たいま 圖 松明。乾きたる小竹、又は葦を束ねて、周りに、松脂を挿みて造り、又は松の眞の部分を削り束ねて造り、火を照らすに用ふるもの。つまつ。ひび。

たいま 圖 松明役。松明をこぼす役。

たいま 圖 國圖。たてまつるにわたる。〇

たいま 圖 忘慢。なごたりにわたる。

をえあわ ろれるり の ゆや もめんむみま ほへふひは

たらしや 古の都府の長官。
たらしや 大領。 一度量の大なること。 一度量の大なること。 一度量の大なること。
たらしや 大梁。 二十八宿の一。 「琴。 大槓。
たらしや 大略。 たほよそ。 たほむね。 あらまし。 概
たらしや 大呂。 十二律の一。 二陰曆十二月の異稱。
たらしや 大器。 植物學の語。 體中に、葉脈を有し、同化作用を營む下等植物の名。
たらしや 大禮。 またもの。 しもへ。
たらしや 大禮。 一 朝家に關したる重き儀式。 二人間一生のうちにて、尤も大節なる儀式。 冠婚、喪祭などの類。
たらしや 大禮服。 重き儀式の時に着用する洋服。
たらしや 大料。 あたひ。 ねだん。 代金。
たらしや 大路。 たほよほり。 たほぢ。 街道。 大道。
たらしや 大呂。 たほよほり。 たほぢ。 街道。 大道。
たらしや 大輅。 支那にて、天子の乘る馬車の稱。
たらしや 大籙。 蘇政の異名。
たらしや 大祿。 蘇高の多きこと。 高多き知行。
たらしや 大論。 對坐しての議論。 兩人さしむかひの論。
たらしや 對話。 さし向ひて、はなしすること。 相對しての談話。 會談。 對話。
たらしや 大黃。 草の名。 葉は、廣く、光澤ありて、夏の初め、莖を生じ、緑色の小花むらがり開く。 根は、下劑として用あり。

たらし 大威徳明王。 佛の名。 明王の一。 六面六臂にして、西方をまもり、一切の惡毒龍を平伏せしむといふ。
たらし 大和尙。 僧の位階。 をしやうを見よ。
たらし 大越家。 山伏の位階。
たらし 大體温器。 身體の温度をはかる器具。
たらし 大葦。 菜端なごの一株の中心より出づる、花を生ずる莖。 くきたち。
たらし 大黨。 一 とも。 くみ。 仲間。 黨派。 二 組の兵。
たらし 大刀。 一 かなた。 二 なたの如き形の鎧の一種。
たらし 大盜。 ぬすみをする。 また、その人。
たらし 大當。 事の理にあたること。 あたりまへ。
たらし 大陶。 やきもの。 せごもの。 するもの。
たらし 大陶唐。 唐土、即ち支那より渡り來れる物品の名にそへて用ゐる。
たらし 大湯。 煎藥の名に添へて用ゐる。
たらし 大堂。 一 大なる建家。 もや。 二 佛を祀れる家屋。
たらし 大道路。 一 ちち。 道路。 二 せし。 宗門。 三 日本國の五畿内を除きたる、その外の國國を、八大區に分ちたる名稱。 四 支那に行はるる一種の宗教。 老子を、祖とす。
たらし 大綱。 ちち。 綱。 ちち。 綱。
たらし 大討夷。 うちたひらぐこと。
たらし 大搦衣。 粘にて、衣を繕つこと。 きわた。
たらし 大道衣。 道士の着用する衣服。

たらしや 大威徳明王 佛の名 明王の一

たらしや 當意即妙。 その場に臨みて、即時に、氣をきかすこと。 さてんをきかすこと。
たらしや 唐莓。 草の名。 いちごの一種。 葉も、莖も、常のより大きく、實は黄色にして、味よし。
たらしや 唐蕩逸。 しだらなきこと。
たらしや 唐糸。 外國より舶來の木綿糸。
たらしや 唐導引。 一 ちびくこと。 手引すること。 二 引み。 ちびくこと。
たらしや 唐白。 すりうすにたなじ。
たらしや 唐團扇。 ぐんせん。 うちにはたなじ。
たらしや 唐音。 一 支那、唐の代の音。 二 支那の現代の音。 清朝の音。 「音。 清朝の音。」
たらしや 唐踏歌。 古、正月祭中に行はせられたる公事。 男踏歌は、十五日に行ひ、女踏歌は、十六日に行はれたり。 後世、萬歳樂といふ。
たらしや 稻荷。 一 いなりの神。 二 狐の異名。 東國の方言。 三 だいま。 貝令。
たらしや 堂下。 武家の稱。 (堂上に對して)
たらしや 道家。 道教を奉ずる人。 道士。
たらしや 道歌。 さごりのうた。 世感を觀じての歌。
たらしや 當該。 その事にあたること。 そのかか。 當局。
たらしや 稻香。 稻の花のかほり。
たらしや 道號。 入道して後の號。 のりのな。

たらし 道幸團。 道幸といへるもの、造りそめし茶室の造作。 爐上の障子に、茶器をのするやうに造りたる。
たらし 唐柿。 木の名。 いじはにたなじ。 「一 櫻。 香樂の一種。 かがくを見よ。
たらし 唐樂。 香樂の一種。 かがくを見よ。
たらし 唐學。 さごりの學問。 世感をまごりて、心を鍊らるし。 心學。
たらし 唐瘡。 瘡の名。 はいさくにたなじ。
たらし 唐踏歌節會。 踏歌のあそびにて行ふせち。 ちち。 踏歌。
たらし 唐套甲。 琴を彈するに用ゐるつめ。 ちち。 甲。
たらし 唐盜汗。 ねあせ。
たらし 唐雁。 鳥の名。 がつうにたなじ。
たらし 唐刀眼。 刀のめくぎをうつつ孔。 めくぎあな。
たらし 唐辛。 草の名。 朝鮮より舶來す。 夏の初めに、小さき、白花開く。 實は、初めは青く、熟すれば、赤くなる。 子を併せて食ふ。 味、極めて辛し。 なんはん。
たらし 當歸。 草の名。 葉は、深緑にして、互生し、厚くほそながし。 夏、しろき小花、むらがり開く。 根を、藥用とす。
たらし 投機。 をりにあふこと。 はすみにのること。
たらし 騰貴。 物の價の高くなること。 ねあがりすること。
たらし 當季。 このころ。 このせつ。 たうせつ。 現時。
たらし 當議。 正しきごらん。
たらし 討議。 たうごんにたなじ。
たらし 道義。 人の行ふべき、正しき道。 學倫の道。 人倫。

たらしや 大威徳明王 佛の名 明王の一

たのび 唐琴。草の名。一もろこしきびにたなじ。二

たのび 唐今。當代の天子。今上皇帝。

たのび 唐討究。きはむること。ただすこと。

たのび 唐逃去。逃げること。道逃。

たのび 唐當局。その事をとり扱ふこと。また、その事を擔當すること。當務。

たのび 唐局者。その事を擔當してゐる人。當務者。當事者。主治者。

たのび 唐桐。木の名。ひざりにたなじ。

たのび 唐道具。一必要に応じて用ゐるうつは。二人家に用ゐる。一切の器具。什具。用品。三武家にて、槍の稱。四人の。まろ。隨務。

たのび 唐櫛。すきくしり一種。櫛の細かきもの。

たのび 唐道具衆。戰場にて、馬にのりながら、槍をうつかふ武家の衆。

たのび 唐道具立。一凡て、必要なる道具を用ゐる。二特に、芝居などにて、諸道具を揃へ並ぶること。

たのび 唐唐劍。劍の一種。頭を、全く鋸にてつくり、木の柄をうけたるもの。

たのび 唐道具持。一武家にて、槍持の稱。二消防夫の中にて、特にまじひ、梯子を持つもの。

たのび 唐道具屋。古き諸道具を賣買する家。また、その人。ふるまうや。

たのび 唐道具屋節。淨瑠璃の節の一流。大阪の人。ふるまうや。

たのび 唐道化形。歌舞伎にて、滑稽のわざをな。役者。道化役者。

たのび 唐道化芝居。滑稽を演ずる芝居。たなじしは。滑稽演劇。

たのび 唐當月。この月。たうの月。

たのび 唐刀劍。かたな。つるぎ。

たのび 唐唐犬。獸の名。強健勇猛なる犬。

たのび 唐倒懸。一さかさにつるすこと。二非常の苦難に懸へて。

たのび 唐桃源。この世を離れてある、安樂なる仙境。

たのび 唐論言。ちよくげんにたなじ。「陳言」。

たのび 唐套言。ありきたりの言葉。かゝるくさきことば。

たのび 唐道化。用たかひなるさまをなす。たなじ。道化。

たのび 唐陶工。陶器を造る職人。やまものし。

たのび 唐桃紅。うすあか。ももいろ。

たのび 唐狼把草。草の名。春の末、濕地に生じ、秋、黄色の花を開く。葉は、細長くして、五葉つゝ、節ごとに、輪の如く生ず。

たのび 唐當國。この國。

たのび 唐獨樂。獨樂の一種。竹筒の上下を、木にて穿し、中央に、心棒を通し、筒に、孔を穿ち、心棒に、糸を絡めて

たのび 唐水母。水母の大なるもの。

たのび 唐胡桃。木の名。胡桃の一種。朝鮮種のもの。葉は、常のより大きく、核も、一寸餘にして、數多し。

たのび 唐陶化。次第に善に導くこと。

たのび 唐糖菓。砂糖づけの菓子。

たのび 唐唐畫。支那人の描きたる畫。からる。

たのび 唐唐鞞。形跡をくらますこと。

たのび 唐唐菓子。からくたもの。たなじ。

たのび 唐桃花馬。上巳の節。馬。つぎのうま。あしげの赤みがかりし毛色の馬。

たのび 唐道灌草。草の名。實を藥用す。葉は、撫子に似て、春夏の頃、鈴の如き花を開く。かさや。

たのび 唐當家。この家。たうの家。

たのび 唐峠。一山の坂路の登りつめたること。二きはみ。は。極期。三さわさのたうげ。

たのび 唐道家。だうかにたなじ。

たのび 唐道化。をかき眞似をして、人の笑を買ふわざ。たなじ。たはむれ。滑稽。

たのび 唐倒景。入日のかけ。夕日のかけ。斜射。

たのび 唐刀圭。一藥を盛る匙。二醫術の稱。三刀圭家。

たのび 唐逃刑。刑罰をのがること。

たのび 唐刀圭家。醫者の異稱。「のぎ」。

たのび 唐當坐。一さしたたり。そのは。二和歌、俳句等の題を、席上にて出だすもの。

たのび 唐當沙。四壁を、腰の液にて濡したるもの。繪の具、墨などの散らねたために、紙、紙などにひくに用ゐる。

たのび 唐當坐預。期限をきめずに、暫時の間、預けねこと。

たのび 唐當歲。生れたる年。

たのび 唐當歲兒。いし生れたる兒。

たのび 唐對策。たがひの計。三「へん」。

たのび 唐當坐貸。期限をきめずに、自分の同貸しつたうかりこと。當坐借越。たうと預けの金額を越して引き出すこと。

たのび 唐討案。しらべたつねること。

たのび 唐當坐組合。法律の謂。共通の計算を以て、一時のあきなり取引をなすこと。

たのび 唐當坐帳。商家にて、當座の賣買取引を、しるし置く帳簿。

たのび 唐倒産。一しんだいかぎり。破産。家産分敗。二赤子の、倒産に産るること。さかこ。さかさん。

たのび 唐逃散。にげさること。逃散。

たうせん

たうせん 唐山。もうこし。から。支那。
 たうせん 唐棧。船來のさんごめじま。
 たうせん 唐山。この山寺。
 たうせん 唐紙。支那より製出する。新竹に、楮の皮を交ぜて漉く紙。質脆くして、まげ易し。朝鮮紙。
 たうせん 島司。その島の長。しまもり。
 たうせん 蕩子。だうらくむす。
 たうせん 盗視。ぬすみ見るこ。偷眼。
 たうせん 唐詩。支那、唐の代になれる詩。二時代を限らず、凡て、支那人の作れる詩。からうた。
 たうせん 綱絲。よりたる糸。よりい。
 たうせん 當寺。この寺。本寺。「ま。現時。」
 たうせん 當時。そのかみ。そのとき。當初。二たじ。
 たうせん 道士。遺教を奉ずるもの。修験者の如きもの。
 たうせん 導師。一佛教を説きて、衆生を誘導する人。二釋尊の時に、引導をつとむる僧。
 たうせん 當事者。法律の語。權利義務の主なる人。
 たうせん 當色。その年の専方にあたれる色。④
 たうせん 當日。その事のありたる日。
 たうせん 踏襲。あをふみつぐこ。真似るこ。
 たうせん 海振。ゆさゆさふるこ。ゆさゆさふるこ。
 たうせん 盜心。ぬすみこ。

たうじやうひ

たうじやうひ 蕩心。心をころかすこ。
 たうじやうひ 刀身。刀のなかみ。
 たうじやうひ 唐人。一からびこ。唐土の人。支那人。二外國人の稱。異人。三わけのわからぬ人。④
 たうじやうひ 蕩盡。使ひはたすこ。用あつくこ。
 たうじやうひ 道心。一佛道に歸依する心。菩提心。二年より佛道に入りたるもの。
 たうじやうひ 道人。一佛道を會得したる人。二支那にて、遺教を奉ずるもの。三世を棄てたる人。隱道者。
 たうじやうひ 唐人笛。ちやるめら。らっは。
 たうじやうひ 唐人髻。まげに髪毛をたすきにかくる女の髪のかみ。多く、少女のゆふもの。
 たうじやうひ 唐人豆。草の名。なんきんまめにたなじ。
 たうじやうひ 當社。一この社。當會社。二このやしろ。本社。
 たうじやうひ 導車。機械場の諸車の運動を起す車。
 たうじやうひ 道者。一よすて人。隱道者。二神佛に恭詣せんために旅行する人。巡禮。④
 たうじやうひ 刀傷。かたなきす。
 たうじやうひ 道上。みちのほりり。
 たうじやうひ 堂上。一四位以上にして、昇殿をゆるされたる官人。二ひろく、公家衆の稱。種卿家。(堂下に對して)たうじやうひ 堂上方。くげにたなじ。
 たうじやうひ 堂上家。くげにたなじ。

たうじやうたん

たうじやうたん 堂上人。くものうへびこ。公家衆。
 たうじやうたん 唐商賣。唐物をあきなふこ。
 たうじやうたん 瞳若。瞳まてあきるるさまにいふ。
 たうじやうたん 當主。いまのあつじ。當代の主人。
 たうじやうたん 道衆。僧侶の稱。
 たうじやうたん 道衆。だうじやうにたなじ。
 たうじやうたん 道術。道家にて行ふ術。
 たうじやうたん 島嶼。多くの島嶼。
 たうじやうたん 當處。このところ。當場所。
 たうじやうたん 當初。そのかみ。はじめ。
 たうじやうたん 當職。一その職にあたり居るこ。二管領にたりたる人。
 たうじやうたん 堂司。屋敷の僧侶。
 たうじやうたん 討。うつ。征伐す。
 たうじやうたん 唐錫。銀物。しやりにたなじ。
 たうじやうたん 唐墨。支那製の墨。
 たうじやうたん 當世。今の世。近代。
 たうじやうたん 當世顔。その當時の人にする顔。
 たうじやうたん 當世向。當時の流行に適合せるこ。④
 たうじやうたん 當節。このせつ。このころ。當今。
 たうじやうたん 唐船。からふね。支那船。
 たうじやうたん 當選。えらびにあたるこ。えらばるるこ。
 たうじやうたん 當籤。圖にあたるこ。

たうち

たうち 當然。あたりまへ。
 たうち 唐榿。木の名。いひまりにたなじ。
 たうち 鞆然。鞆、太鼓ならの音のさまにいふ。
 たうち 陶然。酒にあひたる様にいふ。ラウリリ。
 たうち 瞭然。たうじやうにたなじ。
 たうち 逃走。にげたすこ。逃走。逃亡。出奔。
 たうち 盜賊。ぬすびご。さうぼう。
 たうち 黨族。なまこ。ごまがら。
 たうち 道俗。僧侶。俗人。僧。俗。雜衆。
 たうち 道祖神。道路を守る神。久那止の神。ちまたの神。手向の神。
 たうち 陶汰。よなげたすこ。えりわくるこ。
 たうち 田歌。たうあつたにたなじ。
 たうち 當代。一たうせいにななじ。二今の世つき。當主人の代。「料の稱。」
 たうち 當道。一わが學ぶ道。斯道。二聲家にて、内辯舌のさばかなるさまにいふ。
 たうち 蕩蕩。廣大なるさまにいふ。
 たうち 堂堂。いかめしく立派なるさまにいふ。
 たうち 切怛。いたましきこ。
 たうち 到達。たうちやくにたなじ。
 たうち 島地。しまぐに。しま。

たぢ 唐物。たまふにたぢ。

たぢ 唐腹。今の妻の腹。(先腹に對して)

たぢ 唐道服。中世、貴人の道路にて、塵埃を除けんがために、上に被ふ服。外華。二道士の着用する服。

たぢ 唐物。しちくさ。質物。

たぢ 唐物。支那にて製したる物。二諸外國より舶來せる物品の總稱。

たぢ 唐物屋。諸外國より舶來せる物品を賣る商店。唐物店。

たぢ 唐當分。暫くの間。當座。

たぢ 唐當標。選にあたるし。

たぢ 唐紅。支那より輸入するものに、紅のべに。

たぢ 唐墨。支那にて製したる墨。

たぢ 唐本。支那より渡りたる書籍。

たぢ 唐馬。荷物を負はする馬。荷馬。二力劣れる馬。驢馬。

たぢ 唐麻竹章。物の入り亂れたるさまに譬へていふ。

たぢ 唐饅頭。堅きかすてら製の皮にて、餡を包み、圓く壓くしたる菓子。

たぢ 唐豆。草の名。ふぢまめにたぢ。

たぢ 唐丸。鳥の名。鶴の一種。形、軍鶏に似て、更に大きく、尾短かく、脚ふに、最も強し。鶴類。

たぢ 唐丸籠。唐丸を入れる竹籠。二罪人を、遠方へ送るとき懸するかご。上に、網を張る。

たぢ 唐箕。穀物の批を扇ぎ分くる具。扇車。

たぢ 唐糖蜜。さとうみつにたぢ。

たぢ 唐箕。農夫なまの、畷を後ぎ、雨を防ぐために着るもの。

たぢ 唐名。唐土にての細呼。からな。

たぢ 唐麥。草の名。よくいふにたぢ。

たぢ 唐雲。書籍の敬稱。

たぢ 唐專女。一老いたる女。老婦。二老いたる狐の稱。

たぢ 唐鳴鷄。ゆなききりにたぢ。

たぢ 唐湯沐。沐浴。又は結髪ならぬ入髪にあつる知行。

たぢ 唐木綿。西洋舶來の綿布の糸細くして、巾

たぢ 唐討論。たぢしたる。

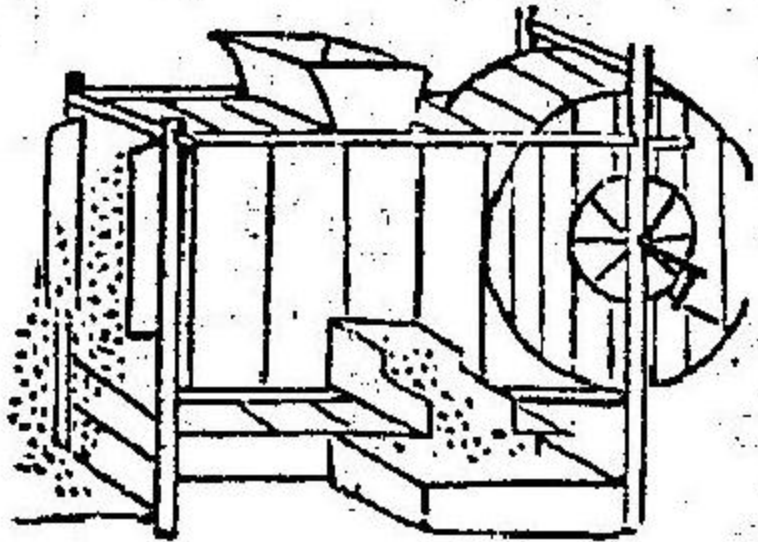
たぢ 唐堂守。堂守を守ること。また、その人。

たぢ 唐玉蜀黍。草の名。なんはんきびに同じ。

たぢ 唐陶治。やまものを作ること。

たぢ 唐常夜。その夜。

たぢ 唐常業。草の名。一せんふりにたぢ。二すしにたぢ。



(みうた)

のねにた きてつらた せせしき こけくきか ねえういあ

たぢ 唐弓。わたゆみにたぢ。

たぢ 唐黨與。なま。くみ。徒黨。

たぢ 唐當用。差當りての用むき。

たぢ 唐盜用。ぬすみてつかふこと。

たぢ 唐蘆。草の名。竹の一種。形、蘆に似たるもの。蘆竹。

たぢ 唐到來。一たたりきたること。その時となること。到着。二他より、贈物を受くること。外より贈り来ること。

たぢ 唐當來導師。彌勒菩薩の異稱。(過去は釋迦、現在は觀音)

たぢ 唐蠶螂。虫の名。いほせしりにたぢ。

たぢ 唐桃浪。陰曆三月の異稱。

たぢ 唐道樂。一道を味ひて、樂み耽ること。ものやま。二悪しき遊に、心をなすこと。遊樂。放蕩。放埒。

たぢ 唐桃李。もも。すもも。

たぢ 唐馱賣。なろしうりにたぢ。

たぢ 唐當流。すぢみち。すぢあひ。ゆる。わけ。

たぢ 唐道理責。こなたの流儀。己れの流派。

たぢ 唐道理。最もなる譯で、なるはな。

たぢ 唐切利天。佛教の語。須彌山の上にあるといふ世界。

たぢ 唐黨類。くみ。なま。同類。與黨。黨與。

たぢ 唐當路。要路にあたりて居ること。政を執る地位に居ること。

たぢ 唐當壇。一酒屋の店の番をすること。二酒屋。みぢ。みぢすぢ。住持。街邊。

たぢ 唐道陸神。たぢをじんにたぢ。

たぢ 唐議論。ただしき議論。

たぢ 唐黨論。なまぢの議論。

たぢ 唐討論。互に批難して論じあふこと。議論。

たぢ 唐當惑。事に臨みて、惑ひ苦むこと。思案にくもの。遠方に迷ふこと。

たぢ 唐唐結。きわたにたぢ。

たぢ 唐陶碗。ちやわんにたぢ。

たぢ 唐田植。稻の苗の、五六寸になりたる頃、苗代より、田に移し植ること。

たぢ 唐田植歌。田植を爲しながら誦ぶ歌。

たぢ 唐糖園。いけすにたぢ。

たぢ 唐國斷絶。氣息絶えはつ。氣息たえて死ぬ。

たぢ 唐國斷絶。たゆることなく。覆きて。

たぢ 唐國斷絶。絶えんとしてたえずに。きれもし、きれもせず。

たぢ 唐國斷絶。俗に、たえだえしい。たえだえにたえずに。一向に。二類なく。殊にすぐれて。

をるわ ゐれるり の よゆや もめんむみま ほへふひは

たかざり

たかざり 高取。蘇高の多きこと、また、その人。
 たかな 大芥。草の名。たははがらしにたなじ。
 たかなみ 高浪。高くよせくる浪。たはなみ。遊浪。
 たかね 高根。つかれにたなじ。
 たかね 高根。山の上の、高く突き出でたること。い
 ただき。高き峰。高嶺。
 たかね 高音。音樂の高き調子。二三弦を合奏するこ
 き、甲音、乙音を、互に用ゐる一種の調子。本調子には、二
 あがり、二あがりには、三あがり、三あがりには、本調子を用
 ゐること。上調子。
 たかね 高直。高き直段。かうちき。高僧。
 たかね 高直。あめにたなじ。
 たかね 高直。例にて送れる聲。
 たかね 高直。念佛を、聲高く唱へること。
 たかね 高直。抹茶に用ゐる上品なる製茶の銘。
 たかね 高直。鷹野には、たもに、雉をさるより
 いふ動物。雉の異稱。
 たかね 高直。鷹の羽。鷹の尾の羽。矢羽をつくるに用ゐる
 もの。鷹の羽二つを交叉し、又は八つを、向き合せて並べた
 る形の紋所。三魚の名。たかのはだひにたなじ。
 たかね 高直。鷹羽鯛。魚の名。形、鯛に似て、鷹の羽
 に似たる、細紋あり。
 たかね 高直。鷹羽鯛。魚の名。鯛の一種。全身に、
 鷹の羽に似たる淡黒色の紋あり。味美なり。

たかひせん

たかひせん 竹葉。竹の葉。
 たかひせん 鷹場。鷹をつかひて、狩する場所。たかの。
 たかひせん 田川。田の間を流るる川。あせ川。
 たかひせん 竹箒。竹の細き枝を束ねて、九竹の柄をす
 けたる箒。地上を掃ふに用ゐるもの。
 たかひせん 高帽子。頂のたひらにして、普通の帽子よ
 りは、たけの長き帽子。
 たかひせん 竹量。竹にてつくりたるものさし。尺。
 たかひせん 高機。機的一種。上に、縦横の架あり。錦、又
 は機なごの如く、花紋ある織物をたるとの。
 たかひせん 高鼻。先の、高く尖りたる鼻。はなたか。
 たかひせん 高話。こわたかに談話すること。
 たかひせん 高直。尻をもたけて這ふこと。
 たかひせん 竹林。たかにはらにたなじ。
 たかひせん 竹原。たかにはらにたなじ。
 たかひせん 高張。高張提灯の器。
 たかひせん 高張提灯。ちやうちんに、長き
 竿をつけて、高く掲ぐるもの。
 たかひせん 劍柄。たがみ(劍頭)の柄。
 たかひせん 高直。たがひ。たがひ。差。
 たかひせん 高低。高きと、低きと。あがりざがり。
 たかひせん 高直。膝を立てて、ひざまづくこと。
 たかひせん 互先。圓茶の器。優劣なき相手にて、打つこ
 き、かはるがはる、先番となること。對手。

たかひちた

たかひちた 交互。又方より、入りまじりて。ポンチ
 たかひちた 鷹人。たかひにたなじ。「がひに」
 たかひちた 互。かはるがはる。こもこも。われも、かれも。
 たかひちた 違目。ちがひめにたなじ。
 たかひちた 高紐。鏡につくるこはぎの紐。
 たかひちた 竹生。竹の生ひたること。たかはやし。
 たかひちた 高。たかひにたなじ。
 たかひちた 違。異なる様になる。相違は様になる。こ
 がふ。差。二とせむ。はづる。俗に、たがへる。一
 相違はたがひ。たがひ。二をむかし。あやまつ。
 たかひちた 高札。一かうちりにたなじ。二入札中の、借額
 の、最も多きもの。
 たかひちた 高。一様柄にする。容體なる。二高く盛
 くなる。つもの。三「み」を帯ぶ。
 たかひちた 魚の名。長さ五六寸、形は、鰻に似て、色は、少し黒
 たかひちた 耕。たがやしにたなじ。
 たかひちた 手返。「田返の義」たがやすにたなじ。
 たかひちた 手返。たがへること。
 たかひちた 手返。鷹狩に、合せ遣りたる鷹、飼主の手
 たかひちた 鷹架。鷹をこまらするほじぎ。
 たかひちた 高原。たかまのはらにたなじ。
 たかひちた 高時繪。地より、少し高くもりあげて時き
 たる時繪。

たかひん

たかひん 高枕。安眠すること。心うちこけていぬ。
 たかひん 高原。天の、諸神のたはしますこと
 たかひん 高肩。殿上人の、元服の時より、十六七の頃ま
 たかひん 高。高くなる。隆起す。もちあがる。
 たかひん 高。たかまこと。高。一竹。天候。
 たかひん 高。たかまこと。高。二天皇の御
 たかひん 高。俗に、たかめる。高くす。またぐ。
 たかひん 竹席。竹を削りて編みたる席。蓆。
 たかひん 高。竹の子を、菜ごして食ふ時の蓆。たかうな
 たかひん 高。竹の葉り生じたること。たかやぶ。竹藪。
 たかひん 高。唐の盛衰の故事「たがみ。書翰。
 たかひん 高。たかむなの音便。
 たかひん 高。虫の名。かうやひじりにたなじ。
 たかひん 高。蓆に、その縁よりも高く食物を盛りあ
 たかひん 高。たかまにしたる食物。
 たかひん 高。竹を、薄くさきて、先に、毛をつけ
 たかひん 高。極を置くこまに用ゐる。

たかやぶ 高楊子。ふくみ楊子なるして、さも高楊ら

たかやぶ 鐵刀木。木の名。熱帯地方に産す。質は堅

たかやぶ 高道戸。高く造りたる道戸。たけの長き道

たかやぶ 高高山。たかき山。

たかやぶ 高竹藪。たけやぶ。たかはやし。たかむら。

たかやぶ 高行。空を飛びゆく。

たかやぶ 高寶。一貫まで、大切に秘蔵すべきもの。品物。寶

たかやぶ 高寶合。陸軍を觀ぶるたはむれ。

たかやぶ 高寶貝。貝の名。美麗なる、斑文あり。古は、

たかやぶ 高寶子。草の名。つはぶきにたなじ。

たかやぶ 高寶樹。佛敎の語。権樂にありて、寶樹

たかやぶ 高寶集。あつまりつく。よりあつまりる。① 寶集

たかやぶ 高寶欲。動詞、なまに添へて、欲し願ふを表はすに

たかやぶ 高寶抱。いだきつく。①

たかやぶ 高寶高笑。聲立ててわらふこと。

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶高咲。たかわらひにたなじ。①

たかやぶ 高寶君。寶の如く、大切に思ひ頼む君。

たかやぶ 高寶位。帝王の位。

たかやぶ 高寶宿。寶の多き家。

たかやぶ 高寶山。佛敎の語。寶のありていふ山。

たかやぶ 高寶王。あまたのたからをもてる人。

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

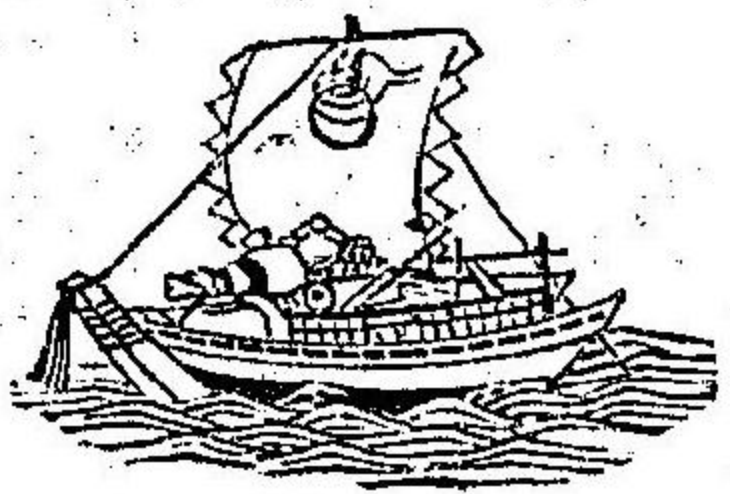
たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁

たかやぶ 高寶船。如彦彦珠、丁



(ねぶらかた)

のねにな きてつらた そせふしき こけきか 木えういあ

ををわ られるりり よや もめんむみま ぼへふひは

たすけりつ 多敷決。會議にて、同意者の數多き方に、事
を決定する。○
たすかる 團圓助。助けらる。救はる。命を全うす。
たすき 團襪。一勞作する時に、袖を、二の腕に束ねる。○
たすきすがた 團襪姿。たすきがけの姿。
たすきほし 團翼星。二十八宿の一。よくにたなじ。
たすく 團圓助。俗に、たすける。一手つたふ。助力す。
二生命をすくふ。助命す。
たすけ 團助。たすくること。すけ。手傳。助力。扶持。
たすけ 團襪。たすきにたなじ。
たすけのほね 團肋骨。あはらほねにたなじ。○
たすけぶね 團助船。たはれんこする人を救ふ舟。すくひ
ぶね。救助船。
たすく 團圓打。英語 Dazen, 十二つづを、一組として、物
を數ふるに用ゐる。たあす。
たすけり 團他姓。生家の姓にあらぬ姓氏。外の苗字。
たすけり 團多勢。多くの人數。たほせい。
たすけり 團多少。多き、少き。團辨分。いくらか。
たせん 團攤錢。あなうちにななじ。「なにほさか。
たせん 團免錢。たぎんにたなじ。「たなじ。
たせり 團田芥。草の名。一せりにたなじ。二たがりに
たせり 團誰。誰れなるぞ。たれぞや。○
たせり 團駄送。駄馬につけて、荷物を運送する。○

たすかれ 團黃昏。ひぐれ。たそがれさき。夕方。暮方。
たすかれ 團黃昏草。植物。ゆがほの異名。○
たすかれ 團黃昏時。たそがれにたなじ。
たすく 團多足。たきなひ。たしまへ。○「これでも何か
のたそくにたなじ」
たすく 團蛇足。無くともよきもの。無益のものを登すこ
たすく 團田蕎麥。草の名。葉の形蕎麥に似たり。淡紅
の小花を開く。いねそば。
たすく 團田澁。ぢしがにたなじ。
たすく 團誰哉。誰哉行燈の異。○「よくの用にす。
たすく 團誰哉行燈。はんぼりのたぐひ。てし
たすく 團誰屋形。庭中に燈を置く。木づくりの燈籠。
たすく 團徒。一室しき。何もなき。○「二燈をばら
やして、物をつけろ。三つね。三つね。よのつね。なみ。○
たすく 團唯。○「これのみ。外ならず。車。二ひたぶ。ひ
たすく 團直。まじに。すまじに。たたすじ。
たすく 團駄駄。見供の、母なごに對して、不満足の意を示し
て泣く。○
たすく 團多大。たぐま。たはま。○
たすく 團墮胎。流産すること。見たるし。

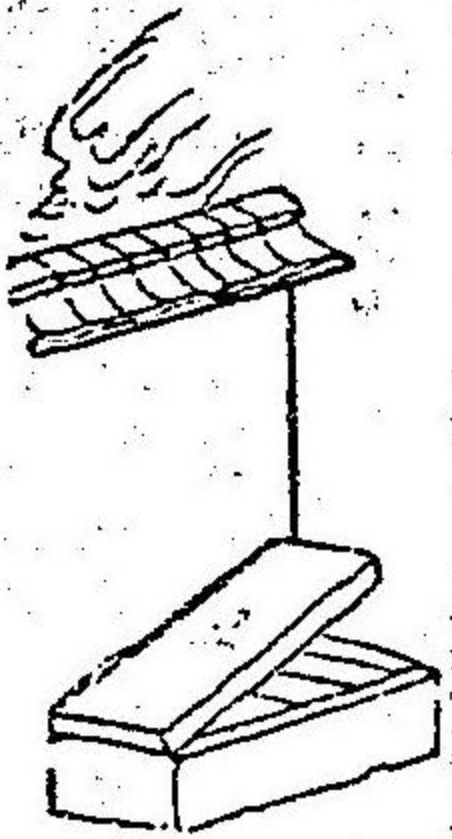
たすく 團口合。いまに木なじ。團「すまじに。すま
ま。二いまがた。たすたいま。今すこしまへに。○
たすく 團疊。疊紙の疊。
たすく 團疊紙。「たみがみの音便」○「よごころがみ。
はながみ。二糸屑、小布、片桐道具などを入るために、紙を、
四つに疊みたるもの。○
たすく 團直徒。ただびこの音便。○「たきくも」
たすく 團直香。その人の直。○「直香」君がたかをま
たすく 團圓。互に聲を合ふこと。たたきあふこと。二
いくさ。戦争。合戦。戦。
たすく 團圓戰。一たたきあふ。おすあふ。二兵を交ふ。
合戦す。戦争す。三技を比へて、勝敗を争ふ。角す。
たすく 團素顔。化粧せぬ常の顔。すがほ。
たすく 團叩。一たたくこと。續けて打つこと。二徳川時代
の刑の一。罪人をむちうつこと。三松魚、烏賊などの肉、腹を、
叩き碎きて、鹽辛く漬けたるもの。しほから。團敲槌の異。石
工の器。五石目をつつこと。六細かに、敲きせて塗りたるも
の。漆工の器。七たたきつち。
たすく 團鉦。座に伏せて、滝木を以て敲き鳴らす佛具。
ふせがね。
たすく 團敲大工。棟梁までにいたらぬ木工。未築
なる大工。○
たすく 團圓叩出。一うすたす。一方より打ち叩ま
せて、他方へ出せしむ。二逐ひ出だす。逐ひ拂ふ。去らす。○
たすく 團叩土。赤土に、砂利、石灰を加へて、にがし
けを合せたるもの。泉水の底。又は入口の土間などに敷き、叩

き固めて、石の如くなる。たたき。
たすく 團徒衣。常の衣服。ふだんぎ。
たすく 團敲放。一敵の刑を執行して、直に放免す
ること。二それより外は、與へぬ。○
たすく 團敲拂。たたきはなしにたなじ。
たすく 團圓敲。一續けて打つ。二僅めんために打つ。○
たすく 團圓。○「水鏡にのみいふ」
たすく 團狸。狸の名。たききにたなじ。○
たすく 團常事。よのつねのこと。普通のこと。○「言
たすく 團徒言。○「ありのままのこゝろ。二むだくち。空
たすく 團徒言歌。ありのままに、飾らずよみたる
歌。古今集、五にはただこゝろにた」
たすく 團徒様。普通のこぼりに。なみのこぼりに。
たすく 團縦。たてにたなじ。○
たすく 團糺。ただすこと。糺問。吟味。詮議。
たすく 團但。一上文の意をうけて、これに反する意を示す
に用ゐる。しかれども。さはいへ。二又は或は。乃至は。○
たすく 團正。俗に、ただしい。○「曲りなし。直し。二邪な
し。正直なり。○
たすく 團圓。○「たもたたいい奴」○「ち。
たすく 團但書。本文に添へて、別にその意を説くこ
たすく 團圓立。立ちたまふ。
たすく 團圓糺。尋ねきむ。糺明す。吟味す。

たまたま 國語正。正しからしむ。善く改む。改正す。なほ
 たまたま 國語質。疑はしきものを尋ぬ。不審のからを問
 たまたま 國語侍。一たまたま。二立したるさま。在る
 たまたま 國語侍。たまたまの庭。①「様子。
 たまたま 國語侍。しほし立居る。たまたま。②
 たまたま 國語直道。まがらぬ路。徑路。③萬葉集「月夜よみ
 妹にあはんとたまたまから吾は來つれ」
 たまたま 國語直。①「せかじ。直接に。二すまじ。すまじ。罪
 を移さず。即時に。
 たまたま 國語驕兒。だだをいふ見供。②「ひろし。
 たまたま 國語徒廣。俗に、だだびろい。しまりなく
 たまたま 國語直手。からて。素手。③「重なる様に云ふ。
 たまたま 國語采采。一花咲きて、枝の垂るる様にいふ。二雲の
 たまたま 國語正中。まんなか。中央。④
 たまたま 國語疊。たたまりかさなる。⑤萬葉集「國見
 をすればたたなはる青垣山の山つみの」
 たまたま 國語疊。たたなはるにたなじ。⑥
 たまたま 國語疊。踊り足りてあり。⑦萬葉集「宮月のたはしけ
 んごわがもへる」
 たまたま 國語徒人。一官位あるも、職なき位置ある人。二よ
 のつねの人。なみのひこ。凡人。
 たまたま 國語漉。漉ちて流れす。漉まる。國語漉。俗に、

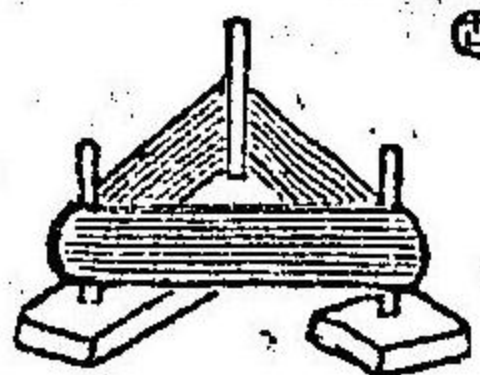
たまたま 國語漉。たまたま。①「つぎはしこ。
 たまたま 國語疊梯子。折り疊むやうに造りたる梯子。
 たまたま 國語疊針。疊を刺すに用ゐる大なる鐵針。
 たまたま 國語疊海布。昆布なる海草をたたみたるもの。
 たまたま 國語摺尺。折り疊むやうに作りたるもの。
 たまたま 國語疊屋。たたみまじにたなじ。①「て。
 たまたま 國語疊。一折りて重ね。積み重ね。二片づけて、他
 へ移す。仕舞ふ。②「世帯をたたむ」三「さすにたなじ。③
 たまたま 國語腕。うでにたなじ。④
 たまたま 國語來月。らいつにたなじ。⑤
 たまたま 國語多端。用事多くいそがしきこと。多事。多忙。
 たまたま 國語疊紙。たたらがみの香便。⑥
 たまたま 國語直目。眞向に。目の前に。⑦
 たまたま 國語漉。わたつかすあり。よる漉なし。⑧
 たまたま 國語漉。たたよはしむ。⑨
 たまたま 國語漉。一浮びて、あちこちを流る。動きて定ま
 らず。二ゆくへ定めず。浮かれ流ぶ。
 たまたま 國語踏鞠。足にて
 踏みて、空気を送るもの。
 たまたま 國語踏鞠。ふいがうのしかけの大な
 るもの。
 たまたま 國語踏鞠。羅遊。遊里なること。
 たまたま 國語踏鞠。むらみに金銀を渡すこと。費用を借まき遊び狂ふこと。

たまたま 國語漉。たまたま。①「つぎはしこ。
 たまたま 國語疊梯子。折り疊むやうに造りたる梯子。
 たまたま 國語疊針。疊を刺すに用ゐる大なる鐵針。
 たまたま 國語疊海布。昆布なる海草をたたみたるもの。
 たまたま 國語摺尺。折り疊むやうに作りたるもの。
 たまたま 國語疊屋。たたみまじにたなじ。①「て。
 たまたま 國語疊。一折りて重ね。積み重ね。二片づけて、他
 へ移す。仕舞ふ。②「世帯をたたむ」三「さすにたなじ。③
 たまたま 國語腕。うでにたなじ。④
 たまたま 國語來月。らいつにたなじ。⑤
 たまたま 國語多端。用事多くいそがしきこと。多事。多忙。
 たまたま 國語疊紙。たたらがみの香便。⑥
 たまたま 國語直目。眞向に。目の前に。⑦
 たまたま 國語漉。わたつかすあり。よる漉なし。⑧
 たまたま 國語漉。たたよはしむ。⑨
 たまたま 國語漉。一浮びて、あちこちを流る。動きて定ま
 らず。二ゆくへ定めず。浮かれ流ぶ。
 たまたま 國語踏鞠。足にて
 踏みて、空気を送るもの。
 たまたま 國語踏鞠。ふいがうのしかけの大な
 るもの。
 たまたま 國語踏鞠。羅遊。遊里なること。
 たまたま 國語踏鞠。むらみに金銀を渡すこと。費用を借まき遊び狂ふこと。



(ら たた)

たまたま 國語漉。たまたま。①「つぎはしこ。
 たまたま 國語疊梯子。折り疊むやうに造りたる梯子。
 たまたま 國語疊針。疊を刺すに用ゐる大なる鐵針。
 たまたま 國語疊海布。昆布なる海草をたたみたるもの。
 たまたま 國語摺尺。折り疊むやうに作りたるもの。
 たまたま 國語疊屋。たたみまじにたなじ。①「て。
 たまたま 國語疊。一折りて重ね。積み重ね。二片づけて、他
 へ移す。仕舞ふ。②「世帯をたたむ」三「さすにたなじ。③
 たまたま 國語腕。うでにたなじ。④
 たまたま 國語來月。らいつにたなじ。⑤
 たまたま 國語多端。用事多くいそがしきこと。多事。多忙。
 たまたま 國語疊紙。たたらがみの香便。⑥
 たまたま 國語直目。眞向に。目の前に。⑦
 たまたま 國語漉。わたつかすあり。よる漉なし。⑧
 たまたま 國語漉。たたよはしむ。⑨
 たまたま 國語漉。一浮びて、あちこちを流る。動きて定ま
 らず。二ゆくへ定めず。浮かれ流ぶ。
 たまたま 國語踏鞠。足にて
 踏みて、空気を送るもの。
 たまたま 國語踏鞠。ふいがうのしかけの大な
 るもの。
 たまたま 國語踏鞠。羅遊。遊里なること。
 たまたま 國語踏鞠。むらみに金銀を渡すこと。費用を借まき遊び狂ふこと。



(り たた)



(ち た)

たつがみ 田令。電氣を司る人。①
 たつがみ 脱監。たてがみに木なじ。②
 たつかん 脱監。らうやより。破獄。③
 たつかん 脱簡。綴じ本の紙の脱けたること。落丁。④
 たつき 立木。たちきに木なじ。⑤
 たつき 脱斧。及のひろき斧。鑿。⑥
 たつき 脱方便。たより。たて。⑦
 たつき 脱脱臼。ほねちがひ。⑧
 たつき 脱脱却。ぬぐいご。のがあること。⑨
 たつり 田作。魚の名。一こまめに木なじ。二田を佐ること。また、その人。⑩
 たつり 調布。てづくり。木なじ。⑪
 たつらん 達官。重き官職。高官。⑫
 たつらん 達観。世感を、観あきらむること。⑬
 たつり 達斧。たつきに木なじ。⑭
 たつり 脱抱。だかること。見供の語。⑮
 たつり 脱脱肛。痔疾の一種。肛門内の筋肉の、外へ脱け出づる病。⑯
 たつり 脱立薦。古蓆をつぎあはせて造り、屏風などの如く、物の隔てに用ゐたるものこと。⑰
 たつり 脱罪。罪を脱るること。⑱
 たつり 脱脱携。一たつと木なじ。二かかはる。あ

つかる。くみす。關係す。①
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。②
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。③
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。④
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑤
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑥
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑦
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑧
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑨
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑩
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑪
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑫
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑬
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑭
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑮
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑯
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑰
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑱
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑲
 たつり 脱脱携。手をひきて連なる。同行す。⑳

のねにな ごとつらた せせすしき こけきか 木えういあ

たつり 脱脱走。逃げ去ること。出奔。①
 たつり 脱脱俗。世俗を脱離すること。脱俗。②
 たつり 脱脱粟飯。粒をこりたるはかりめし。粗飯。③
 たつり 脱脱木綿。経は木綿、緯は絹にて織りたる縮緬。④
 たつり 脱脱尊。世間一般にたつと云ふもの。⑤
 たつり 脱脱龍田。名香の名。ちんの一種。⑥
 たつり 脱脱唯。一これのみ。これはかり。二「たつた是れだけ」二つつか。少しばかり。⑦
 たつり 脱脱達道。人の、一般に守るべき道。大道。⑧
 たつり 脱脱脱刀。帯びたる刀を抜くこと。⑨
 たつり 脱脱脱黨。仲間、又は徒黨なかりより逃ぐこと。⑩
 たつり 脱脱脱塵。世情を離るること。⑪
 たつり 脱脱脱塔中。一大寺の境内にある下寺。二僧侶のたつちよ。脱除。こりのくること。⑫
 たつり 脱脱脱。膝のひざより下の部分を、脚絆を、はきたる如くに括りたるもの。旅行に用ゐる。⑬
 たつり 脱脱脱手鼓。手を鳴らして、拍子をとるもの。⑭
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑮
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑯
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑰
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑱
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑲
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑳

たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。①
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。②
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。③
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。④
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑤
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑥
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑦
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑧
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑨
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑩
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑪
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑫
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑬
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑭
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑮
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑯
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑰
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑱
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑲
 たつり 脱脱脱。絶ひて。せひご。⑳

をるわわ ろれるりり よゆや もめんむみま ほへふひは

たつば

たつばら 図 答拜。よきあしらひ。
たつばら 図 脱落。封建時代に、その種類より脱する事。
たつばら 図 田螺。貝の名。たにしにたなじ。
たつばら 図 達筆。一筆道に達したること。また、その人。
たつばら 図 脱糞。大便を排泄すること。
たつばら 図 脱糞。大便を排泄すること。
たつばら 図 田螺。動物。たにしにたなじ。
たつばら 図 達聞。物こに行きわたりて心得をること。
たつばら 図 脱文。脱けたる文句。
たつばら 図 脱糞。大便を排泄すること。
たつばら 図 田螺。貝の名。たにしにたなじ。
たつばら 図 達磨。念珠の根につくる玉。
たつばら 図 龍巻。風のために、海水の、空中に巻きあげら
れて、柱の如き様をなすもの。
たつばら 図 辰松島田。女の髪結び方。徳川時
代に、辰松といふ俳優の結び初めたるもの。
たつばら 図 辰己。東、南との間の方位。
たつばら 図 淵。とちをいふ。伊勢國の方言。
たつばら 図 鶴群。鶴のむらがり。
たつばら 図 竹瓮。たつべにたなじ。

たつば

たつばら 図 直幅。かけものたなじ。
たつばら 図 脱落。かけものたなじ。
たつばら 図 脱離。わけはなること。
たつばら 図 奪略。うばひをすること。かすむること。
たつばら 図 脱路。わけみち。同。
たつばら 図 脱漏。もれぬこと。たつ。遺漏。
たつばら 図 堅。一物の上より、その同。(横に對して)堅。二堅
絲の堅。
たつばら 図 櫛。戰場に用ゐて、矢を防ぐ具。
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に
たつばら 図 茶。茶葉を入るるに用ゐる、袋の如きもの。籠布に

あいうえお かきくけこ させすしそ ちぢくきか せつらた

たつば

たつばら 図 立網。切あんにたなじ。
たつばら 図 蓼藍。草の名。あんにたなじ。
たつばら 図 立石。一庭前に立て挿えたる石。二道程の記
標として、路傍に建つる、石碑の類。みちしるべいし。
たつばら 図 櫛板。櫛として用ゐる板。
たつばら 図 縦糸。機糸の、長く列りたる方。たて。經。
たつばら 図 駝鳥。鳥の名。亞弗利加、又は亞明比亞等の沙
漠なかに棲む。鳥類の、最も大なるもの。力、極めて強く、飛
ぶこと能はず。馳すること、甚だ速かなり。形、やや鶴に似て、
體、更に肥え、頸、脚、共に長し。
たつばら 図 立白。地上に播きて、米を搗く大なる春。春日。
たつばら 図 立白。地上に播きて、米を搗く大なる春。春日。
たつばら 図 立傘。長柄の傘をすはめて、袋に入れたるも
の。蓑笠と共に、真人の行列を襲ふに用ゐる。「あま」。
たつばら 図 堅瓦。平面なる瓦。壁の腰なさを蔽ふに用
たつばら 図 立飼。大切に畜ふ。家畜記「内飼に秘蔵し
てたてかひたり」
たつばら 図 立替。俗に、たてかへる。他にかはりて、
已れ金錢を拂ふ。「ほす。再建す。
たつばら 図 建替。俗に、たてかへる。建替をしな
たつばら 図 抗拒。はむかふ。相争ふ。

たつば

たつばら 図 立替。立て替ふること。
たつばら 図 建替。家を建て直すこと。たてなほし。
たつばら 図 櫛。馬、獅子などの頂に發生する長き毛。うな
かみ。たつがみ。
たつばら 図 伊達着。はてなる着物。はれの着物。
たつばら 図 立切。しめきる。全くさす。二くひ
さす。支へてさす。
たつばら 図 閉切。戸、障子などを閉じて、再び開閉せ
ぬやうにする。
たつばら 図 建具。戸、障子などの如く、敷居、欄干にはめて
開閉する器具の總稱。
たつばら 図 伊達釘。かざりくまにたなじ。
たつばら 図 頂。ほんのくまう。くびのうしろ。
たつばら 図 伊達者。まかざる人。しやれもの。たてしや。
たつばら 図 立込。こみあふにたなじ。
たつばら 図 閉込。戸、障子などを閉じて籠る。
たつばら 図 櫛籠。城中にありて、防ぎ守る。籠城す。
たつばら 図 立作者。劇場附屬の、第一の脚本作者。
たつばら 図 堅様。堅のありさま。「たる佳儀。
たつばら 図 立師。芝居の師。その芝居にて、最も役に長け
たつばら 図 伊達師。伊達なる藝にたけたる俳優。
たつばら 図 立諦。ついたての如く造りたるしこみ。
たつばら 図 堅縞。縞糸を、堅に入れたる織物。色糸のた
てに入れてあるもの。

あいうえお かきくけこ させすしそ ちぢくきか せつらた

たな 図店。一見世店の妻。二あきうみや。商家。三かしてにたなじ。

たな 図棚。板を平にたきて、物をのする用とするもの。架。

たな 図店請。借家人の、身元引受に立つこと。

たな 図手中。たなこころにたなじ。

たな 図手裏。たなこころにたなじ。

たな 図店卸。一商家にて、店頭に陳列したる貨物を、悉く取りたるして、調査すること。二他人の過失、鉄煎を一一いひたつること。

たな 図田中。田のあひだ。あなが。

たな 図手長。長く榮ゆること。三たながの御宇。

たな 図店方。あきうみや。商家。

たな 図田中鳥。動物。子規の異名。

たな 図店替。みせがへ。住居を替はること。

たな 図店借。家を借りて住むこと。商家。

たな 図田水葱。草の名。田に生するもの。

たな 図棚經。孟蘭盆會の生靈祭の時、供物を供へたる棚に向ひて、佛の經を讀むこと。

たな 図棚。たなぐもりにたなじ。

たな 図棚。たなぐもりにたなじ。

たな 図蜘蛛。虫の名。蜘蛛の一種。まごも。

たな 図蜘蛛。たなぐもりにたなじ。

たな 図蜘蛛。標葉かさなりて盛ること。

たな 図店子。借家に住む人。借家人。一り。親。

たな 図節。魚の名。川にも海にも産ず。身長く、首小な。

たな 図掌。てのこころの轉てのびら。たうら。た。

たな 図手拭。てのこころにたなじ。

たな 図店前。みせさき。店頭。

たな 図掌前。手のする。手のはし。

たな 図棚晒。久しく置れずして、古びたる商品。

たな 図膜。まくにたなじ。

たな 図知。しる。忘れず。商家集、人になつてそ。

たな 図手末。たなさきにたなじ。

たな 図掌。たなこころにたなじ。

たな 図店退。借主を、商家より逐ひ立つること。

たな 図店賃。やちんにたなじ。

たな 図棚厨子。腰をつけたるつし。

たな 図棚田。山に、段をつけて作りたる田ならん。

たな 図棚。田畠に植えて收穫せるもの、即ち五穀の類の棚。

たな 図棚無小舟。懸棚なき小さき舟。

たな 図店主。いへし。やねし。みせし。

たな 図手繩。鶴飼の籠につけて使ふ繩。

たな 図棚橋。棚の如きさまに架けたる橋。

たな 図棚機。棚機津女の妻。

たな 図棚機月。陰曆七月の異稱。

たな 図棚機津女。一機織る女。二七夕に祭る星の名。女性の星にて、機織るもの。織女。

たな 図棚機姫。機を織る術を教へたる神。たなはたはたひめ。

たな 図棚機祭。陰曆七月七日の夕に行ふ、星をまつる祭。七夕祭。乞巧祭。

たな 図棚引。たなはたの夜、少女等の踊るたはむれ。

たな 図手肘。薄く長くはよ。

たな 図手振。てのひぢの轉ひぢにたなじ。

たな 図店振舞。商家にて、轉したるさき、取のためになす宴會。

たな 図手股。てのまたの轉指、指の回。

たな 図多難。わざはひの多きこと。

たな 図店者。商家の番頭、手代の稱。

たな 図手馴。てならしたること。

たな 図種井。春の末に、苗代を起す時、種を浸さんがめに、田の側に掘る井戸。

たな 図谷。山と山との間のくはゆること。溪。

たな 図商布。貨幣なき時代、交易に用ゐたる布。

たな 図鱗。虫の名。形、小さく、黒白の斑ありて、足、八本あり。犬、馬などの皮に喰ひ入る。牛虱。

たな 図鱗。虫の名。たにの鱗。

たな 図鱗。はかりも。せめては。これのみは。

たな 図駄荷。馬に負はせたる荷物。

たな 図谷間。谷と谷との間。たにま。

たな 図谷石。谷の間にある石。

たな 図谷風。谷あひより吹きたる風。たにかぜ。

たな 図谷川。谷間より吹く風。

たな 図谷握。谷間の細きながれ。淵。

たな 図谷握。手ににぎりあつ。

たな 図谷峽。たにあひにたなじ。

たな 図田螺。貝の名。田澤に生ず。螺の形、はらに似て、やや圓し。食用す。

たな 図谷菅。草の名。かはらすげにたなじ。

たな 図谷芥。草の名。せんこにたなじ。

たな 図谷底。たにのふかみ。谷の底。

たな 図谷岨。谷のがけ。

たな 図谷戸。谷の入口。谷口。

たな 図谷扉。谷間の家。

たな 図谷藤。たにには。藤たりとせきしめてして。

たな 図谷藤。草の名。葉は、圓く、春の末、藤の花に似たる、小さき花を開く。

たな 図谷懷。谷と谷との間の回まりて、ふたごの如くなること。

たな 図谷邊。谷のほとり。

たな 図谷間。たにあひにたなじ。

たにみづ 田谷水。谷間を流るる水。しみづ。淡水。

たにん 他人。一わが血筋にあらぬ人。二凡て、その事に關係せぬ、他人。

たにんず 田多人數。多くの人人。多勢。

たにも 田。だににたなじ。

たにゆき 田谷行。参入の規定にて、同行者に、病人ある時は、谷へ着し入るること。

たにわたり 田谷渡。草の名。山野に生ず。葉の形、森に似たり。秋、小さき淡紅の花、腰の如くむらがりて閉き、後、實を結ぶ。

たぬき 狸。一獸の名。形、狐に似、毛色、うす黒くして、頭まろらかに、尾太し。二いつはり敷くこと。三狸殺入の略。

たぬき 手貫。手にはむるもの。小手の類。臂輪。

たぬき 狸汁。蒲蕪、赤小豆、豆、鷹を、味噌汁にて煮たる料理。

たぬき 狸寝入。眠りたるが如く装ふこと。せらねむり。佯眠。

たぬき 田主。田の持主。

たぬき 田樂。たのしむにたなじ。

たぬき 田沼懸。紙入の一種。縁紙なごを入るために、中に、淡き口をつけたるもの。

たぬき 種。一芽を生ずべき基なるもの。種子。二たなじにたなじ。三物を作り成す基なるもの。四事のため。起原。



(きぬた)

たね 起原。一動物の、子孫を生ずる素分。二父のち、ち。父たねあぶら 田種油。菜種より搾取せる油。

たねいた 田。富貴を映するに用ゐるべき寶物を、直ちに映像したる硝子の原版。

たねたろし 田種卸。たねまきにたなじ。

たねがき 田種柿。賭事なごに、柿の核の奇數、偶數を、あらかじめいひ置きて、その柿を切り、種言の數のあたれりや、否やによりて、勝負を決すること。

たねがま 田種子島。こつ。鳥籠。

たねがはり 田胤替。父の異なりたる子。たねちがひ。

たねがみ 田種紙。蠶の卵を生みつけたる紙。蠶卵紙。

たねせん 田種銭。錢を鑄る時、その鑄型を造るに用ゐるたねちがひ 田胤違。たねがはりにたなじ。一錢。

たねつばな 田種附花。草の名。たがらしにたなじ。

たねざり 田種取。材料を探りある人。探訪者。

たねざり 田胤鳥。子を殖すために、飼ひ置く鳥。

たねほん 田種版。たねいたにたなじ。一物。原本。

たねまき 田種蒔。一種を蒔くこと。二特に、八十八夜蒔後に、稻の刈種を、苗代に蒔きつくること。たねたろし。播種。

たねん 田多年。久しき年月。數年。

たねん 田他年。今年ならぬ、過去か、未來かの年。

たねん 田他念。ほかのたもひ。餘念。

たねもの 田種物。一蒔きて、芽を生ぜしむるために用ゐる草木の類。たね。二てんぶら、玉子ごちの如く、多少、蕎麥の外に、他の物を加へて、汁多くしたる蕎麥の總稱。

たねわた 田種綿。種ごすへき綿の略。

たねわり 田種核針。胡桃なごを割り碎くに用ゐる具。

たのち 田多能。慈能の多きこと。多能。

たのち 田多能。田の中の、苗を植まつくること。

たのち 田多能。田の水たまりに任む、小さき雜魚。

たのち 田多能。田の稻の中に生ずる雜草。はぐさ。たのちのち。

たのち 田多能。田の草を除き去ること。また、また、また、たのちのち。

たのち 田多能。俗に、たのちのち。心算のこと。こころとし。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たのち 田多能。たのしむにたなじ。

たふ 國國賜。たまふにたなじ。①
 たふ 國國食。くふのむ。② 空穂物語「物もえたはて疲
 れふし」國國俗にたふ。前後のたふにたなじ。後拾
 遺集「水たふんて」
 たふ 國國給。たまふにたなじ。③
 たふ 國國夫。氣の弱き人。いくぢなし。佳夫。
 たふ 國國多福。幸福多きこと。さうたほきこと。多幸。
 たふ 國國警。おこりにたなじ。
 たふ 國國拳。こころにたなじ。④
 たふ 國國饋。昔、陰部を授ふに用ひし様殿引のこ
 ろまの。した帯。⑤
 たふ 國國答辭。挨拶の辭。返答の辭。
 たふ 國國手節。てのふし。⑥
 たふ 國國答書。へんしよにたなじ。
 たふ 國國倒。①立ててあるものを、横になす。ころが
 す。②履。斬り殺す。斃れしむ。斃。
 たふ 國國田廬。田の中に造りたる廬。⑦
 たふ 國國水。水の漲へられて動くさまにいふ。激湍。
 たふ 國國衣服。衣服のなごの、體にあはせて大なるさまにいふ。
 たふ 國國駄物。たものにたなじ。
 たふ 國國飛樂。ついでにたなじ。⑧
 たふ 國國貴。たふし。⑨「あなただか」
 たふ 國國貴。俗に、たふし。⑩「品位たかし。崇め重
 んずんし。尊。⑪體たかし。勝れて體あり。⑫たのし。よる

たふ 國國尊。たふむにたなじ。⑪
 たふ 國國尊。崇め重んず。うやまふ。たふむ。あ
 がる。たふむ。
 たふ 國國田舟。田の中にて用ふる、狭く小さき舟。
 たふ 國國田桶。木の名。葉、柱に似て、香氣なし。
 たふ 國國答拜。感謝の意を表するたふに行ふ拜禮。
 たふ 國國答矢。敵に射かへす矢。
 たふ 國國塔婆。そとにたなじ。
 たふ 國國塔腰巾。かたかけにたなじ。
 たふ 國國答辭。こたへ。いひらき。
 たふ 國國答辭者。こたふる人。
 たふ 國國答辭書。こたへがき。いひらき。女の
 書。⑫法律の書。口頭辯論にて、答辭せんらする事項を記載
 したる、準備の書。⑬の。
 たふ 國國田籍。昔、田島の段別、山川の地勢なごをしるし
 たる、官の簿。⑭
 たふ 國國多聞。物事を、多く聞き讀りて居ること。博識。
 博聞。
 たふ 國國他聞。世間に聞ゆること。よそのきこと。外聞。
 たふ 國國多分。數量の多きこと。圖たはくは。あらま
 しは。たいて。
 たふ 國國多分。たふむにたなじ。⑮
 たふ 國國魂註。秋き感はす。たまふ。たまかす。

のねにな ててつちた そせすしき こけくきか たえういあ

たふ 國國倒。俗に、たふれる。①立ててあるもの、横
 に伏す。ころが。②死す。

たふ 國國狂。心亂る。氣狂ふ。まぢがひになる。③

たふ 國國鷹振。鷹の身ぶるひすること。④

たふ 國國手振。手を振ふこと。⑤

たふ 國國答禮。他の禮に答へて、自分よりも禮すること。
 挨拶すること。⑥

たふ 國國狂心。亂れたる心。たはれこころ。さす
 がひ。⑦

たふ 國國斃死。往來なごに、倒れて死ぬること。⑧
 きたふれ。

たふ 國國答和。こたへ。返答。⑨

たふ 國國木。木の皮にて織りたる織物。たく。かぢわの。⑩

たふ 國國田部。①屯家の田の耕作に役する民戸。②二ひひ
 むれの民。③

たふ 國國食津。食ひあましたる残り。くひあまり。④

たふ 國國難堪。俗に、たふがたい。しのびがたし。
 こらへられずあり。⑤

たふ 國國堪籠。こらへて籠りある。⑥

たふ 國國堪忍。こらへしのぶ。がまんす。⑦

たふ 國國魚。魚を捕ふる具。竹にてつく。⑧

たふ 國國妙。すぐれてめでたく。勝れてふしぎに。めうに。
 たふ 國國食刺。くひあまり。⑨

たふ 國國那邊。うづく。うづく。⑩

たふ 國國多辯。くちまめ。たしやべり。隨舌。
 たふ 國國安辨。をりあふこと。安辨。
 たふ 國國食物。くひもの。
 たふ 國國食醉。酒を飲みて酔ふ。くらひるふ。
 たふ 國國髮。婦人の髪を結びたる一部の、頭へ張り出した
 たるもの。たふ。②若き婦人。東京の語。
 たふ 國國打撲。うちたたくこと。
 たふ 國國影差。たはぶめにたなじ。
 たふ 國國包留。巻の手の散らぬやうに巻を括む具。銅
 鐵、適用なごにて造る。
 たふ 國國包挾。たはぶめにたなじ。
 たふ 國國魚名。はぜの極めて小さきもの。③
 たふ 國國包籠。かつらの一種。
 たふ 國國包撓。たむむまに見えてあり。④
 たふ 國國包撓。たむむまに見えてあり。⑤
 たふ 國國珠。①貫き行類の總稱。珊瑚なごの如き、美しきも
 の。玉。②あこやだまの翠。③凡て、物の美しきを細へてい
 ふ。たまの男の子に因ある事をなすに、種なる人、又は物。④
 たふ 國國丸。一回き形體の細稱。⑤てんほうだま。銃丸。⑥
 珠の玉の形をなげる紋所。
 たふ 國國魂。たましひの翠。
 たふ 國國馬。だうまにたなじ。
 たふ 國國玉。凡て、まろくかたまりて、玉の形の如きもの。⑦
 たふ 國國魂合。心が合ふ。氣があふ。⑧

をるわ ろれるりら よゆ もめんむみま はへふひは

たすけ玉椿。木の名。一帯の美稱。二しらたまつはぎにたなじ。三ひやんちんにたなじ。

たすけ玉手。手の美稱。

たすけ玉手匣。一雄略天皇の御代に、丹後國水江の浦の浦島子が、龍宮に入りて得たりといひ傳ふる匣。二種の重寶なる物品なごを秘めたく匣。たくら。三にしき等の類。

たすけ玉床。古、人死の後に、その死人の床を、七日の間、そのまゝになし置けるもの。

たすけ玉殿。神の宮を鎮め祀るもの。

たすけ玉弄丸。しなだまにたなじ。

たすけ玉球菜。草の名。幅ひろく、短かき葉、圓らかに、かたまり生じて、味、最も美なり。も西洋より舶來せるもの。

たすけ玉無玉。めめてのもの、全くなくなる。首無になら。それを取られては、たまなした。

たすけ玉偶。まれに。たまさかに。わくらには。

たすけ玉葱。草の名。葱の一種。根大きくして、球塊をなす。西洋より舶來せるもの。玉葱。

たすけ玉玉簪。玉を以て飾りたる如く、美しき髪飾り。

たすけ玉冠。古、天子の、御即位の時につける髪飾り。

たすけ玉額。玉の如くうるはしき額。

たすけ玉輿。貴人の乗る輿の美稱。

たすけ玉音。うるはしきこゑ。

たすけ玉姿。玉の如く美しき姿。

たすけ玉塵。雪の異名。

たすけ玉櫃。玉の如く美しき櫃。

たすけ玉砌。玉を敷きたる如く美しき石畳。

たすけ玉御殿。玉の如く美しき御殿。

たすけ玉都。玉の如く美しき都。

たすけ玉玉簪。玉に飾りたるもたひ。

たすけ玉草。草の名。みそはぎにたなじ。

たすけ玉夜夜殿。たまごにたなじ。

たすけ玉夜夜床。たまごにたなじ。

たすけ玉夜夜梅。木の名。梅の一種。花は、白色の單瓣にして大輪なり。香氣強く、多くの實を結ぶ。

たすけ玉緒。玉を繋ぎつうりたる緒。二ひのち。たまごにたなじ。

たすけ玉緒許。しほじ。わづかのあひだ。時。萬葉集桑子にもなましものをたまごのをはかり。

たすけ玉橋。玉の如く美しき橋。

たすけ玉賜。あたへ給ふ。拜領せしむ。

たすけ玉花。露の異名。

たすけ玉簪。玉に飾りたる簪。二ひのち。玉の日の松を添へて造りたる簪。三酒の異名。四草の名。はらにたなじ。五植物。松の異名。

たすけ玉靈葬。玉を葬むること。

たすけ玉賜物。たまはりたる物品。頂戴物。拜領物。

たすけ玉賜。さつか。くださる。頂戴す。拜領す。

たすけ玉嘔吐。いひのたまひにたなじ。

たすけ玉羅。日陰かつらの美稱。

たすけ玉朝の異名。

たすけ玉賜。與ふ。授く。たまはる。たすけ。たすけ。

たすけ玉給。他人の動作を表はす動詞に添へて、敬意を示すに用ゐる。玉給。己が動作を表はす動詞に添へて、敬意を示すに用ゐる。

たすけ玉縁。物のへりの美稱。

たすけ玉縁笠。うつくしく、ふちをきりたるあみかさ。

たすけ玉偏。漢字の琉、珠、玩等の字の左傍にある玉(玉)の字の墨の字の稱。

たすけ玉穗。草の名。葉は、ちがやに似て、赤はみて、黄色なる穂を出す。

たすけ玉銚。玉を飾りたる銚。

たすけ玉火屋。圓きまや。

たすけ玉玉櫃。玉をまきたる如く、美觀に見ゆ。

たすけ玉玉松。松の美稱。

たすけ玉靈祭。亡き人の靈をまつること。古は、年末に行ひ、今は、七月に行ふ。

たすけ玉見草。植物。萩の異名。

たすけ玉味噌。通常の味噌の製法と異なり、大豆を焙かすに、塩をなして、蒸に包みて貯へ置くを異り。

たすけ玉水。あまたりにたなじ。

たすけ玉魂迎鳥。鳥の名。はらにたなじ。

たすけ玉蟲。虫の名。形、こめつきむしに似て、大さ一寸ばかり、六足あり。背に、硬き甲ありて、堅に、羽の條あり。腹は、線にして、共に金光を帯びてうるはし。

たすけ玉蟲色。むしあをにたなじ。

たすけ玉結。遊離せる靈魂を結びとらむること。なごの結ぶ方。

たすけ玉紫。木の名。枝、葉、ともに、柱に似たり。秋の頃、葉色の小さき野、数をむらがりなる。

たすけ玉裳。形、袴の如くにして、昔、官人の、腰に纏ひたるもの。

たすけ玉目。くす、けやきなごの、材の木理の、渦巻の如き文をなせるもの。

たすけ玉賜物。賜はりたるもの。たまはりもの。頂戴物。拜領物。

たすけ玉器。玉の如く美しきもひ。

たすけ玉靈屋。亡靈を祀る祠宇。多くは、その寓所の側なごに建つ。

たすけ玉柳。柳の美稱。

たすけ玉床。床の美稱。

たみゆの玉響。一かすかに。あるかなきかに。二しは

たみゆの保籃。敵の銃光を防ぐ具。

たみゆの魂喚。死者の魂を呼びかへすこと。招魂。

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみゆの溜。一たまること。物の集まること。二人の集ま

たみちの田路。あきみち。なほて。藤。

たみちの田水。田に溜りてある水。

たみちの民部省。みんぶしやうにたなじ。

たみちの彩畫。色泥ならにて彩色したる繪。

たみちの醜桶。造酒屋にて用ゐる。片手桶の大なるも

たみちの回。うねりめぐる。

たみちの採。一木、竹などの曲りたるを、伸へて、真直

たみちの溜。俗に、ためる。たまらしむ。集む。積む。

たみちの訛。なまら。にこ。語ただしからず。聲。純

たみちの彩色。いろもろ。着色す。

たみちの手向。てむかひにたなじ。抗。

たみちの田向。田のある方。

たみちの手向。一俗に、たむける。神佛などに、物

たみちの手向。一俗に、たむける。神佛などに、物

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たみちの田溝。田の間の小さな溝。用水。

たむけの手向草。植物。松の異名。

たむけの手向神。旅行する人の、安全を祈るた

たむけの甜酒。あまじけにたなじ。

たむけの田蟲。瘡の一種。皮膚に生じ、輪の形をなす病。

たむけの田拱。手をこまねく。

たむけの田空手。何も、手にもたぬこと。からて。

たむけの田素皮。木の名。こねりのきにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田村草。草の名。山野に、布きたることく

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たむけの田屯。たむけにたなじ。

たんか

たんか 担架。戦争のとき、負傷者を載せて運搬する具。
 たんか 檀家。だんなにたなじ。だんけ。
 たんかい 段階。だん。しな。階級。
 たんかい 弾効。非をならして發くこと。役人などの罪
 あるを訴ふること。
 たんがい 斷崖。だんがんにたなじ。
 たんかう 炭坑。石炭の出づる坑。
 たんかう 檀香。せんだんにたなじ。
 たんかう 斷行。けつだんにたなじ。
 たんかう 短褐。短き褌子。
 たんかう 丹甲。あか色に塗りたるよろひ。
 たんかう 單裕。ひこへあはせ。
 たんかう 談合。かたりあふこと。はなしあひ。相談。
 たんかん 報顔。顔をあからむること。
 たんかん 斷簡。きれぎれの文書。
 たんかん 斷岸。きりぎりし。がけ。斷崖。
 たんかん 丹殼。紫赤色の染料。す。へにがら。紅梅皮。
 たんき 單騎。一人の騎者。
 たんき 短氣。氣みぢかなること。性急。
 たんき 短期。期限の短きこと。わづかのま。
 たんき 膽氣。肝ぶさきはさあひ。膽力。勇氣。
 たんき 彈基。凸面なる盤に、兩人對坐し、各、六箇の茶
 子を以て行ふ技。一盤に、茶子を置き、これを彈きて、中央の

たんか

凸面をこえて、敵の茶子に彈きあつれば、これを我が物とし、
 當らざれば失ふ。かくして、茶子の、早く盡きたる方を、負こ
 たんき 暖氣。あたたかなる氣候。
 たんき 團喜。くわんぎだんにたなじ。
 たんき 彈機。はじき。はね。
 たんき 談義。一事の義理を語ること。説法。講義などの
 類。二淨土宗にて、その宗旨を、信者に説き聞かすこと。法
 談。三つ。調成。四。團だんがんにたなじ。
 たんき 探究。さぐりきはむること。
 たんき 彈弓。たうゆみにたなじ。
 たんき 彈基機。いしはじき。
 たんき 談義僧。法談をする僧。
 たんき 單級法。學力の異なる生徒を、一室に集
 めて教授する法。
 たんき 段金。段子。金綱。
 たんき 彈琴。琴を弾くこと。
 たんき 斷金。契約の堅きに譬へていふ。
 たんき 痰切。痰切飴の器。
 たんき 痰切飴。かた飴を、薄く區くひき延べて、
 五六分に切りたるもの。
 たんき 痰切豆。黒豆の、甚だ小さきもの。糧豆。
 たんき 丹花。一紅色の花。二唇の美なるを、譬へてい
 だんか 團會。よりあひ。くみあひ。

たんわ

たんわ 蛋黃。卵の液の黄色なる部分。きみ。
 たんわ 丹款。まじころ。赤心。
 たんわ 歎願。事情をうちあけて、ねがふこと。
 たんわ 彈丸。銃砲にこめて發射する丸。銃丸。
 たんわ 彈丸黒子地。たまたま、ほく
 ろこは、小さきものなれば、狹き土地にたこへていふ。
 たんわ 檀家。だんにたなじ。
 たんわ 短檠。たけひくき行燈。
 たんわ 端溪。支那廣東省端州の端溪より産する石。
 車に載に送る。色、淡紫にして、質、緻密なり。端硯。
 たんわ 端倪。ただしくみること。じつみみること。
 たんわ 端月。正月の異稱。
 たんわ 端月。六月の異稱。
 たんわ 淡月。むほろづきにたなじ。
 たんわ 團結。人人の組み合ふこと。
 たんわ 斷決。けつだんにたなじ。
 たんわ 短劍。みじかきつるぎ。短刀。
 たんわ 短見。あやふきを犯して探ること。
 たんわ 端巖。たこそかなること。まじめなること。
 たんわ 斷言。いひきること。
 たんわ 炭庫。石炭を入れたる倉。せきたんぐら。
 たんわ 鬼ごころの戯をする時、捕へらるるを防ぐため

たんわ

の相類に、指指と、食指にて、團子の如きまろき形をつくる
 こと。これを束に示せば、捕へらるるも、已れ束ごならす。
 たんわ 單語。單純のことば。一個の言。(單語に對して)
 たんわ 端午。五節句の一。陰曆五月五日、菖蒲。蓬なご
 を、軒にさしていはふ。男子の節句にて、幘、甲冑、軍人形なご
 を飾り、柏餅を食ふ。
 たんわ 團子。だんぐわんにたなじ。二しんご餅の、ま
 ろくまのめたるもの。糕。
 たんわ 團子石。團子の如く圓き石。
 たんわ 淡紅。うすべに。うすあか。
 たんわ 短項。かくびにたなじ。
 たんわ 暖國。氣候の暖かなる國。
 たんわ 斷獄。罪狀を斷決すること。
 たんわ 丹後縞。丹後國より産する織物。多くは、
 絹布なり。
 たんわ 丹後縮。ちぢみの一種。丹後國より産す。
 たんわ 斷骨。齒の異名。
 たんわ 丹後紬。紬の一種。丹後國與對郡岩津村
 より産す。
 たんわ 斷乎。きつぱり。
 たんわ 丹後菜。草の名。だいにたなじ。
 たんわ 團子鼻。鼻のさきの、尤くして高きもの。
 たんわ 團子火矢。鳥銃の異名。
 たんわ 痰癆。こころにたなじ。

たんぞん 丹後師。丹後國より産するもの。味、こ
たんぞん 斷魂。だんぢやうにたなじ。「に美なり。
たんぞん 嘆嗟。なげくこと。
たんぞん 丹砂。しんしゃにたなじ。
たんぞん 端坐。正しく坐すること。正坐。
たんぞん 團坐。くるまきに坐すること。
たんぞん 短才。才氣の足らぬこと。智慧のなきこと。鈍
才。小才。
たんぞん 淡菜。貝の名。いのがひにたなじ。
たんぞん 單縷。ひもの縷。
たんぞん 斷罪。罪を定むること。
たんぞん 短槍。てやり。柄の短き槍。
たんぞん 探索。さがしもぐること。探偵。
たんぞん 短冊。一紙を、細長く切りて、字をしるし、物
の標なすにつくるもの。義。二和歌を書き料紙。通常、一尺一
寸五分、幅一寸八分。
たんぞん 短冊石。長方形にきりたる石。庭の敷石
なり。
たんぞん 探索掛。たんでいがかりにたなじ。
たんぞん 短冊掛。短冊をかけ置いための具。
たんぞん 短冊切。短冊の如く、長方形に切る料理。
たんぞん 短冊豆腐。豆腐を、短冊なりにきり
たる料理。
たんぞん 炭酸。炭素と、酸素との化合したるもの。

たんぞん 單衫。かたばら。
たんぞん 炭酸瓦斯。炭素と、酸素との化合した
る瓦斯。有毒なり。
たんぞん 炭酸曹達。炭酸と、曹達との化合し
たるもの。食鹽より製す。
たんぞん 短視。ちかめにたなじ。
たんぞん 箏食。わりこに盛りたる飯。へんたう。
たんぞん 單思。考へこむこと。
たんぞん 貪食。むやみにくらふこと。
たんぞん 男子。一をこのこと。なんじ。二をこのこと。ます
ら。丈夫。
たんぞん 檀紙。厚くして、上品なる紙。みぢのくがみ。
たんぞん 彈子。てっぱうだま。彈丸。
たんぞん 男兒。をこのこと。
たんぞん 談次。はなしのついで。
たんぞん 斷食。ある日限の間、食を斷つこと。
たんぞん 短日。たんじやうびにたなじ。
たんぞん 短日。短き日。ひみじか。
たんぞん 暖室。暖き部屋。むろ。
たんぞん 膽汁。膽の中にある、黄色なる液。
たんぞん 丹心。まごころ。
たんぞん 單身。ひみりみ。身ひとつ。

のねにな までつた そせすしさ こけくきか たえういあ

たんぞん 誕辰。誕生したる日。うまれび。
たんぞん 丹砂。しんしゃにたなじ。
たんぞん 單舍。單舍利の器。
たんぞん 彈射。はじきて射ること。
たんぞん 端莊。威儀あること。
たんぞん 歎賞。ほめはやすこと。
たんぞん 誕生。人の生れ出づること。
たんぞん 男娼。かけまにたなじ。
たんぞん 彈正。彈正家の官人の總稱。
たんぞん 彈正臺。風俗を矯正し、百官の罪惡を
正しなする古の役所。
たんぞん 誕生日。人の生れ出でたる日。誕辰。生
たんぞん 短尺。たんきくにたなじ。「の。
たんぞん 男爵。五爵の一。五爵の、最下に列するも
たんぞん 男爵。白糖六十五匁を、蒸溜水
三十五分に溶解したるもの。
たんぞん 短綬。組紐のみじかきもの。
たんぞん 斷首。くひきること。
たんぞん 短銃。びすること。たねがしま。
たんぞん 短縮。さむざむすること。みじかくなること。び
ちやくすること。
たんぞん 單純。ひびすなすること。まじりのなきこ
たんぞん 短處。足らぬこと。至らぬこと。缺點。

たんぞん 端書。はがき。紙の小切なさに書きたるもの。
たんぞん 探勝。山水の勝地を探りあること。
たんぞん 單筒。一大なる匣の如きものにて、前にひきだ
しをつり、又は柵を設けたるもの。調度を入れ、若くは、載
する用とする。二特に、衣服を収め置くための、抽出しある大
なる匣。
たんぞん 團圓。なげく。歎息す。
たんぞん 團圓。ひく。かきならす。奏す。かなづ。
たんぞん 淡水。しほけなき水。まみづ。
たんぞん 丹誠。まごころを盡してもの。こころをこころ。
たんぞん 嘆聲。なげきのこゑ。
たんぞん 端正。ただしきこと。
たんぞん 丹青。彩色したる繪。
たんぞん 男聲。音調の、甲より低きこゑ。
たんぞん 短小。ちひさきこと。みじかきこと。
たんぞん 談笑。はなしながら笑ふこと。「談。
たんぞん 旦夕。あさはん。あけくれ。朝夕。晨昏。旦
たんぞん 祖禱。はだをぬぐこと。
たんぞん 痰咳。痰の出づる咳。
たんぞん 儋石。量目のわづかなること。
たんぞん 短折。わかじに。天死。
たんぞん 斷絶。續せぬこと。きれてたゆること。

をえわわ るれるりろ よゆや もめんむみま ほへふひは

たんせふ

たんせふ 男妾。をこめかけ。
たんせん 端船。はしけぶね。はたせ。
たんせん 丹前。一丹前妻の譽。二芝居の語。俳優の、

たんせり

たんたい 暖帯。をんたいにたなじ。
たんたい 團體。ひとむね。一隊。
たんたう 短刀。短くして小さき刀。あひくち。

たんせり

たんちやう 暖帳。たれぬのれん。
たんちやう 断腸花。草の名。しうかいだうにた
たんちやう 檀中。だんな。檀家。

たんばう

たんせり 段取。したく。こころがまへ。てはづ。
たんばう 檀那。ふんざしにたなじ。
たんばう 檀那。一佛道に、恵を與ふる信者、即ち施主。且

をるわ ろれるり ろ よゆや もめんむみま ほへふひは

のぬにな てつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

たんぼら 図 誕妄。うそ。でたらめ。虚妄。
 たんぼら 図 男房。富仕せる男。女房に對して「平家物語
 「女房もたんぼらもあ射たりご感じけり」
 たんぼら 図 煖房。わたましのいはひ。轉宅の就。
 たんぼら 図 檀方。だんかにたなじ。
 たんぼら 図 痰吐。吐き出したる痰の入れ物。睡聲。
 たんぼら 図 淡泊。濃厚ならぬこと。さほりこしたるこ
 こと。あさりこしたること。
 たんぼら 図 蛋白。卵のしろみ。
 たんぼら 図 蛋白質。蛋白ご。成分のたなじきもの。
 たんぼら 図 蛋白石。石英の類。色、黄、褐、綠、白等、
 種類あり。
 たんぼら 図 丹波栗。木の名。實の大なる栗。てうち
 たんぼら 図 丹波越。かけたちをするこの隠語。「き
 のふの富貴、けふたんぼら」
 たんぼら 図 丹波階子。箱段に造りたる階子。きざし。
 たんぼら 図 丹波烟草。丹波國より産出する烟草。
 たんぼら 図 斷髮。髮を切りて、束ねずにたくもの。さき
 かみ。散髮。
 たんぼら 図 段鼻。段つきたる鼻。鼻筋に、高低あるも
 たんぼら 図 丹波酸醬。草の名。葉、桐の葉に似て
 小さく、夏白花開きて實を結ぶ。實は、五稜の葉の中にありて、
 熟すれば赤くなる。
 たんぼら 図 丹磐。洞山の坑の中に、垂れさがりて生ず。皮
 分は硫黄銅なり。

たんぼら 図 談判。かけあひにたなじ。
 たんび 図 歎美。感心してほむること。感歎。歎詞。
 たんび 図 度。たびの訛。
 たんび 図 斷碑。いしぶみのかけ。欠け破れたる碑。
 たんび 図 段平。刃のははひるき刀。剛刀。
 たんび 図 斷臂會。願家にて行ふ十二月九日より十日
 たんび 図 擔夫。荷物なごを擔ぐ人。かつぎ。荷持ち。
 たんび 図 坦腹。肥えふごりたる腹。
 たんび 図 段袋。一綿なご入るるための布製の大きな
 袋。二細きまちだかの袋。
 たんべい 図 短兵。みじかき兵器。刀にて接戦すること。
 たんべい 図 談柄。はなしのたね。「いめに
 たんべい 図 短兵急。急ぎ追まうてはやくて
 たんべい 図 簞瓢。めしびつこ、さげつこ。
 たんべつ 図 段別。一田を、一段毎に別つこと。二田畑の
 度別、大小の區別。
 たんべん 図 短篇。結構の短き詩文章。
 たんべん 図 斷篇。短き文章。きれぎれの文章。
 たんべん 図 斷片。きれはし。きれはし。
 たんべん 図 啞鈴。英語 Dumb-bells、鐵棒を軸となし、
 兩端に鐵丸を附し、其鐵軸を握りて運動をなす器。
 たんぼら 図 日暮。朝ご、夕ご。あけくれ。

のねにた ごとつらた そせすしき こけきか たえういあ

たんぼ 図 田圃。田畠の地。
 たんぼ 図 一革。又は布に、綿なごを包みて、たくなせるもの。袴
 古用の檢の頭ごし、若くは、右指の委を塗るに用ゐる。二下水
 なごを溜むるつば。
 たんぼ 図 湯婆。銅製、又は陶製にて、一方の口より、熱湯
 を注ぎ入れて、身體を暖むるに用ゐるもの。
 たんぼ 図 擔保。法律の語。債權者に對して、債務者の財
 産の無。擔當。
 たんぼ 図 蒲公英。草の名。たんぼはの畧。
 たんぼ 図 日暮。あさゆふ。朝夕。
 たんぼ 図 擔保品。擔當として、借主より、貸主へ預
 け置く品物。擔當品。
 たんぼ 図 蒲公英。一草の名。原野に生ず。春の末、や
 や菊並に似たる花を開く。色は、黄、白あり。葉は、中空にし
 て、葉と共に、食ふべし。たんぼ。二あけびをいふ。北國の方
 たんぼ 図 田圃道。あせみちにたなじ。「言。
 たんぼ 図 槍の頭。たんぼを附けたるもの。槍術練習
 の用ひす。稽古槍。
 たんぼ 図 斷末摩。佛教の語。だんまつまにたなじ。
 たんぼ 図 斷末。はし。さき。する。をほり。「終。
 たんぼ 図 斷末摩。佛教の語。しにぎは。いまは。斷
 たんぼ 図 黙。一物いはぬこと。だまり。無言。二特に、
 芝居の狂言に、無言にて、技を演ずること。
 たんぼ 図 淡味。うすあじ。淡泊なる風味。
 たんぼ 図 旦明。よあけ。あけがた。

たんめい 図 短命。短きいのち。わかじに。夭折。
 たんめい 図 貪名。名譽をほしがること。
 たんめい 図 椀面。せきめんにななじ。
 たんめい 図 斷面。きりぐちにたなじ。
 たんも 図 袂。たもとをいふ。見供の語。
 たんも 図 痰持。痰の病ある人。ぜんそくもち。
 たんも 図 段物。衣服に仕立つべき布帛。反物。
 たんも 図 段物。淨瑠璃の語り物の、一段落づつに分か
 れたるもの。
 たんもん 図 檀門。二またんにたなじ。
 たんや 図 短夜。みじかきよる。みじかよ。
 たんや 図 鍛冶。かぢ。かぢぢ。
 たんや 図 端陽。五月。端午の月。
 たんや 図 丹藥。蜜なごを加へて練りたる藥。ねりやく。
 たんや 図 彈藥。銃砲の丸ご、合點ご。たまごすり。
 たんらん 図 段落。一文筆中の切れ目。二轉じて、ものこ
 こ。のくきりめ。
 たんらん 図 貪婪。むさぼりこ。慾の深きこと。
 たんらん 図 團樂。くるまごに坐すること。まごる。
 たんらん 図 貪利。利をほしがること。
 たんらん 図 湍流。はげせ。ながれの急なること。
 たんらん 図 檀林。てら。寺院。
 たんらん 図 膽略。剛膽にして、智略あること。

をるわ るれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

ちかちか 乳母。うはにたなじ。

ちかちか 墮胎。こたろしにたなじ。

ちかちか 地價。地面の價。土地賣買の價。

ちかちか 治下。しほした。

ちかちか 治家。一家を治むること。

ちかちか 地下。地のした。

ちかちか 持戒。佛教の語。佛の戒を守ること。

ちかちか 地審。あなぐら。

ちかちか 近劣。遠見にはよくて、近くよればたごりて見ゆること。

ちかちか 近衛。近しむこと。

ちかちか 近衛府。このふにたなじ。

ちかちか 近親。ちかきやから。きんしん。血縁。

ちかちか 近親。ちかきよりたなじ。

ちかちか 知覚。しりさるること。しりさるる心のはたらき。

ちかちか 地學。ちりがくにたなじ。

ちかちか 乳隠。乳房をかくすべく作りたる眼。

ちかちか 誓詞。ちかひをたてていふ詞。

ちかちか 誓詞文。誓約のこゝばをききしめたる文。

ちかちか 近頃。このころに。近來。

ちかちか 近。俗に、ちかひ。一彼此の間、程はからずあ

ちかちか 二疎遠ならずあり。親し。

ちかちか 親。俗に、ちかしい。互にむつましくあり、心安

ちかちか 地貸。地面を貸すこと。また、そを業とする人。

ちかちか 血方。婦人の病。

ちかちか 地方。一國國の在郷。田舎。二知行する土地。承地。徳川時代の語。三航海者の語。陸地の方。

ちかちか 血刀。血にまみれたる白刃。血の付きたる刀。

ちかちか 直談。ちきだんの轉。

ちかちか 地固。ちきやうにたなじ。

ちかちか 近近。親し。なかよし。むつまし。

ちかちか 近近。近き日の中に。近頃。近日。

ちかちか 近付。一懸差にすむこと。また、その人。しりあひ。知己。相識。二いふたんにたなじ。

ちかちか 近付。一ちかよるにたなじ。二なれしたしむ。押る。昵近す。三國國。俗に、ちかつける。ちかつかしむ。近く寄す。傍へ來らす。

ちかちか 直付。一直接に、手をつくること。二茶屋にからず、直に、遊女屋へ趣くこと。三茶屋

ちかちか 近隣。うだたりさきことなり。

ちかちか 直。すまに。直接。

ちかちか 地金。一金物に作るべき下地の金。二銀金の受とする金。三もまへの氣分。本心。本性。四ちがねを出して。

ちかちか 誓。一ちかふこと。二佛の、人を救はんことを心の定め。

ちかちか 近勝。遠くはなれ居て見るより、近寄り見れば、まはるること。

ちかちか 近邊。ちかほりにたなじ。

ちかちか 地髪。生まれながら生い出でたるまの鬚。

ちかちか 地紙。一扇などに貼るべき紙。二その土地に産する紙。

ちかちか 近路。ある所にいたるに、道程の、他の道よりは近きこと。捷徑。

ちかちか 近眼。はかもの。のろま。まねけ。

ちかちか 近眼。近きところは、明かに見えて、遠くは、正かに見えぬ。近視眼。短視。

ちかちか 茅菅。草の名。ちになじ。

ちかちか 近。ちかく寄りて。

ちかちか 近寄。俗に、ちかよせる。近くよらしむ。傍に來らしむ。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 近寄。傍へ寄る。近くへ到る。接近する。

ちかちか 近寄。ちかよること。ちかつくこと。さかくせまる。

ちかちか 図違。ちがふこと。たがふこと。不同。差異。ちかちか 交應。鷹の羽を、左右より合せたるさまに

ちかちか 違棚。棚板を、半は上に、半は下に、左右より向き合せに、吊りちがへたるもの。

ちかちか 弘誓海。佛教の語。佛の、汎く衆生を濟度するを、海にたとへていふ。

ちかちか 弘誓船。佛教の語。佛の衆生を濟度して、彼岸に渡らしむるを、船に譬へていふ。

ちかちか 誓文。誓を書きのせたる文。

ちかちか 違目。ちがひたること。異なる部分。

ちかちか 誓。一神佛にかけて契る。二殊に、杖かじり約束す。

ちかちか 違。一いりまざる。かはす。交。二たがふにたなじ。俗に、ちがへる。ちがはしむ。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

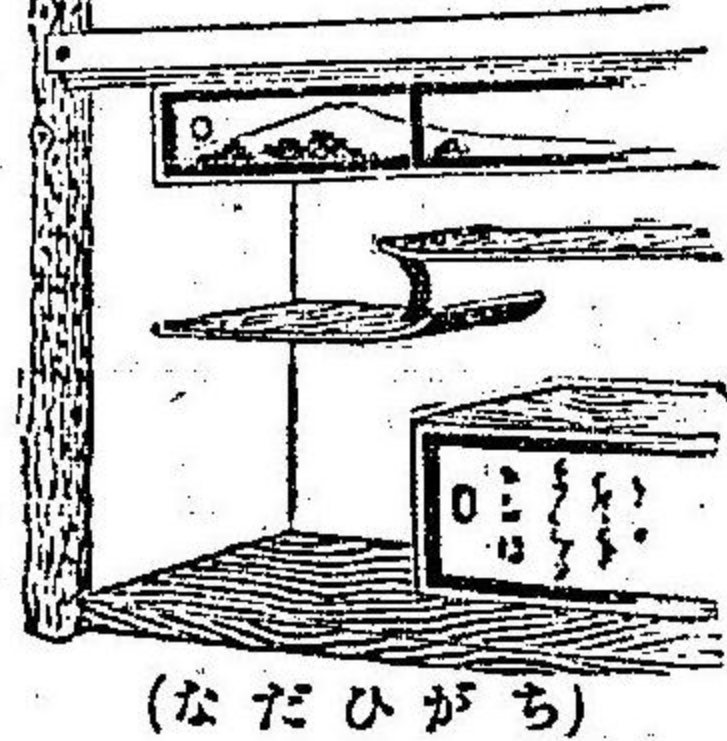
ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。

ちかちか 違棚。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。ちがひたなは。



(なだひがち)

ちからたぎる 図力落。氣力を失ふこと。ガツかりこする。①

ちからがね 図力金。しめがねにたなじ。②

ちからがは 図逆韮。一かこがしらを、鞍のみづをに繋ぐ草。しめがは。二誤りて、みつをにたなじ。③

ちからがみ 図力紙。一相撲ごりの、もごりを結ぶ紙。二佛寺の山門に接置しある仁王に、力の強くならんに祈願して、噛みて投げつける紙。④

ちからぎ 図力木。櫓の床板の上部の、左右にこりつけた。⑤

ちからご 図税慶。貢米を蔵め置く。⑥

ちからご 図力競。力の強きを競ふ業。相撲。角力。⑦

ちからご 図力車。重き物を載せて挽く車。⑧

ちからご 図力毛。強壯なる人の胸、腕、脛などに生ずる毛。肉の張りて、固く服れてあらはるるもの。⑨

ちからご 図力瘡。力を出だすとき、二の腕の上部に筋肉の張りて、固く服れてあらはるるもの。⑩

ちからご 図税稻。みつぎものに差出す稻。⑪

ちからご 図力芝。草の名。路傍に生ずる。葉長く、麥の如し。秋、藪をだして、穂をなす。狼尾草。⑫

ちからご 図税代。貢の代りに奉るもの。⑬

ちからご 図力盡。うてつく。⑭

ちからご 図力付。元氣出づ。氣力を生ず。(病後なちからづくの) 図力償。ちんしんこにたなじ。⑮

ちからご 図力手。力つよき腕。腕力のある手。⑯

ちからご 図力人。力の強き人。力士。健兒。⑰

ちからまかせ 図力任。カのあるに任せて。ある限りの力を出だして。⑱

ちからま 図力負。角力なきにて、力を入れ過ぎたるために、却りて度を失ひて、負をこるること。⑲

ちからみ 図力水。相撲の土俵際の東西に、手桶に、水を入れ置き、力士に與ふるもの。化粧水。⑳

ちからも 図力持。一力強き人。腕力つよき人。二行、その他、重きものを擡げて、種種の技藝をなす人。㉑

ちからも 図力餅。相撲場にて賣る、いまさかもち。㉒

ちからわ 図力業。力を用ひてなす仕事。力作。㉓

ちからり 図地借。地所をかり入るること、また、その人。㉔

ちからわ 図近別。近き處にわかれてあること。近所にわかれてあること。㉕

ちから 図知己。己の心を知れる人。ちかづき。しるべ。知。㉖

ちから 図地氣。雨後なみに、土中より昇る蒸發氣。すいき。ちぎりやいふ。關西の方言。㉗

ちから 図扛秤。上古の家の遺風にて、神宮なごの屋上にこりつけたる、片削ぎに交又したる材。㉘

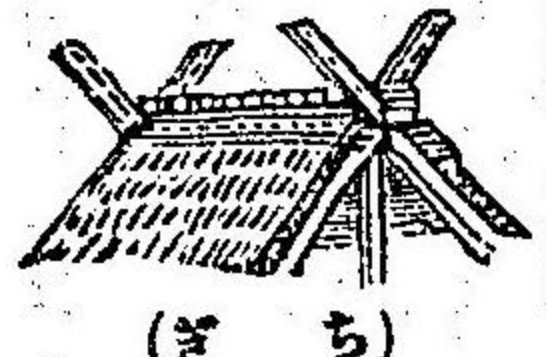
ちから 図乳木。にうはくにたなじ。㉙

ちから 図地祇。くにかみ。くにつかみ。㉚

ちから 図遅疑。たゆたふこと。ためらふこと。躊躇。狐疑。㉛

ちから 図地球。吾人の住む大地。太陽系第三の行星。世界。與地。㉜

ちから 図持久。久しく持ちこらるること。ながもちする。㉝



のねにな きてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

ちから 図地球儀。紙又は布にて、球の形をつくり、その表面に、地球の全圖を畫きたるもの。①

ちから 図地久節。皇居陛下の御誕生日を祝ひ奉る。②

ちから 図直參。直接に、君主に仕ふる人。直臣。③

ちから 図直支配。直接に支配すること。直轄。④

ちから 図直輸出。外商の手を經ずして、直接に輸出すること。⑤

ちから 図直書。その人の、親ら、筆をこり書くこと、また、その書きたるもの。直筆。自筆。⑥

ちから 図直訴。直接の上訴。主に、往時、人民が、その國主の外出の時などに、宛状を、直接に訴へしこと。⑦

ちから 図直奏。他人の手を經ずして、直接に奏聞すること。⑧

ちから 図直達。他人の手を經ずして、直接に傳達すること。⑨

ちから 図直談。ちかはなし。ちかだん。ちきわ。⑩

ちから 図直付。うちつけに。直接に。⑪

ちから 図直傳。他人の手を經ず、直接に、その師たるものより受け傳ふること。⑫

ちから 図直織。腰より下に、ひだのある、俗の衣服。じ。⑬

ちから 図直取引。仲買の手を經ずして、直接に買賣すること。⑭

ちから 図直。一ただちに。すぐに。すぐさま。二すかに。直接に。⑮

ちから 図千木片削。千木の、端をそぎたるもの。⑯

ちから 図千木筒。東京芝神明の祭禮にて、賣りたる玩。⑰

ちから 図直披。當人が自ら開き見ること。書簡の封皮などに書きつくる文字。⑱

ちから 図千木櫃。ちきほくにたなじ。⑲

ちから 図直筆。ちきしよにたなじ。⑳

ちから 図地峽。大陸と、大陸を連接する、せまき陸地。㉑

ちから 図知行。武家時代に、武士にあげがひし領地。承。封土。食邑。領地。㉒

ちから 図持經。常に、身を離さず、經を持ち居て、讀誦すること。㉓

ちから 図地形。家を建てたる時、その地を、平かに固むること。ちがため。㉔

ちから 図持經者。常に、身を離さず經をよむ人。㉕

ちから 図知行所。わが知行とする土地。㉖

ちから 図乳兄弟。同じ乳母に育てられたる子の、互に呼ぶ稱。阿彌弟。㉗

ちから 図知行取。知行所を持ちて居る役人。㉘

ちから 図知行役。知行をあて行ふ武家の役。㉙

ちから 図扛秤。秤の大なるもの。天秤稱にて稱ひて用ひ。一賣目を、單位とす。㉚

ちから 図巾。ひれの類。㉛

ちから 図たはこいれをいふ。あいぬの器。㉜

をえみわ るれるりよ よゆや もめんむみま ほへふひは

きんせき 竹葉。陰曆九月の異稱。
 きんせき 竹亭。竹にて造りし家。竹院。
 きんせき 逐條。各節條を逐ひて。次第に。逐項。逐件。
 きんせき 逐條審議。會議にて。原案なるを逐條に詳細に議する。逐條。
 きんせき 逐電。かけた電にたなじ。
 きんせき 蓄電器。蓄電を蓄する器。
 きんせき 竹葎。ちくふじんにたなじ。
 きんせき 竹馬。たけうま。見供の乗り遊ぶ具。
 きんせき 竹帛。書籍の異名。
 きんせき 違具派員。物の入りまじりて辨はぬ。違具。違派員。
 きんせき 蓄髪。髪をはやすこと。俗侶の遺俗たる。蓄髪。
 きんせき 竹馬友。共に竹馬にのりて遊ぶ友。竹馬友。
 きんせき 竹馬昔。ささなくありし昔。竹馬に乗りて遊ぶ。竹馬の昔。
 きんせき 逐塵。あちこちにびく。まにまにびく。逐塵。
 きんせき 乳首。ちぶさのかしら。すくひ。乳頭。
 きんせき 竹皮色。矢を防ぐ具。
 きんせき 竹夫人。竹にて造りたる椅子の類。たきか。竹夫人。
 きんせき 竹米。竹に結ぶ果。形、小麥に似たり。たけのこ。竹米。

きんせき 逐北。にげだすこと。
 きんせき 竹木。ごころにたなじ。
 きんせき 蜘蛛。虫の名。體圓にして。背に。腹部の凸起より糸を出し。管状の巣を作り。樹根。又は石の下に附着し。その中に棲みて。その底に棲む。ちくぐも。
 きんせき 逐夜。毎晩。毎夜。
 きんせき 畜養。かひやしたること。
 きんせき 千座置戸。古はらへの物を乗せたる。あまたの座。
 きんせき 竹籬。草の名。まつはらにたなじ。
 きんせき 竹籬。竹のまがき。たけがき。
 きんせき 竹林鳥。鳥の名。さうりうにたなじ。
 きんせき 地車。物をはこぶ大きな車。
 きんせき 畜類。家に畜ふ獸類。けだもの。
 きんせき 竹漚。竹のあふら。たかあふら。
 きんせき 竹簾。竹のすたれ。
 きんせき 竹露。虫の名。こぼろきにたなじ。
 きんせき 竹露。酒の異名。
 きんせき 竹軸。松首の。松首の。松首の。
 きんせき 逐鹿。鹿を逐ふこと。天下を争ふことに譬へて。逐鹿。

きんせき 蝶。虫の名。ちくふにたなじ。
 きんせき 竹輪。かまぼこの類。
 きんせき 地火。曆の中段の凶日の名。
 きんせき 馳廻。走せめぐること。かけまはること。
 きんせき 治外法權。外國に居留して。その國の法律外の裁判を得る權。
 きんせき 遅緩。のろまこと。ゆるやかなること。たご。
 きんせき 竹院。竹にて造りし家。
 きんせき 竹園。竹のうゑであるところ。たけその。たけその。
 きんせき 地下。五位以下にして。昇殿をゆるさぬ官人の總稱。二公家衆より。その以外の身分の低きものをさして。地下。
 きんせき 治下。支配の下。配下。二管轄内の村里。
 きんせき 地形。土地の、山川湖海なるの形。地勢。
 きんせき 智計。はかりごと。
 きんせき 智慧。ちえにたなじ。
 きんせき 答刑。ちがひ(答罪)にたなじ。
 きんせき 締給。くつたりの布。夏服なごす。
 きんせき 地血。一草の名。むらさきにたなじ。二あかねにたなじ。
 きんせき 地下人。五位以下の人。
 きんせき 地峽。陸地と陸地との間を繋ぐ。狭き地。
 きんせき 血烟。人を斬りたるごき。血の逆り。

きんせき 地券。政府より人民に下げ渡す土地所有の證據。地券。地價等を記入す。治券。
 きんせき 智級。智慧は、よく、ものを決断する能力あるより。級にたなじ。ちくぐも。
 きんせき 知見。みこみ。さきり。見識。
 きんせき 知客。禪宗寺院の役所。來客の應接の事をいかに。知客。
 きんせき 乳兒。乳を吞む子。みどり。赤子。二ちんちん。乳兒。
 きんせき 祖父。ちぢぢをいふ。奥州の方言。
 きんせき 持基。國家の語。打ち果てて。勝負なきこと。あひ。持基。
 きんせき 地産。あなぐら。
 きんせき 乳兒生。乳見のたひたつこと。をさなごだ。乳兒生。
 きんせき 兒喝食。昔、公家の子息なごのゆひし餐の結ひかた。
 きんせき 乳兒顔。をさなごの。童顔。
 きんせき 治國。國を治むること。民をささむこと。治國。
 きんせき 運刻。定め刻限より。たくらむこと。運刻。
 きんせき 地殻。地球の陸地の表面。
 きんせき 地獄。一佛教の語。冥土六界の一。亡者の、奇責を受くるところ。冥府。奈落。二奇責を受くること。難業の場所。厭屋の如きところ。三障火山なるの、常に燃えて。烟の出づること。四私かに、姪を殺す女。私鬮子。淫賣婦。東京の語。

あざのあ 銀杏。ぎんなんにたなはら。①
あざのあ 鱧珍。あざのあにたなはら。②
あざのあ 木の名。あざのあにたなはら。③
あざのあ 秩父。秩父のあ。④
あざのあ 秩父青石。武蔵國秩父郡の産より産する石。建築用。細砂と共に焼くときは、緑色の玻璃となる。熱泥石。
あざのあ 秩父絹。絹布の一種。武蔵國秩父郡より織り出たす織物。質、少し粗く、常に、衣服の裏地などに用いす。
あざのあ 秩父絞。武蔵國秩父郡より織り出たす、絹地の絹布。
あざのあ 秩父銘仙。銘仙の一種。武蔵國秩父郡より織り出たす。絹布。
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑤
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑥
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑦
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑧
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑨
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑩
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑪
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑫
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑬
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑭
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑮
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑯
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑰
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑱
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑲
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑳

あざのあ 治定。きまりたまはら。あざのあにたなはら。①
あざのあ 脚腫。ためらふにたなはら。あざのあにたなはら。②
あざのあ 持重。大切にして、たるそかにせむにたなはら。あざのあにたなはら。③
あざのあ 松球。まじりくりをいふ。關西の方言。
あざのあ 縮。俗に、あざのあにたなはら。あざのあにたなはら。④
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑤
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑥
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑦
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑧
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑨
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑩
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑪
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑫
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑬
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑭
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑮
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑯
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑰
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑱
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑲
あざのあ 縮。あざのあにたなはら。⑳

あざのあにたなはら せせすしき こけくきか たえういあ

あざのあ 乳附。生れたる兒に、はじめて、乳を飲まする女。
あざのあ 易紅。堆紅の類。朱漆をこまぎきたるもの。
あざのあ 秩序。物事の、亂れぬやう、それぞれ次第するやう。しづか。順序。
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。①
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。②
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。③
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。④
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑤
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑥
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑦
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑧
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑨
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑩
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑪
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑫
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑬
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑭
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑮
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑯
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑰
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑱
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑲
あざのあ 世のあ。世のあにたなはら。⑳

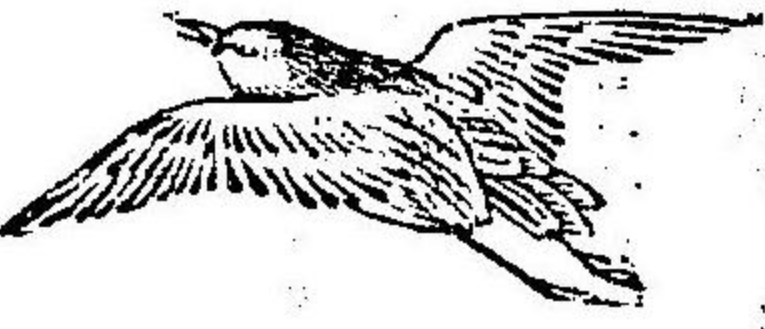
あざのあ 池亭。池のほとりのあざのあにたなはら。①
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。②
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。③
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。④
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑤
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑥
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑦
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑧
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑨
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑩
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑪
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑫
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑬
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑭
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑮
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑯
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑰
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑱
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑲
あざのあ 池底。大地のあざのあにたなはら。⑳

あざのあにたなはら せせすしき こけくきか たえういあ

ちのり 千鳥。一鳥の名。河海の邊に群棲す。羽色より

小さく、頭は黒く、背は白く、背脊黒く、胸は黒く、足には、前に三指、後に一指あり。衝。二枚多の鳥。ちのり。二名香の名。ちのり。二名香の鳥。ちのりに産する鳥。二本邦産の鳥を、舶來のものに區別しての稱。

ちのり 千鳥取。一、家屋を築く前に、地割、地ならしをなす。二、相撲を落古す。三、稽古相撲。



(りきち)

ちのり 千鳥足。路を行くに、千鳥の歩が如く、よろめきて歩むこと。踏踏。

ちのり 千鳥掛。糸を、たがひちがひに、斜にまじへて、かがる。ちのりがけにたなじ。

ちのり 千鳥貝。貝の名。ちのりの一種。

ちのり 千鳥草。草の名。ちのりの一種。

ちのり 千鳥捕風。千鳥形に、斜に交へ組み立てりたる破風。

ちのり 千鳥地内。一、區域をなせる地の構内。境内。

ちのり 千鳥地無。一面に、松川渡のやうに、金箔をかける、昔の女の小袖。

ちのり 千鳥血屋。俗に、ちのりまがひ。鮮血にちのりに因縁。ゆかり。えにし。ゆきよし。

ちのり 千鳥血道。一、血液の通り行く脈管。二、ちのりまがひにたなじ。

ちのり 千鳥血病。婦人の、血運の不順なるよりたなじ。

ちのり 千鳥血粘。土地の形勢の便利。

ちのり 千鳥血乗。足の半は凝りて、粘り氣の生じたるもの。

ちのり 千鳥血輪。茅にて造りたる、大なる輪。人これを浴れば、疫病を避くことより、大紋式に用ゐる。

ちのり 千鳥地方。一、ちかた。一方の土地。二、東京以外の地。みなか。

ちのり 千鳥地方官。府縣郡の行政官の總稱。

ちのり 千鳥地方裁判所。一、府縣内にたける第一の合議裁判所。

ちのり 千鳥地方時。各地方にて、太陽が、その地の千午線の上に来ることを、正午として、數ふる時。

ちのり 千鳥地方税。府縣にて、行政費などに充つため、その地方限りに取り立つる税。(國税に對して)「縣税。

ちのり 千鳥地方廳。地方官の事務を取り扱ふ官廳。

ちのり 千鳥血走。一、血はまはる。二、眼珠に充血して、あからみ、赤くなる。

ちのり 千鳥地蜂。虫の名。じかちちたなじ。

ちのり 千鳥薙髮。鬚鬘を剃り落すこと。

ちのり 千鳥茅花。茅の花。つはな。

ちのり 千鳥因。より起る。よる。たよる。すがる。

ちのり 千鳥呢喃。一、燕などのさしつる聲。二、男女の私語する聲。ちのり。ちのり。

ちのり 千鳥地平。一、地面を、高低なきやうに、平かにする。二、道替りに、砂石などを敷きたる上をならすために、大なる筒状の石。壓境。

ちのり 千鳥地形。土地の有様。地勢。

ちのり 千鳥地鳴。ちひさき。

ちのり 千鳥回落地。すたる。衰ふ。振はす。

ちのり 千鳥回鳴血。血を吐きて鳴く。甚しく鳴く。

ちのり 千鳥茅淳。魚の名。くらだにたなじ。

ちのり 千鳥乳主。うばにたなじ。

ちのり 千鳥地主。その土地の持主。

ちのり 千鳥血塗。魚の名。くらだにたなじ。

ちのり 千鳥血屋。支那にて、牲を殺し、その血を器に盛りて、軍神を祭る。祭。

ちのり 千鳥地鼠。鼠の名。鼠の一種。ちのりまがひに似て、體小さく、尾長し。常に、土中にひそむ。ひみす。池。

ちのり 千鳥血池。地獄にありて、血を流してありしやうの池。地面の三つり形状、即ち高低平。

ちのり 千鳥地四象。地中にある四つの物象、即ち水火土石。

ちのり 千鳥血涙。血の交りたる涙。甚しく哀みて泣くとき出づる涙。

ちのり 千鳥乳離。見供の、凡そ三四歳に至りて、乳を呑むことを止むること。斷乳。

ちのり 千鳥幸。一、ちのりまがひの器。神、幸を興ふ。まきはよ。

ちのり 千鳥血。血をふくむ。血、まにに出でんす。

ちのり 千鳥地盤。一、地球より、水界を去るべき、下に瀆るべき、固形體の層。二、地面の高低の度。

ちのり 千鳥木の名。あしひをいふ。北越地方の方言。

ちのり 千鳥禪。かんなぎの服。白布にて、身二幅袖一幅につくり、山懸にて、水草、鶴、鳥などの模様をつけ、袖を縫はず、紙捻にて括るもの。

ちのり 千鳥茅原。茅のたむたる野原。

ちのり 千鳥人。ちひさきなる人。

ちのり 千鳥千引。千人にてひくべき程の重さの物。

ちのり 千鳥血引。魚の名。形、ほらに似て、大なるは、二三尺に至る。全身、血色をなす。

ちのり 千鳥地引。魚を捕へんため、地網を、海底に張りて、陸地へ引きよする。まきあみ。

ちのり 千鳥地引網。地引に用ゐる、大なる網。

ちのり 千鳥千引盤。千人ならではひき動かし難きほどの盤。

ちのり 千鳥千引石。千人ならではひき動かし難きほどの石。

ちのり 千鳥小刀。刀の短くして、脇差より長きもの。武家にて、装束など着る時に佩用す。ひもがたな。

ちのり 千鳥小蛸魚。魚の名。するめにたなじ。

ちひきもの 図禪。たふさまにたなじ。⑤
ちひきもの 図矮人。せいひく。ちひ。一寸法師。侏儒。
ちひきもの 図小舎人。こさねりにたなじ。⑤
ちひきもの 図小。俗にちひさい。一大きからずあひちひさい。二いごけなし。をさなし。
ちひきもの 図小人。こさも。幼きもの。⑤
ちひきもの 図小。ちひさく。小さきさまに。
ちひきもの 図内堅。ないじゆ(内堅)にたなじ。⑤
ちひきもの 図地額。かづら、たしろいなをを用ひぬ、生れつきのままなる額。
ちひきもの 図少。ちひさく。ちひさく。ちひさく。⑤
ちひきもの 図千人。あまたの人。たほくの人。⑤
ちひきもの 図地響。重き物なを落したるために、地面に起る響。
ちひきもの 図禿筆。手のさきのすり切れたる筆。ほうすぶ。
ちひきもの 図持病。常に病み難む病。宿病。
ちひきもの 図些少。ちひちひにたなじ。⑤
ちひきもの 図禿。ちひにたなじ。
ちひきもの 図千尋。はかりきれぬ長さ。⑤
ちひきもの 図千尋草。植物。竹の異名。⑤
ちひきもの 図乳癰。婦人の乳に生ずる腫物。乳乳。
ちひきもの 図約。てふ。ちひ。⑤
ちひきもの 図茅生。茅の生へてある原。

ちひきもの 図禿。すれきる。漸次に切れて、短くなる。
ちひきもの 図地奉行。道路、家屋のこさなををつかさどる武家の役。市奉行の如し。
ちひきもの 図地幅。門のしきみ。
ちひきもの 図乳脹。三味線の糸座の下の、左右へ、圓く脹れたるこころ。ちひくら。
ちひきもの 図地袋。床間にそへて造れる、小さき戸棚。袋戸。
ちひきもの 図乳房。動物の胸、又は腹の左右にならびて、高く突き出たたる乳を出すもの。
ちひきもの 図乳房報。母の思。⑤
ちひきもの 図治部省。古の八省の一。ちひさむつかにたなじ。
ちひきもの 図瘰癧。瘰癧の名。腹登扶斯の瘰。⑤
ちひきもの 図持佛。常に安置し、若くは、身に添へて信仰する。
ちひきもの 図持佛堂。持佛、若くは、父祖の位牌なを安置せる堂。念誦堂。
ちひきもの 図地太。布帛の織地の太きもの。
ちひきもの 図千船。あまたの舟。たほくの船。
ちひきもの 図地文學。地球、天體との關係、地球を包む空氣界、水界、及び地球そのもの等につきて研究する學問。
ちひきもの 図道觸神。旅路にて、その行程にあたるものの神。
ちひきもの 図血振。婦人の産後、ちひちひにて、身のふるふる。血振。二人を斬りし後、又につきし血を振りたす。ちひちひ。⑤
ちひきもの 図千重。數多かさなりたること。⑤

のねにな ことつらた、そせすしき、こけきか、木えういあ

ちひきもの 図馳騁。かけまはること。
ちひきもの 図治平。世の治まること。世のただやかなること。太平。治世。
ちひきもの 図地平。地上の平面。
ちひきもの 図治兵。勢揃ひして、出陣すること。「具」。
ちひきもの 図地平經儀。日月、星辰の高度を測る器。
ちひきもの 図地平線。廣き原野ならにて、遙かにながむれば、地と空と接するが如く見ゆる、その境の線。
ちひきもの 図地平鐵道。平地に敷きたる鐵道。
ちひきもの 図池邊。いけのほとり。池上。
ちひきもの 図池邊。いけのほとり。池上。
ちひきもの 図千百秋。かぎりなきし月。⑤
ちひきもの 図智謀。たくみなはかりこと。
ちひきもの 図地細。布帛の織地の細くして、緻密なるもの。
ちひきもの 図蜘蛛。くもの巣。
ちひきもの 図茅卷。籾を、水に浸し、又は糠粉をこねて、蒸し、はせならに巻きたる菓子。昔、端午の節に食するを、例にした。粽。角粽。
ちひきもの 図茅卷馬。端午の節に、飾物とする、茅にて作りたる馬。
ちひきもの 図茅卷笹。くまきさにたなじ。
ちひきもの 図茅卷茅。端午の節に飾物とする、茅を巻きたる茅。
ちひきもの 図地正。東京製のみまめがみ。團扇の裏紙等に用ひたる。

ちひきもの 図岐。一道の分るること。岐路。二にころ。場所。⑤
ちひきもの 図衛神。一器を護る神。道祖神。二深田彦神を申す。
ちひきもの 図血祭。戦争の門出に、いけにへの血を、軍神にさけて祭り、必勝を祈ること。血祭。
ちひきもの 図地祭。家屋を新築する時に行ふ地を祭る地。
ちひきもの 図血祭坊主。昔、諸侯が、平素、食膳を興へて養ひ置き、戦争起つた時に、屠殺して、軍神を祭つたもの。常に御祭す。
ちひきもの 図血眼。血走りたる眼。
ちひきもの 図地廻。一本場より來らして、近所より送り來ること。(米穀、酒類ならに)二常に定まりたる遊廓、又は遊び場所に入り込みて徘徊するわかももの。
ちひきもの 図地廻船。近海の沿岸を往復する船。沿岸航海船。
ちひきもの 図血塗。血に染せこと。ただらけ。膿。
ちひきもの 図血塗。ちまぶれにたなじ。
ちひきもの 図持満。弓を、十分にひきしめること。
ちひきもの 図血迷。烈しき怒り、又は怖れなごのため、心に狂ふこと。ちひまひ。
ちひきもの 図地味。地の質。地の肥瘠。
ちひきもの 図地魅。たま。はげもの。
ちひきもの 図様素。身なりなごをかざらぬこと。になちかならぬ。
ちひきもの 図血道。一血の通ふ道。二ちまよふこと。⑤

をえわわ ろれるりら よゆや もめんむみま ぼへふひは

ちんちん 地道。一順序次第に従ひて、徐徐に進み行くこと。二馬術の語。ちのりにたなじ。三正當の道を守り行くこと。④「ちんちんさふな」
ちんちん ちんちん 一の存す。世に上す。二物事に、熱心になる。感通す。ふける。③
ちんちん 緻密。一きりのこまやかなること。二つまびらかなること。くはしきこと。精細なること。
ちんちん ちんちん ちんちんにたなじ。④
ちんちん 治民。民をすく治むること。
ちんちん 地脈。地層の連りたる筋線。
ちんちん 地蟲。虫の名。一形、いもむしに似て、土中に住む。羽化して、舞なる。二ちまのじまにたなじ。
ちんちん 賃。一錢を出して雇ひ使ふこと。借賃。二労働ならに報ゆる錢。賃錢。
ちんちん 鳩。鳥の名。形、象に似て、色紫黒なり。好みて、穀を食ふ。羽に毒あり。その羽を、酒に浸して呑めば、死すこと云ふ。④
ちんちん 亭。一字の唐音。國中、又は丘陵ならに立つる、小さな家。あつまや。
ちんちん 珍。ゆづらしきこと。また、そのもの。
ちんちん 珍。獸の名。狗の一種。佛林狗。
ちんちん 珍。しづめ。まじり。
ちんちん 珍。天子の御名に代へて、自ら稱へたまふ調。
ちんちん 沈。沈香の香。
ちんちん 陣。一戦争のとき、軍勢を列ねること。いくさごな

へ。二兵士の屯する所。屯營。陣營。陣屋。兵營。
ちんちん 沈痾。何時までも癒えぬ病。痾疾。
ちんちん 塵埃。ちりほり。
ちんちん 鎮壓。たしづむること。力を以て抑ふること。
ちんちん 鎮壓器。物を壓しつくる具。たしづ。
ちんちん 珍異。めづらしきこと。
ちんちん 陣營。軍勢の屯する所。陣所。
ちんちん 塵芥。ちりあかた。ちんちん。
ちんちん 珍香。珍しき香。
ちんちん 沈香。木の名。熱帯地方に産す。幹、柳に似て、葉は、霜を経て枯れす。夏期、白き花を開き、實を結ぶ。その朽ちて、心になれるを、香に用ひ、また器物を造る。④
ちんちん 沈香水。木の名。葉は、柳に似て、秋紅葉落き、葉にて造る。或は木製、紙製になして、漆を塗り、將士の用とするものあり。
ちんちん 陣笠連。下駄の人人、又は人の下駄に立つて、踏足し居るものなり。④
ちんちん 陣貨。價を取りて、物を貸すこと。租料貨。
ちんちん 陣刀。陣中に用ひる長き大刀。いくさがたな。
ちんちん 陣鐘。陣中に用ひる鐘。軍勢の進退を指圖する用なり。
ちんちん 陣具。陣中に、軍勢の駆け引きを指圖するに、吹き用ひる法具。陣具。

ちんちん 陣吉。すんちの器。下總國、上野國の方言。
ちんちん 陣吉。布の財布。武田信玄のつけたる名なりこと。甲斐國、上野國の方言。
ちんちん 沈金。ちんちんにたなじ。
ちんちん 沈銀。價に報ゆる錢。
ちんちん 沈吟。うめくこと。なげくこと。
ちんちん 沈塗。畫模様を、毛判りにして、金粉を込めたる漆なり。多く、琉球より出だす。
ちんちん 沈金彫。ちんちんにたなじ。
ちんちん 塵境。ちんちんにたなじ。
ちんちん 珍客。稀に来る客。珍しき客人。
ちんちん 沈酣。酔ひさらるること。
ちんちん 塵區。この世。塵の世。浮世。
ちんちん 陣具。陣中に用ひる階級の道具。軍用の器具。
ちんちん 珍菓。ちんちんにたなじ。陸奥國の方言。
ちんちん 珍菓。めづらしき木の實。

ちんちん 鎮火。火災の消ゆること。
ちんちん 鎮火祭。ひんせのまつり。
ちんちん 珍玩。珍重してもてあそぶこと。また、そのもの。
ちんちん 塵鏡。うきよ。塵の世。この世。「塵」
ちんちん 鎮經劑。神經の作用の強きを弱むる藥。
ちんちん 鎮痙劑。痙攣を弱むるための藥劑。
ちんちん 聽叫。童子の調。(禮宗に)
ちんちん 陳言。ふるくさきこと。珍しくもなき言辭。
ちんちん 陳立。墨の異名。
ちんちん 陰莖。ちんちん。見供の器。
ちんちん 鎮護。風を鎮め、雨を降らすこと。
ちんちん 陣伍。いくさだて。陣立。隊伍。
ちんちん 塵垢。ひねこめ。
ちんちん 沈香。ちんちんにたなじ。
ちんちん 賃粉切。賃錢を取りて、糊草を切む人。
ちんちん 鎮魂祭。たましづめのまつり。十一月廿二日に執行す。
ちんちん 陣小屋。軍勢の屯する假小屋。
ちんちん 陣。こいねにたなじ。
ちんちん 縮緬。縮緬を、紐の如くくけて中に綿を入れ、左右に、鈴なさをつけたるもの。女の髪飾りに用ひる。
ちんちん 鎮座。神靈の鎮まりいますこと。

ちぢり茶 茶の停止。一時茶するに。差止。多くは、天皇の崩御、親王家の崩去の時に、若干日の間、賜物を差止むるにあり。

ちぢり茶 茶の場師。うきまや。庭作。

ちぢり油 ちぢり油。丁子より製したる油。その香烈し。

ちぢり色 ちぢり色。丁子の實の如き色。淡紅に、黄を帯びたる色。

ちぢり袖 ちぢり袖者。ながさきもの。

ちぢり頭 ちぢり頭。聲心のもえさしつたのつて結ひて、丁子の形をなしたるもの。燈籠。

ちぢり式 ちぢり式。定まりたる儀式。いつものさまり。ごだめさほり。

ちぢり草 ちぢり草。草の名。高さ一尺ばかり。葉は、楕圓形に似て細く、茎、丁子に似たる。紫色の花を明く。

ちぢり娘 ちぢり娘。婦女子を以て稱成したる軍隊。

ちぢり室 ちぢり室。丁子色にそめたるもの。淡黄な色。

ちぢり日 ちぢり日。あらかじめ定めたる日。期日。

ちぢり引 ちぢり引。白地に、茶色の横線を引きたる。襦袢の表を貼るに用ゐるもの。

ちぢり茶字 ちぢり茶字。琥珀織に似たる絹布。西洋より舶来す。

ちぢり丈人 ちぢり丈人。一世をのがれたる賢者。隠者。二轉じて、長老の稱。

ちぢり器 ちぢり器。醫師の、心臓の鼓動の變態を聴くに用ゐる器械。

ちぢり神経 ちぢり神経。音聲を感ずる神経。耳の内部にあり。

ちぢり長者 ちぢり長者。一年うへの人。年長者。長老。二衆人にすくれて、徳望ある人。

ちぢり長者 ちぢり長者。一頭だちたる人。長たる人。二氏の頭。氏の長。三貴の人。有福者。富家。四京都、東寺の住持。五佛教の僧。十種の徳を備へたる人。

ちぢり杖 ちぢり杖者。つるつくひら。こしより。老人。

ちぢり長上 ちぢり長上。長たる人。あうへ。

ちぢり頂上 ちぢり頂上。一いたたき。絶頂。二この上なきこと。最上。飛切。

ちぢり丈尺 ちぢり丈尺。たけ。ながさ。

ちぢり長主 ちぢり長主。ひめみや。内親王。

ちぢり長酒 ちぢり長酒。長き時の間、酒を飲みつづくること。はるること。ふくれあがること。

ちぢり長壽 ちぢり長壽。いのちながきこと。ながいき。長命。長生。

ちぢり聴衆 ちぢり聴衆。ききて。きくひら。聴聞人。

ちぢり聴衆 ちぢり聴衆。ちやうじゆにたなじ。

ちぢり長春 ちぢり長春。一常に春なること。四季共に花のあること。二木の名。薔薇の一種。かうしたはら。「なじ。

ちぢり長春菊 ちぢり長春菊。草の名。ふくじゆさうにたなじ。

ちぢり長春花 ちぢり長春花。草の名。さんせんくわにたなじ。

ちぢり長所 ちぢり長所。他に比較して、最も勝れて居ること。得衆の稱。

のねにな きてつらた そせすしき こけくきか たえういお

ちぢり扇 ちぢり扇。のほす。のび。のび。

ちぢり扇 ちぢり扇。扇をさくこと。公事を観ること。

ちぢり茶日 ちぢり茶日。抹茶をすすむ茶会。

ちぢり打 ちぢり打。うたたて。打。

ちぢり丁敷 ちぢり丁敷。二にて割。

ちぢり長星 ちぢり長星。うきまや。

ちぢり長生 ちぢり長生。ながいき。

ちぢり長嘶 ちぢり長嘶。馬のうつけさまにひななくこと。い。

ちぢり長逝 ちぢり長逝。ちいへに往きて、もろろこと。死。

ちぢり長嘯 ちぢり長嘯。うつけさまにひななくこと。

ちぢり長石 ちぢり長石。六角、又は四角の結晶をなす石。色は、多く白く、また淡紅、淡綠等なるもあり。種類多し。

ちぢり定石 ちぢり定石。園茶の器。打方の規則。

ちぢり定席 ちぢり定席。よせなごの定連の席。「なること。

ちぢり長舌 ちぢり長舌。くちまきにて、人に媚ぶること。便儀。

ちぢり草 ちぢり草。草の名。ほたるたてにたなじ。

ちぢり懐然 ちぢり懐然。憂ひ歎くさまにたなじ。

ちぢり長東流 ちぢり長東流。昔、南梁人の傳へたりといふ馬蹄の一流。



(けうやち)

ちぢり町代 ちぢり町代。徳川時代に、江戸の名主に次ぐ町役人。

ちぢり頂戴 ちぢり頂戴。一いたたき。物を貰ふこと。二物を與へられたることを請ふ時にいふこと。な。

ちぢり帳臺 ちぢり帳臺。家の一室中に、更に、高座を設けて、上に、帳幕を垂れたることを。貴人の座所す。

ちぢり長息 ちぢり長息。なほいき。ためいき。

ちぢり帳臺試 ちぢり帳臺試。五節の舞の下稽古。

ちぢり帳臺夜 ちぢり帳臺夜。帳臺のこころみを行ふ夜。

ちぢり長刀 ちぢり長刀。一通常のより長き刀。二ながなたにたなじ。

ちぢり廳堂 ちぢり廳堂。一廣き座敷。大廣間。二階をとりあつたこと。後所。

ちぢり暢達 ちぢり暢達。のびのびして、はらわらうこと。

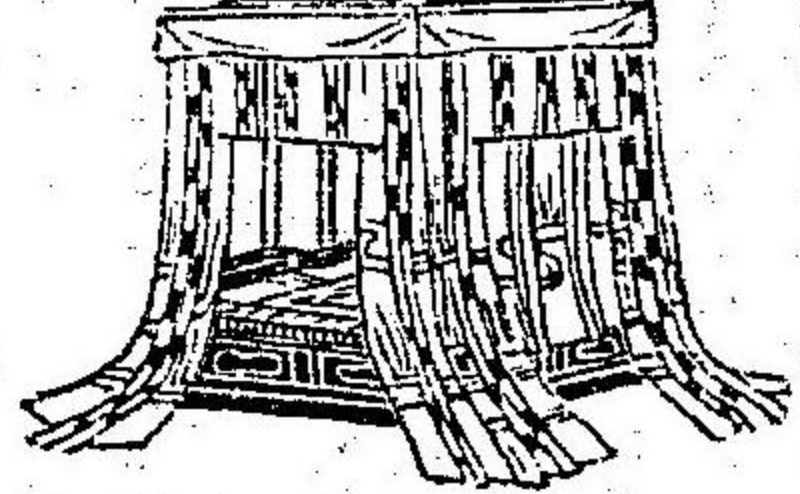
ちぢり長短 ちぢり長短。一ながさき。みじかき。二よしあし。得失。

ちぢり長歎 ちぢり長歎。長く歎息すること。ためいきすること。

ちぢり帳簾 ちぢり帳簾。帳面、金銀なひを入れたる簾。大いさ用簾簾のもの。

ちぢり扇室 ちぢり扇室。初め、全身たたく、頭痛くさむけして、精神朦朧し、終にうはこを發するに至る病。

ちぢり提灯 ちぢり提灯。燈籠を照して、夜行するに掛ふる具。伸縮自在にして、形簡なりに紙にて貼る。



(いだうやち)

をえわ るれるりよゆ もめんむみま ほへふひは

ちやうちんちん 提灯持。提灯をもちて、夜道を案内する従者。二軒まわしに開係すること、又その人。

ちやうちんちん 丁。續けさまに、物を打つ響の形容に、丁。打。

ちやうちんちん 打擲。人を擲つこと。うちたたくこと。

ちやうちんちん 長女。第一の女子。總領嬢。

ちやうちんちん 定使。人に頼まれ、又は郡衙などの雑用を便する小使。

ちやうちんちん 帳付。帳面にしるすこと、また、その人。

ちやうちんちん 丁付。書籍の紙数をしるすこと。

ちやうちんちん 脇詰。親などの脇の中に、野菜などを詰め、蒸し焼きにしたる料理。脇詰。

ちやうちんちん 定詰。役所に詰め切りて居ること。長直。

ちやうちんちん 長程。長きたびち。長途。

ちやうちんちん 長堤。長きつみ。

ちやうちんちん 長亭。長き驛路。なが道中。

ちやうちんちん 丁。物を打つさまに、丁。打。

ちやうちんちん 丁度。一恰もよく。はなよく。二あだかも。三ながら。宛然。

ちやうちんちん 杖頭錢。百錢。銀百文。

ちやうちんちん 帳努掛。一弓矢をかけて飾り置く具。調度掛。二王君の弓矢を執りて従ふ後。

ちやうちんちん 町所。住ひてゐる町。

ちやうちんちん 長尾星。はなはなしたななじ。

ちやうちんちん 長病。ながやまひ。ながわづらひ。

ちやうちんちん 丁百。維新前の錢の助定に、百百に、全く、百文を用ひること。足百錢。(九六百に對して)

ちやうちんちん 長婦。長子の妻。家婦。一十倍。

ちやうちんちん 町歩。田畠の段別を測るに用ひる。一反の

ちやうちんちん 丈夫。ますらを。をこ。をのこ。男子。

ちやうちんちん 定府。徳川時代に、諸國の大小名の、恭勤して、江戸屋敷に居住すること。

ちやうちんちん 丈夫。一身體の壯健なること。二物の堅固なること。

ちやうちんちん 長風。強くより吹きくる風。

ちやうちんちん 長奉送使。昔、幕府の、伊勢に下り給ふを送りたてまつりたる御使。

ちやうちんちん 長物。むだもの。無用の物。贅物。

ちやうちんちん 帳簿。ちやうめんにななじ。

ちやうちんちん 丈母。しうごめにななじ。一本人の妻。

ちやうちんちん 張本。一もこ。たこり。原因。根本。二張ちやうぼんにん 張本人。事を企つるもの發頭人。盜賊などの首領。

ちやうちんちん 丈間。ひろきにたなじ。

ちやうちんちん 錠前。ちやう(錠)にななじ。

ちやうちんちん 帳幔。こほり。たれまく。

ちやうちんちん 服満。水揉液の、腹膜に溜りて、腹滿の、甚

ちやうちんちん 帳綴。帳面をこつること、また、その人。

ちやうちんちん 町内。その町の内。ひこつまち。

ちやうちんちん 帳内。昔家扶、家従、書吏の下にある、親王家の職員。

ちやうちんちん 聴納。きき入ること。承諾すること。

ちやうちんちん 町並。町ならびに。町毎に。

ちやうちんちん 長男。第一の息子。長子。

ちやうちんちん 定日。約束して定めたる日。

ちやうちんちん 町人。町家に住む人。まちびこ。商人。

ちやうちんちん 丁日。偶数の日。ちやうび。

ちやうちんちん 帳場。商店にて、帳附、金錢の出納、助定なること。多くは、低き格子屏風にて圍む。

ちやうちんちん 丁場。一宿野、宿野との間。二みちのり。道

ちやうちんちん 帳望。うらめしげにながむこと。

ちやうちんちん 長方形。横に長く四角なる形。矩形。

ちやうちんちん 長髮。一さかやきを剃らずに、髪を長くせるもの。二凡て、毛髮の長きもの。

ちやうちんちん 丁半。一双六の骰子の目の數の偶數なること。奇數なること。二骰子を用ひて、丁目、半目をいひあつる博奕。

ちやうちんちん 張樊頭巾。頭巾の一種。目にあたる所のみを縫して、全頭巾を包むもの。

ちやうちんちん 丁日。ちやうのひにななじ。

ちやうちんちん 定飛脚。定まりたる飛脚。定まりたる箱馬を、常に往來するもの。

ちやうちんちん 定命。佛敎の語。定まりたる命數。

ちやうちんちん 廳務。門跡の役人。

ちやうちんちん 長命。ながいき。長壽。

ちやうちんちん 長命草。烟草の異名。

ちやうちんちん 帳面。幾枚の紙を綴じて作りたる冊子。物を書きしるす用にす。帳簿。

ちやうちんちん 定免。租税などを、定式にて免すること。

ちやうちんちん 帳面方。商社などに、専ら帳面の記載をつかさどる役員。

ちやうちんちん 帳元。芝居の語。興行權を借りうけたる人。ひきたてきこと。

ちやうちんちん 定紋。その家に定まれる紋所。家紋。

ちやうちんちん 長夜。冬の長き夜。よなが。

ちやうちんちん 長養。そだてやしなふこと。養育すること。

ちやうちんちん 町役。ちやうやくにななじ。

ちやうちんちん 定役。一諸役所の助定方などの下役。二徳川時代に、同心の上には班して、ある役所の雜務をこりたる下役。

ちやうちんちん 町役人。徳川時代に、江戸市中の名主、町代、町年寄などの總稱。

ちやうちんちん 頂禮。禮拜すること。

ちやうちんちん 長老。一年長けて、敬すべき人。先賢。二禪家にて、一寺の住職たるべき資格ある僧。また單に、住職をもいふ。

をふたわ るれるりゆ よゆや もめんむみま ほへふひは

のねにた こてつらた そせすしき こけくきか ねえういあ

ちやうり 馬鹿にする。なぶる。たひやらかす。御拜
ちやうり 張里。うまくすし。馬鞍者。【す。】
ちやうり 長束。【勤修寺、園城寺ならにて、その寺務を
 執する役。二種多の頭。】
ちやうり 髪髭。【八歳の齡。二こも。見供。】
ちやうり 定例。定まりたる例。定式。【来る客。
 ちやうり 定連。【定まれる連中。二客席に、定まりて
 ちやうり 丈六。【長さ一丈六尺ある佛の座像。二あ
 べらかく。二座。】
ちやうり 茶碗。陶磁器にて作りたる茶を呑む碗。
ちやうり 茶請。ちやうりけの類。
ちやうり 茶籃。茶籠を入るるかご。
ちやうり 茶滓。ちやうりになじ。【弄す。】
ちやうり 茶罈。馬鹿にする。ちやうり。ひやかす。嘲
 ちやうり 茶褐色。黒はみたるちやうり。かちん。
 ちやうり 茶釜。釜の一種。口狭く、中ちやうりからに
 して、専ら茶を煎するに用ゐる。かたず。茶鑪。茶鑪。
ちやうり 茶津。茶を煎じ出だしたる津。ちやうり。
ちやうり 茶器。茶の道具。【茶きぎ。
 ちやうり 茶人。衆人の中にて、頭だちたる人。きぎもの。は
 ちやうり 茶巾。茶籠を背へ懸るの布巾。茶籠にて用ゐる。
 ちやうり 茶巾。茶籠を背へ懸るの布巾。茶籠にて用ゐる。

ちやうり 茶巾。蒸したる薩摩手を、楯鉢にてす
 ちやうり 茶巾筒。茶巾を入れ置いたための筒。
ちやうり 茶巾百合。百合を、元料として、ちやうり
 ちやうり 茶着。到着すること。【その處に到
 ちやうり 持茶。常に服用する類。持病なごを治するに用
 ちやうり 着衣。【衣服を着ること。二并用したる衣服。
 ちやうり 着意。心を着くること。きじつこと。着想。
ちやうり 着家。正統の血脈をひきたる家筋。本家。宗
ちやうり 着眼。きかへになじ。【茶。
 ちやうり 着岸。眼の着けさころ。きつつけさころ。着
 ちやうり 着御。身分ある人の、ある場所へ到着した
 ちやうり 着袴。はかまぎ。
ちやうり 着坐。座に就くこと。その場にすわること。着
ちやうり 着想。たもひつき。氣のつけさころ。
ちやうり 着子。本腹の長子。嫡男。
ちやうり 着實。着つきたる。【輕微ならぬこと。
ちやうり 着手。しりかか。【なしはじむること。

のねにな てつちた そせすしは こけくさか ねえういあ

ちやうり 嫡庶。【はなはら。りめかけはら。正妻の子
 ちやうり 着色。いろをりすこと。かろつけ。形
ちやうり 着席。席につくこと。すわること。【色。
ちやうり 着船。船の港に着へること。
ちやうり 着孫。嫡子の嫡子。總孫。
ちやうり 着帯。妾婦が、正徳月日に腰帯を締むること。
ちやうり 着到。たうりやくになじ。
ちやうり 着政。人の足を政。即ち職
 の類にていなき。三四人州連を置く公事。もこ職罪の者を徒
 ちやうり 着距離。遠光の遠すこと。【
ちやうり 着陣。軍隊などの、その場所にゆきつくこと。
ちやうり 着嫡。嫡子より、嫡子に、ついでに茶を
ちやうり 着着。【一歩一歩に。漸進に。ちやうり
ちやうり 着女。本腹の長女。
ちやうり 着一。【すよ。すし。】
ちやうり 着男。總領のちやうり。
ちやうり 着役人。その土地の土着の役人。
ちやうり 着服。ちやうりになじ。【
ちやうり 着腹。脇かに、わが有とすこと。【
 ちやうり

ちやうり 茶座席。茶をたつる座席。ちやうり。【茶座。
ちやうり 茶師。煎茶を製し、又は賣る人。煎茶屋。
ちやうり 茶肆。煎茶を賣る店。煎茶屋。
ちやうり 茶事。茶の湯の技。
ちやうり 茶室。茶の會の座席。かこひ。數寄屋。
ちやうり 茶漉。茶籠ならにつく、煎茶のあか。
ちやうり 茶人。【茶の湯を好む人。二尋常に、異なること
 ちやうり 茶村。【抹茶を搗ひ出だすに用ゐる、小さ
 ちやうり 茶蒸籠。煎茶を蒸し製する具。普通は蒸籠
 ちやうり

をるかわ ろれるり の ゆや もめんむみ ぼへよひは

ちゆうぢゆう 図 仲裁。双方を慰め諭して、その争をなだめること。調停。
ちゆうぢゆう 図 駐在。一處に留まりてあること。駐劄。
ちゆうぢゆう 図 重罪。一たもきつみ。重科。二法律の謂。死刑、有期徒刑、無期徒刑、有期流刑、無期流刑、重懲役、重禁獄、極禁獄の總稱。
ちゆうぢゆう 図 重創。たもて。いたて。
ちゆうぢゆう 図 重着。重箱詰にしたる者。
ちゆうぢゆう 図 駐劄。ちゆうぢゆうて居ること。
ちゆうぢゆう 図 中山國。琉球の別稱。
ちゆうぢゆう 図 中皿。中位の大さの皿。
ちゆうぢゆう 図 中祀。三日間齋齋して行ふまつり。
ちゆうぢゆう 図 忠死。忠義のために死ぬること。
ちゆうぢゆう 図 中止。中途にてやむること。
ちゆうぢゆう 図 中指。なかゆび。五指のうち第三の指。密かに遣はさるる勅使。目をくくること。みつむること。疑視すること。
ちゆうぢゆう 図 注視。陰曆八月の稱。
ちゆうぢゆう 図 仲秋。八月の十五夜の満月。
ちゆうぢゆう 図 中秋。ひるめし。中飯。
ちゆうぢゆう 図 中字銀。えいじぎんにたなご。
ちゆうぢゆう 図 中鉤。かなの一種。
ちゆうぢゆう 図 忠實。まめやかなること。正直。

ちゆうぢゆう 図 中酒。食事の中途に、酒を飲むこと。料理の謂。飲物、口取、離の物、燒酎、又は刺身を供へたる。献立。
ちゆうぢゆう 図 仲春。春の中月、即ち陰曆二月の朔。
ちゆうぢゆう 図 中旬。月の中十日の稱。中流。中流。
ちゆうぢゆう 図 忠純。まこと。
ちゆうぢゆう 図 忠淳。すなはなること。
ちゆうぢゆう 図 中晝。あつさあたり。
ちゆうぢゆう 図 誅勦。ねだやしすること。刈りたすこと。
ちゆうぢゆう 図 忠恕。まことろ、たもひやうり。
ちゆうぢゆう 図 住所。すみか。すまひ。すまひごころ。
ちゆうぢゆう 図 住職。一住持の役目。二轉じて、住持の謂。方丈。
ちゆうぢゆう 図 中書君。筆の異名。
ちゆうぢゆう 図 中書省。中務省の異稱。
ちゆうぢゆう 図 中世。なかむかし。中葉。
ちゆうぢゆう 図 中正。一かたよらぬこと。邪ならぬこと。二取直さぬこと。度にかたよらぬこと。
ちゆうぢゆう 図 中性。化學の謂。酸性をも、あるかり性を有せぬもの。
ちゆうぢゆう 図 中霄。なかぞら。たほぞら。中寮。中寮。
ちゆうぢゆう 図 中宵。よなか。中夜。中宵。
ちゆうぢゆう 図 誅責。せめたたすこと。
ちゆうぢゆう 図 柱石。一はしらごころしすまひ。二柱ごころしすまひ。この如く、大切なるもの。

ちゆうぢゆう 図 忠臣。忠義なる臣。まめやかなるけらひ。
ちゆうぢゆう 図 忠信。心の實を盡すこと。言の實を盡すこと。まめやかなること。
ちゆうぢゆう 図 忠心。まごころを盡す心。
ちゆうぢゆう 図 注心。氣をつくること。「中央」
ちゆうぢゆう 図 中心。一胸のたもひ。衷心。二まんなか。事件を急ぎて、上申すること。急報いけなき人。ごさも。「知。申報。中等の身分ある人。二やや申問ありて、事理を辨へたる人。
ちゆうぢゆう 図 冲人。くりやびご。まかなひかた。料理人。物理學の謂。引力のあつまるごころ。重役を負ふ臣。たもきけらひ。そそぎごころ。
ちゆうぢゆう 図 中傷。同にめて、他人の名譽を傷ふこと。二つに分れたり。二今陸海軍にて、大將の次の武官。
ちゆうぢゆう 図 衷情。まごころ。中情。
ちゆうぢゆう 図 重傷。大なる怪我。たもて。「あまもの」
ちゆうぢゆう 図 重賞。あつき褒美。
ちゆうぢゆう 図 中將某。大將某の次にて、少し簡略なごさあかし。註解。註讀。
ちゆうぢゆう 図 鑰石。鑰物。眞鑰を、自然に合める石。

のねにに きてつちた せせすしき こけくきか ねえういあ

ちゆうたん 厨丁。だいまころかた。こつく。料理人。
ちゆうたん 厨重。てたまきこ。
ちゆうたん 厨中手鞠。木の名。櫻の一種。花の形、てまりに似て、白く、八重なり。
ちゆうたん 厨冲天。天へこびのなるこ。
ちゆうたん 厨中天。なかぞら。中空。半空。中宵。
ちゆうたん 厨中途。一行く路の半。半途。二事をなしかけて、未だ終らぬ間。半途。
ちゆうたん 厨中等。上等の次。なみ。第二等。
ちゆうたん 厨仲冬。陰曆十一月の間。
ちゆうたん 厨中毒。毒性あるものを飲食したるために起る病。よくあたり。
ちゆうたん 厨中途半端。過不及にて後にたたぬこちゆうたん 厨中通。せけんなみ。なみ。中間。
ちゆうたん 厨中納言。昔、太政官に置かれたる官。
ちゆうたん 厨中肉。身體の、肥えも、瘦せもせずして、肉づきの程よきこ。
ちゆうたん 厨中日。佛教の語。佛岸七日の間の真中にあたる日。即ち春分、秋分の日。
ちゆうたん 厨重日。曆の語。己亥の日にあたりて、凶吉凶相半はする時。
ちゆうたん 厨注入。ぞそき入るること。つぎこむこと。
ちゆうたん 厨仲人。ごりなしびご。仲役人。仲保。
ちゆうたん 厨住人。その土地にすまへる人。

ちゆうたん 厨重。重き荷物。たもに。
ちゆうたん 厨住持。その寺の主僧。寺院の住僧。方丈。
ちゆうたん 厨住持奉行。禪宗の寺院の住持に關する件をつかさどる武家の役。
ちゆうたん 厨中着衣。五條の袈裟。
ちゆうたん 厨重。かさねがさね。大に。
ちゆうたん 厨冲。水を穿つ音。
ちゆうたん 厨冲仲。心配するさまにいふ。
ちゆうたん 厨中女。なかの娘。第二女。
ちゆうたん 厨重懲役。法律の語。懲役の重きもの。九年以上、十一年以下。
ちゆうたん 厨忠直。まめやかに、すなはなるこ。
ちゆうたん 厨中腹。怒り易きこ。また、その人。
ちゆうたん 厨中詰。年若き遊女。
ちゆうたん 厨重詰。重箱に詰めたる食物。
ちゆうたん 厨中積。多からず、少なからず、ほごよき見こ。
ちゆうたん 厨中追放。徳川時代の刑。遠島より隠居。
ちゆうたん 厨重追放。徳川時代の刑。中追放より、一層重きもの。
ちゆうたん 厨忠貞。忠義と、貞節と。
ちゆうたん 厨中庭。なかに。

ちゆうたん 厨重任。重き役目。大任。
ちゆうたん 厨中熱。あつさあたり。中暑。
ちゆうたん 厨中年。人の齡のさかんなるころ。壯年。
ちゆうたん 厨中年者。中年より、年期奉公を始めたるこ、また、その人。
ちゆうたん 厨重内。重箱に詰めたる中の品物。重詰。
ちゆうたん 厨重内。芝居なまにて、身を、空中に吊りて、舞を演ずるこ。
ちゆうたん 厨中媒。なかりにたなじ。
ちゆうたん 厨中媒花。植物學の語。蝶、蜂の如き虫類の媒介によりて、花粉を受けて、生殖作用を起す花。
ちゆうたん 厨中保。ごりなし人。仲保。
ちゆうたん 厨重寶。大切なる寶物。
ちゆうたん 厨厨房。くりや。だいご。
ちゆうたん 厨重箱。食物を盛りて、配り物なすするに用ゐる、四角なる深き箱。
ちゆうたん 厨重箱面。四角はりたる顔つき。
ちゆうたん 厨重箱讀。音、讀を混同して讀むこ。
ちゆうたん 厨誅伐。罪あるものをうつこ。
ちゆうたん 厨誅罰。ころしつみすること。誅戮。
ちゆうたん 厨中幅。通常の幅より廣く、大はより、狭き幅。
ちゆうたん 厨中幅帯。中幅の布にて製したる女の帯。
ちゆうたん 厨中半。なかは。半途。

ちゆうたん 厨重版。他人の版權ある書籍なさを、翻かに翻刻すること。偽版。
ちゆうたん 厨厨婢。ねさんさん。下女。厨婦。
ちゆうたん 厨厨婦。くりや女。寮所はたらきの女。
ちゆうたん 厨厨忠字。まごご。忠誠。
ちゆうたん 厨中部。まんなかのこころ。中央の部分。
ちゆうたん 厨中風。血液運行の度を失へるより強すぎん病。多くは身體不隨なる。中症。
ちゆうたん 厨中腹。山の嶺、腹の間の。山腹。
ちゆうたん 厨重服。忌服中に、更に忌服をかされたるこ。
ちゆうたん 厨重母音。母音、母音、かさなりたる音。
ちゆうたん 厨中本。一小判の書籍。二半紙半の書籍。
ちゆうたん 厨住民。その土地に住みてある民。
ちゆうたん 厨注目。目をつくるこ。注視するこ。
ちゆうたん 厨重物。大切なるもの。
ちゆうたん 厨注文。一物を請ふるこつきて、配達なる條件を書きたる書付。三條にて、あつさなるこ。あつさ。

ちやんはん 重牛。はくち。丁牛。
ちやんひびき 重百。ちやんひびきになじ。
ちやんひびき 重徳。あかし。證據になじ。
ちやんちん 重婦。長子の妻。
ちやんちん 重復。同じことのかさなること。
ちやんちん 重兵。國民の満二十歳に達したる男子を徴し、兵役に就かせること。
ちやんちん 重兵適齡。男子の、徴兵となるべき年齢、即ち二十歳。
ちやんちん 重微辟。在野の士を、朝廷へ召し出たすこと。
ちやんちん 重龍壁。氣にいらぬもの。たもひもの。
ちやんちん 重微癖。他人の腹の脹るる病。かめはら。
ちやんちん 重微慕。呼びあつちること。
ちやんちん 重味。こつりしたる味。
ちやんちん 重澄明。水なきのすみわたること。
ちやんちん 重瞳目。眼を細くすること。考ふる時なご(なす)。
ちやんちん 重陽。五節何の。陰曆九月九日の節。重また利をつけてのこと。復利。
ちやんちん 重利。資金の利息を、元金に加へ、その利息に、また利をつけてのこと。復利。
ちやんちん 重女郎。たはれめ。遊女。
ちやんちん 重草石簷。草の名。葉は對生し、秋の頃、梢に穂状の淡紫の花を開く。根は、梅酢ならに漬けて食ふ。
ちやんちん 重女樂。女子の奏する音楽。

ちやんかから 女學校。女子を教育する學校。
ちやんかから 女學生。學問する女。「もの」。
ちやんかから 女千代紙。花紋を溜りたるをがみる女見の弄り。
ちやんかから 猪牙。猪牙の鬃。
ちやんかから 猪牙代木。植物。松の異名。秘藏抄「君がへん八百よりよのためしかなちよきの板に籠すくふなり」
ちやんかから 猪牙船。形、細長き小舟。はしるこを其だ。
ちやんかから 貯金。金貨を貯ふること。また貯入たる金貨。儲金。貯蓄金。
ちやんかから 勅。天子の御言葉。みことごり。
ちやんかから 直。一なほきい。正直。二てがなること。氣がなること。簡易。
ちやんかから 猪口。陶製にて、形小さく、上開き、すすめり。
ちやんかから 直衣。なほしになじ。
ちやんかから 勅意。天子のたほしめり。主上の御意。
ちやんかから 直音。講學の語。講書に對して、その他の音の稱。
ちやんかから 直下。一まつした。さの下。二直ちにくだること。直路にくだること。
ちやんかから 直降。のほりくだり。昇降。「し」。
ちやんかから 直行。客路せず、志す所へ、真直に行くこと。
ちやんかから 直航。他の港へよらず、その目的地へ直ちに到ること。

のほりくだり 志す所へ 真直に行くこと

ちやんかから 直角。數學の語。二直線が、相交りて、生じたる左右の、相等しきもの、即ち九十度の角。
ちやんかから 勅額。天子の御親筆の額面。
ちやんかから 直轄。直ちに支配すること。直轄。直轄。
ちやんかから 勅勅。天子よりの御答。勅命の勅答。
ちやんかから 直諫。愚憚なく諫むること。うちつけに、(おぼし)の。面爭。
ちやんかから 勅許。天子の御ゆるし。勅命の免許。
ちやんかから 直管。ちよくかつになじ。
ちやんかから 勅願。天子の御祈願。
ちやんかから 勅願所。天子の御祈願せられたる所。
ちやんかから 直徑。さしたし。
ちやんかから 直系。祖先より、嫡子相續きて、正しくつながらつること。「社寺」がらつること。
ちやんかから 直言。愚憚なくものいふこと。ありのまにこといふこと。
ちやんかから 勅語。天子の御ことば。みことごり。
ちやんかから 勅祭。勅命によりて行ふ祭事。
ちやんかから 勅裁。天子の御裁判。たぢきさはき。
ちやんかから 勅使。天子よりの御使者。天使。
ちやんかから 直視。真直に見ること。
ちやんかから 勅旨。天子の御せしめの次第。
ちやんかから 直日。宿直の日。當番日。
ちやんかから 直實。すなはてて補材なごり。實直。

ちやんかから 直進。まがらずに進むこと。
ちやんかから 直臣。なほきけらい。ただしき臣下。
ちやんかから 直者。なほき人。正しき人。
ちやんかから 直上。すなはて。まうへ。
ちやんかから 勅授。昔天子の、親しく授けたまはる位、即ち五位以上の稱。
ちやんかから 濁酒。にじりまけ。たくし。
ちやんかから 勅書。勅命の文書。勅狀。
ちやんかから 濁世。佛教の語。濁れる世。この世。人間世界。
ちやんかから 直稅。他人の手をへずして、使用するもの。
ちやんかから 直接。うちつけ。さしつけ。
ちやんかから 勅撰。勅命によりて、書籍をつくること。
ちやんかから 勅宣。天子の御せを著きたるもの。詔書。
ちやんかから 直線。真直なる線。
ちやんかから 勅選議員。華族に非ずして、貴族院第一條四項によりて、勅任せられたる貴族院議員。
ちやんかから 直線形。直線のみにならされて成れる。
ちやんかから 直答。その場にて、直ちに答ふこと。「圖形」。
ちやんかから 勅答。天子の御答。二讀りて、天子の御不問に答へたること。
ちやんかから 直賜。大腸。肛門の間にありて、不消化物を、肛門に送る管。

をさめわ られるりら よゆや もめんむみは ちやんかから

ちんせいのり 勅諭。天子の仰せ。勅命。
 ちんせいのり 勅定。勅命によりて定むること。
 ちんせいのり 勅任。一昔、大納言以上、辨官、諸長官なるを、天子の親しく官に任じ給ひしこと。今は、親任、奏任との間にあり。
 ちんせいのり 勅任官。勅任せらるべき官職、また勅任せられたる官吏。
 ちんせいのり 勅筆。天子の親ら筆をとりて、書きしるしたまふこと。宸筆。
 ちんせいのり 勅封。天皇の命によりて封印すること。
 ちんせいのり 勅伏。かくれひそむこと。
 ちんせいのり 勅儲君。東宮。皇太子。
 ちんせいのり 勅命。天子の仰せ。勅諭。
 ちんせいのり 勅免。ちよきよにたなじ。
 ちんせいのり 勅問。天子よりの御たづねなり。御下問。
 ちんせいのり 勅直夜。こまりはんのよる。
 ちんせいのり 勅約。天子のせさせたまふ約束。
 ちんせいのり 勅直譯。外國文を、その辭句通りに、邦語になすこと。
 ちんせいのり 勅諭。天子よりの御まじ。勅旨。
 ちんせいのり 勅直立。ますぐに立つこと。高さの直儀。
 ちんせいのり 勅令。天子の御名に、御璽を押して、仰せ出ださるる御布令。
 ちんせいのり 勅直隷。直接に、支配せらるること。

ちんせいのり 直直。かりこしにたなじ。
 ちんせいのり 直直。内膳にある。攝政、關白、大臣、大納言などの休息所。
 ちんせいのり 直直。植物。菊の異名。
 ちんせいのり 直直。大内に仕ふる婦人の稱。によくわん。
 ちんせいのり 直直。官に任ずること。
 ちんせいのり 直直。植物。菊の異名。
 ちんせいのり 直直。あね。姉。
 ちんせいのり 直直。陰曆二月の異稱。きささ。
 ちんせいのり 直直。家代のしこと。
 ちんせいのり 直直。女の手仕事。女の職工。
 ちんせいのり 直直。女の、手仕事をすること。
 ちんせいのり 直直。小才のあざむき。
 ちんせいのり 直直。英語 Chocolate、糖に立てて飲むもの。糖。
 ちんせいのり 直直。財産をたくはふること。また、たくはるてある財産。
 ちんせいのり 直直。たくはるをさむること。こまひたむ。
 ちんせいのり 直直。ちよじゆつにたなじ。
 ちんせいのり 直直。著作家。著作をする人。
 ちんせいのり 直直。著作をする人。
 ちんせいのり 直直。執筆の師。わりさん。
 ちんせいのり 直直。皇太子。儲君。

をるわ ろれるり りゆや もめんむみま ほへふひは

ちんせいのり 女子。一をんなのこと。二婦人の總稱。
 ちんせいのり 女師。女の師匠。
 ちんせいのり 女史。學問する女。女學者。
 ちんせいのり 女侍。こしもをんな。
 ちんせいのり 女兒。をんなのこ。女子。
 ちんせいのり 女除日。一年の最終日。大晦日。
 ちんせいのり 女神。女の神。をんながみ。
 ちんせいのり 女著者。ある書物を作りたる人。作者。
 ちんせいのり 女將。女あるじ。
 ちんせいのり 女著述。書物を著はすこと。著作。
 ちんせいのり 女著述家。書籍を作り著はす人。著作家。
 ちんせいのり 女著述者。著述をする人。
 ちんせいのり 女色。女の色香。女の容貌。いろ。
 ちんせいのり 女色。官に任ず。後目につかしむ。
 ちんせいのり 女色。數學の師。計算を行ふ。
 ちんせいのり 女色。たまりみづ。
 ちんせいのり 女貯水池。池を廻りて、水を溜へ置くこと。
 ちんせいのり 女生。女子の學生。
 ちんせいのり 女性。女に生れつきたること。女流。
 ちんせいのり 女婿。風の夫。むこ。
 ちんせいのり 女生徒。ちよがくせい。にたなじ。

ちんせいのり 女婿。めがき。そてがき。
 ちんせいのり 女婿。戸籍簿より、その人の姓名を除き去る。
 ちんせいのり 女婿。植物。菊の異名。
 ちんせいのり 女婿。紙の異名。
 ちんせいのり 女婿。租税を免すること。
 ちんせいのり 女婿。華士族の、罪を犯したる時、その族籍を除き去りて、平民籍となすこと。
 ちんせいのり 女婿。地租を免除せる地所。
 ちんせいのり 女婿。たくはふること。二特に、金銀を溜むこと。
 ちんせいのり 女婿。溜めたる金銀。たくはるがね。
 ちんせいのり 女婿。貯蓄銀行。時時、若干の金を預かりて、年利を拂ひ、ひき出しを請求せらるるまで、積み置くことを、専業とする銀行。
 ちんせいのり 女婿。器量ある女子。をこままり。
 ちんせいのり 女婿。あまたの婦人のうち、二婦人の總稱。三げぢよ。下婢。四官仕へする婦人。
 ちんせいのり 女婿。女中。にようはつにんじに同じ。
 ちんせいのり 女婿。女中衆。一中以下の生活をせる婦人の稱。二他家の下女の稱。女中方。
 ちんせいのり 女婿。猫の前足にて、物をかきよすること。二自己に關係なき事にて、餘計の世話をやくこと。三被ふもの。
 ちんせいのり 女婿。洋服の上着の下に着る衣。袖なく、腰、背のみを被ふもの。

をるわ ろれるり りゆや もめんむみま ほへふひは

つきのほろし 月林。うへびご。月體。①
 つきのひかり 次日。あくる日。明日。翌日。②
 つきのふね 月船。月かげ。月あかり。③
 つきのふね 月船。月の空ゆくさまを、船の水を渡るに見たてていふ。④
 つきのみち 月道。月の光の照せる道。⑤
 つきのみち 月御船。つきのふねにたなじ。⑥
 つきのめり 月都。一月の世界にありこいふ、想像の都。月宮殿。二帝都の美稱。⑦
 つきのめり 月経。つきのさばりにたなじ。⑧
 つきのもの 月輪。つきのさばりにたなじ。⑨
 つきのもの 月輪。一輪月に乗りたる圓形。二安楽の飾りにつく。象牙などにて造る。三座の腰にある。新月形の白き手。四脚にて造れる。五佛教の調。やわつりくわんにたなじ。⑩
 つきは 月橋。つぎたてはにたなじ。⑪
 つきは 月映。月の光の、ひききは隠しく輝きて見ゆる。⑫
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑬
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑭
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑮
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑯
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑰
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑱
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑲
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。⑳

つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉑
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉒
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉓
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉔
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉕
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉖
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉗
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉘
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉙
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉚
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉛
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉜
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉝
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉞
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㉟
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊱
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊲
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊳
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊴
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊵
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊶
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊷
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊸
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊹
 つきは 月橋。處處に支柱をたてて、板をつぎ合せの。㊺

つきのこと 附纏。他人の制を離れやにつきをひて
 つきのこと 月見。月の光を眺め賞する。主に、陰曆の八月十五夜、九月十三夜を、好時節とする。①
 つきのこと 月見草。植物。秋の異名。②
 つきのこと 月見月。陰曆五月の異稱。③
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。④
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑤
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑥
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑦
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑧
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑨
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑩
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑪
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑫
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑬
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑭
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑮
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑯
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑰
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑱
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑲
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。⑳

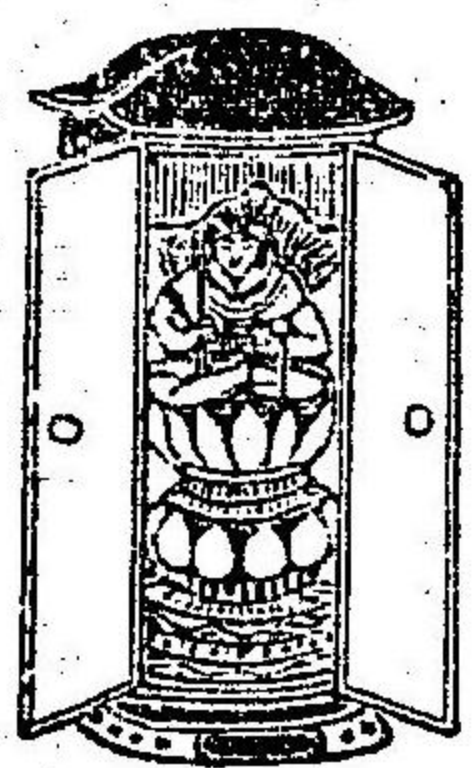
つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉑
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉒
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉓
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉔
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉕
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉖
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉗
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉘
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉙
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉚
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉛
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉜
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉝
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉞
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㉟
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊱
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊲
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊳
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊴
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊵
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊶
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊷
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊸
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊹
 つきのこと 月見月。陰曆八月の異稱。㊺

つひがね 附金。格子より、茶屋へ贈る金。遊廓の贈。
 つひがね 假髪。一かもしにたなじ。二いれにたなじ。
 つひがね 附紙。一さびがみ。附箋。二よしんがみにたなじ。
 つひがね 附木。櫓の材を藤片として、その一端、又は兩端に、硫黄を塗りつけ、火を燃やしつけて、物に移すに用ゐるもの。
 つひがね 附黄楊櫛。つげの材にて、作りたる櫛。外用櫛。
 つひがね 附附薬。肌につくる薬。膏藥、塗藥などの類。
 つひがね 附告口。人の隱事を警告すること。つつけぐも。
 つひがね 附付元氣。強ひて勢を張ること。無理に元氣を引き立つること。
 つひがね 附附込。つげにたなじ。
 つひがね 附附差。返杯するとき、更に別の杯をその人にさすこと。
 つひがね 附附告諭。とまごさす。説諭す。
 つひがね 附附狀。貴人に、奉るごき、憚りて、その家人などに申し入るるやうにする書狀。
 つひがね 附附告知。俗に、つげしらせる。併けて知らせむ。さしらせむ。
 つひがね 附附城。てじろにたなじ。
 つひがね 附附強。馬の進まぬ強あること。
 つひがね 附附添。つけ加ふること。
 つひがね 附附拍子。芝居の語。役者の足拍子に合すること。

つひがね 附附出。一帳面などのしるし始め。二後の分に送りて、しるしつくること。
 つひがね 附附附。一つけ加へたるもの。添へたるもの。二名のみなること。
 つひがね 附附智慧。いれちるにたなじ。
 つひがね 附附所。つかさだちて、物いふさまにいふこと。
 つひがね 附附附。つくること。つけたる位置。
 つひがね 附附漬菜。一團につけたる漬菜。二草の名。たうなにたなじ。
 つひがね 附附根。一板の、幹につながらること。つがひ。二物と物をつぎあはせのまは。
 つひがね 附附直。附直段の琴。
 つひがね 附附直段。買ひ方より定めたる直段。かひね。
 つひがね 附附火。故意に放火したる火事。ひつけ。放火。
 つひがね 附附髭。つくりひげにたなじ。假髭。
 つひがね 附附人。一かしつきにつけ添ふる人。二徳川幕府の時、特に、本家の大名より、別家の大名につけたきたるもの。
 つひがね 附附鬚。假につけたる鬚。つげがみ。
 つひがね 附附紐。見供の衣などにつけたく紐。七歳にて、これを去るを、紐ごきの祝ひらふ。
 つひがね 附附拍子。芝居の語。役者の出入り、立ち廻りの時、拍子木にて、舞臺の板をたたき、役者の足拍子に合すること。

つひがね 附附札。物の上しに附くる札。「遊書」
 つひがね 附附文。「さしつけて贈る文の意」いさみのふみ。
 つひがね 附附髭。地毛にて、髭を結ぶかほりに、別につくつて、頭に敷する髭。
 つひがね 附附豆。漬物にしたる豆。
 つひがね 附附着本。物の、他の物につきたる元のころ。ねまひ。
 つひがね 附附漬物。蔬菜を、鹽、又は糠に漬けたるもの。香のもの。かうかう。漬。
 つひがね 附附選物。祭のごき出だすなりもの。
 つひがね 附附附焼。鹽油をつけて焼くこと。また、その焼きたるもの。
 つひがね 附附付焼刃。いれちるにたなじ。
 つひがね 附附月際。一月の光の、全くかけて、影なくなること。二陰曆にて、月の三十日。みそか。
 つひがね 附附降頃。月の終りの頃。
 つひがね 附附徒罪。五刑の一。流罪より軽く、年を定めて使役せらるるもの。
 つひがね 附附頭瘡。瘡の一。頭上に發するもの。
 つひがね 附附杜撰。著述、なまに、突りに、典故、出處なき文字を用ゐること。妄撰。
 つひがね 附附地。つちをいふ。東國の古の方言。
 つひがね 附附辻。一踏の、四方に通じたるころ。ちまた。十字街。二踏た。街上。
 つひがね 附附旋毛。つむじの髭。

つひがね 附附厨子。一衣服。調度などを入れたく。多くは舞戸あり。二佛像を安置する。小さき室の如きもの。
 つひがね 附附途子。こみち。
 つひがね 附附なひ附辻商。大道あきなひ。つじりり。
 つひがね 附附辻占。昔、辻に立ち居て、往來の人の依頼に應じ、その人の吉凶を占ひしこと。二種種の情歌、又は語句な心をししたる。小さき紙を菓子の中に挿みたるもの。
 つひがね 附附辻賣。つじあきなひにたなじ。
 つひがね 附附辻講釋。路頭にたち、軍談、説教などして、往來の人に聴かしむること。大道講釋。
 つひがね 附附旋風。つむじかぜにたなじ。
 つひがね 附附辻固。市中の辻に備ふる鞆。
 つひがね 附附躑躅花。つじじの花。
 つひがね 附附圖式。つじりにたなじ。
 つひがね 附附辻君。よたか。やぼち。つじく。
 つひがね 附附辻斬。夜中、路傍に待ちふせして、不意に、來かかると人を斬ること。
 つひがね 附附辻車。辻にて、客待ちをして居る人力車。
 つひがね 附附辻酒宴。辻にてなす酒宴。のさかもり。
 つひがね 附附辻芝居。辻にて行ふ芝居。



(しづ)

つたはる 圖 辻相撲。一定の場所にあつて、辻にてさる。
 つたはる 圖 辻堂。辻に建てたる佛堂。「角力」。
 つたはる 圖 辻立。辻に、人の群集してあること。
 つたはる 圖 草薙。草の名。よくいにたなじ。
 つたはる 圖 辻談義。昔、江戸市中の四辻なるもの、往來
 繁きところにて、談義なして、通行人に聞かしたるもの。
 つたはる 圖 足音高く、尊大に擧げて、踏みゆく音にいふ。
 つたはる 圖 辻馬車。辻に停車して、往來の人に、乗
 車を勧むる馬車。
 つたはる 圖 辻番。一つはんしよにたなじ。二辻番所に
 居て、番する人。三相製なるあんくわ。
 つたはる 圖 辻番所。昔、江戸の屋敷町の所所に立て
 たる番所。
 つたはる 圖 辻番人。辻番所を守る人。
 つたはる 圖 厨子佛。厨子の中に安置せる佛。
 つたはる 圖 對馬桐。木の名。いさきにたなじ。
 つたはる 圖 對馬祭。辻にて行ふ祭。
 つたはる 圖 對馬碓。あはせ碓の一種。鶏肝石。
 つたはる 圖 辻店。路はたに設け開きたる商店。大道みせ。
 つたはる 圖 腫。はれあがる。
 つたはる 圖 重き物の落ちたる響きにいふ。
 つたはる 圖 頭上。あたまのうへ。あたま。
 つたはる 圖 通障子。大なるついたて障子に、簾をかけ
 たるもの。

つたはる 圖 心算かじ。値みぶかく。
 つたはる 圖 辻社。路傍にまつれる社。
 つたはる 圖 圖書。圖書、書物。二所蔵の書籍。藏書。
 つたはる 圖 圖書館。圖書を、數多く集めたきて、公
 衆の閲覧に供するところ。
 つたはる 圖 圖書寮。朝廷の藏書、御記録物などの保存、
 校寫などの事を司る役所。
 つたはる 圖 蕩。草の名。鬚根を以て、からみつく。葉は、互生
 し、三尖にして、無齒あり。夏、小さき淡黄色の花を開く。實
 は、圓く小さく、堅すれば、紫黑色になる。その紅葉は美なり。
 地錦。鳥糞母。蕩。二蕩の葉をえがきたる紋所。
 つたはる 圖 沙莎。塵土に雜入して、乾きたるもの、その壁の龜裂
 せざるために、つなぎとするもの。すさ。
 つたはる 圖 頭陀。「梵語」僧の、ゆくゆく、食を乞ひながら、野伏
 なして、修行をなすこと。又その僧。雲水。行脚。抖擻。
 つたはる 圖 蕩漆。草の名。蕩の如く、木石にまつはり
 つきて長ず。夏、黄白色の花を開き、實を結ぶ。
 つたはる 圖 津出。荷物の出港すること。船にて、貨物を輸出
 すること。
 つたはる 圖 寸断。きれきれに、寸断。
 つたはる 圖 寸断。つたはるの寸断。
 つたはる 圖 拙。俗に、つたはる。「巧ならずあり。鈍し。
 下手なり。二運わるし。不仕合せなり。さう少し。三癖性な
 り。性癖なり。怯。

のねかにな てつちた そせすしき こけきか たえういあ

つたはる 圖 傳。一後の世に移り来る。二物に浴びて、位
 頭を變ず。
 つたはる 圖 傳。名詞に添へて、その物を傳ひゆく事を示す
 に用ひる。
 つたはる 圖 傳。物が、他の物に浴びて、位頭を變ず。つた
 はる。圖 傳。俗に、つたはる。傳はらしむ。
 つたはる 圖 頭陀袋。一頭陀の僧の、雑具を入れて、頭
 にかくる袋。二死者を、棺に収むるさま。六道銭の形紙、その
 他の物を入れて、頭にかくる袋。
 つたはる 圖 傳。傳ふること。うけ継ぎ来ること。
 つたはる 圖 傳聞。一他より聞く。つたはるに聞く。二
 以前より、耳にす。
 つたはる 圖 傳授。俗に、つたはるにさづける。教へ
 につたはる。
 つたはる 圖 傳話。語り傳へたる話。いひ傳へる話。
 つたはる 圖 嘔吐。見供の、乳を餘して吐くこと。
 つたはる 圖 漂。さまよふ。ただよふ。
 つたはる 圖 土。一地球の表面を被る柔きもの。草木の、根を
 托せるところ。二この、地球全體の稱。地。
 つたはる 圖 土。一物を打ちたたたく道具。柄のさまに、頭を横に
 つけたるもの。二種の形したる紋所。
 つたはる 圖 土穴。土を掘り穿ちたる穴。窰。
 つたはる 圖 土忌。陰陽家の語。土を忌む日。
 つたはる 圖 土色。土のこげき色。黒はみたる赤色。
 つたはる 圖 土籃。土を運ぶ籠。箕。

つたはる 圖 土倉。一地を穿ちて造れる倉。あなぐら。窰。
 二土にて造りたる倉。土窰。
 つたはる 圖 土車。入つの小車を環狀に列べ、その中程
 に一つの環を設きたる紋所。
 つたはる 圖 土塊。一土のかたまり。二墓をいふ。窰宮の
 土。
 つたはる 圖 土黒。俗に、つたはる。土の色の如く
 黒し。
 つたはる 圖 土烟。竈立てられ、又は風に吹き上げられ
 たる土砂の、煙の如く見ゆるもの。
 つたはる 圖 土捏。一堅土を捏る人。左官。二左官の堅土
 をこねるに用ゐる道具。
 つたはる 圖 土細工。土にて製作せる物。
 つたはる 圖 土裂。俗に、つたはる。早いため
 地の表面が龜裂す。

をふるわ りれるりら よゆや もりんむみま にへふひは

